

分布調査報告書(30)

2004

山形県教育委員会

分布調査報告書(30)

平成16年3月

山形県教育委員会

序

本書は、山形県教育委員会が平成14年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものです。

第四次山形県教育振興計画の「感性豊かな教育と文化的創造」をテーマとし、その中で、文化財の保存と活用については、文化財基礎調査や遺跡詳細分布調査を計画的に実施すること、埋蔵文化財基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知の徹底・普及に務めることが大きな柱とされました。この中で埋蔵文化財の周知に欠かせない台帳整備も平成12年度までに終了し、完全とまではいかないまでもデジタル化による周知システムを発足させたところです。

遺跡詳細分布調査は周知の埋蔵文化財包蔵地や未発見のままとなっている埋蔵文化財包蔵地と各種の開発計画との調整資料を得るために実施しておりますが、この調査により、埋蔵文化財包蔵地の従来の情報を変更する必要が生じます。本書は、CDで配布いたしました埋蔵文化財情報システムの内容を一部改訂し、新情報をお知らせするものでもあります。開発計画の策定にあたり活用していただければ幸いです。

平成16年3月

山形県教育委員会

教育長 木村 宰

例　　言

- 1 本書は平成14年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成14年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査（県内遺跡発掘調査）の報告書である。なお、成果がまとまつた平成13年度の録保存調査の記録も収録したが、平成14年度に記録保存調査を実施した遺跡で、報告を次年度以降とせざるを得なかつた遺跡もある。
- 2 本書の作成は山形県教育庁社会教育課文化財保護室の渋谷孝雄、名和達朗、佐藤正俊（平成14年度担当者）と長橋　至（平成13年度担当者）があたり、名和がⅡ-2の(1)、(2)、(11)、(14)～(17)を、佐藤がⅡ-3の(2)を、長橋がⅡ-3の(1)を、その他を渋谷が分担した。
- 3 第Ⅰ章に平成14年度の調査遺跡一覧を、第Ⅱ章に個々の調査結果を記した。また、Ⅲ章には調査結果をまとめるとともに、平成12～14年度に国等の機関や市町村教育委員会、地権者から、通知または届出があった新規発見遺跡の一覧を示した。平成14年度までの新規発見遺跡、登録抹消遺跡、範囲・位置の変更については本書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。遺跡地図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。なお、第Ⅱ章-2、3ではこれを縮小して使用した。使用地図の図幅一覧は巻末に掲載した。
- 5 挿図及び文中の記号は以下のとおりである。

T、TTは試掘溝、TP、□は試掘溝を表す。図中の赤色部分は遺構・遺物が検出されたことを示し、黒色部分は遺構・遺物が未検出であることを示す。
遺跡位置図の赤色部分は遺跡の範囲を示す。
S T-竪穴住居跡、S B-建物跡、S K-土坑、S D-溝跡、E B-掘り方、E P-柱穴、S X-性格不明落ち込みを示す。
- 6 図版の遺物は2分の1を原則としたが、若宮遺跡の土師器は任意縮尺である。
- 7 調査にあたつては、関係各機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者のご協力を得た。ここに、記して感謝申し上げる。

目 次

I 調査の目的、方法と経過	
1 調査の目的、方法	1
2 調査の経過	1
II 遺跡地名表	
1 遺跡地名表	
(1)県農林事業関係遺跡	4
(2)県土木事業関係遺跡	4
(3)県総務部事業関係遺跡	6
(4)県企業局事業関係遺跡	6
(5)国土交通省事業関係遺跡	6
(6)日本道路公団事業関係遺跡	6
2 試掘調査の概要	
(1)小反遺跡	18
(2)上野遺跡	24
(3)小平2遺跡	30
(4)小平3遺跡	32
(5)小平4遺跡	34
(6)若ヶ山遺跡	36
(7)滝ノ沢山遺跡	38
(8)北向遺跡	40
(9)梅野木前1遺跡	50
(10)高瀬山遺跡	52
(11)西向遺跡	54
(12)空沢(高麗)遺跡	58
(13)地坂台遺跡	64
(14)鶴の木館跡	66
(15)百畠田遺跡	70
(16)西中上遺跡	76
(17)六角壇遺跡	80
3 記録保存調査の概要	
(1)若宮遺跡	84
(2)台の上遺跡	94
III まとめ	
1 調査遺跡について	
2 新規登録遺跡および記載事項変更遺跡、登録抹消遺跡	
(1)県教育委員会が発見し登録した遺跡	116
(2)国等の機関、市町村教育委員会からの通知、 地権者からの届出で登録した遺跡	116
(3)範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡	117

附表目次

表-1	平成14年度分布調査遺跡一覧	2
表-2	平成14年度県内遺跡分布・試掘調査工程表	3
表-3	台の上遺跡検出柱穴・土坑一覧	98
表-4	掲載遺跡位置図使用図幅一覧（2万5千分の1）	120
遺跡地名表挿図・図版目次		
遺跡地名表	位置図・図版 1 県農林事業関係遺跡	8
遺跡地名表	位置図・図版 2 県農林事業関係遺跡	9
遺跡地名表	位置図・図版 3 県農林・土木事業関係遺跡	10
遺跡地名表	位置図・図版 4 県土木事業関係遺跡	11
遺跡地名表	位置図・図版 5 県土木事業関係遺跡	12
遺跡地名表	位置図・図版 6 県土木事業関係遺跡	13
遺跡地名表	位置図・図版 7 県土木事業関係遺跡	14
遺跡地名表	位置図・図版 8 県土木事業・総務部事業・企業局事業関係遺跡	15
遺跡地名表	位置図・図版 9 県企業局・国土交通省事業関係遺跡	16
遺跡地名表	位置図・図版 9 国土交通省事業・日本道路公团事業関係遺跡	17

挿図目次

第1図 小反遺跡概要図	18
第2図 小反遺跡試掘坑平面図、断面図（1）	19
第3図 小反遺跡試掘坑平面図、断面図（2）	20
第4図 小反遺跡試掘坑平面図、断面図（3）	21
第5図 上野遺跡概要図	24
第6図 上野遺跡試掘溝、坑平面図、断面図（1）	25
第7図 上野遺跡試掘溝、坑平面図、断面図（2）	26
第8図 上野遺跡試掘溝、坑平面図、断面図（3）	27
第9図 上野遺跡試掘溝、坑平面図、断面図（4）	28
第10図 小平2遺跡概要図	30
第11図 小平3遺跡概要図	32
第12図 小平4遺跡概要図	34
第13図 茗ヶ山遺跡概要図	36
第14図 滝ノ沢山遺跡概要図	38
第15図 北向遺跡概要図	40
第16図 北向遺跡試掘溝平面図、断面図（1）	41
第17図 北向遺跡試掘溝平面図、断面図（2）	42
第18図 北向遺跡試掘溝平面図、断面図（3）	43
第19図 梅野木前1遺跡概要図	50
第20図 高瀬山遺跡概要図	52
第21図 西向遺跡概要図	54
第22図 西向遺跡試掘溝平面図	55
第23図 西向遺跡試掘溝断面図	56
第24図 空沢（高裁）遺跡概要図	58
第25図 空沢（高裁）遺跡試掘溝平面図、断面図	59
第26図 地坂台遺跡概要図	64
第27図 鶴の木館跡概要図	66
第28図 鶴の木館跡試掘溝平面図、断面図	67
第29図 百刈田遺跡概要図	70
第30図 百刈田遺跡試掘溝平面図（1）、断面図（1）	71
第31図 百刈田遺跡試掘溝平面図（2）	72
第32図 百刈田遺跡試掘溝断面図（2）	73
第33図 西中上遺跡調査概要図	76
第34図 西中上遺跡試掘溝平面図	77
第35図 西中上遺跡試掘溝断面図	78
第36図 六角墳遺跡概要図	80
第37図 六角墳遺跡試掘溝平面図、断面図	81
第38図 若宮遺跡概要図	84
第39図 若宮遺跡造構配置図	85
第40図 若宮遺跡S B 1、2、3造構平面図、土層断面図	90
第41図 若宮遺跡S K87平面図、土層断面図	91
第42図 若宮遺跡出土土器実測図	91
第43図 台の上遺跡概要図	94
第44図 台の上遺跡造構配置図	95

第45図	台の上遺跡検出造構平面図、断面図（1）	97
第46図	台の上遺跡検出造構平面図、断面図（2）	99
第47図	台の上遺跡検出造構平面図、断面図（3）	101
第48図	台の上遺跡検出造構平面図、断面図（4）	102
第49図	台の上遺跡検出造構平面図、断面図（5）	103
第50図	台の上遺跡出土土器拓影図（1）	105
第51図	台の上遺跡出土土器拓影図（2）	106
第52図	新規登録遺跡位置図（1）	118
第53図	新規登録遺跡位置図（2）	119

図版目次

図版 1 小反遺跡（1）	22
図版 2 小反遺跡（2）	23
図版 3 上野遺跡	29
図版 4 小平 2 遺跡	31
図版 5 小平 3 遺跡	33
図版 6 小平 4 遺跡	35
図版 7 茅ヶ山遺跡	37
図版 8 滝ノ沢山遺跡	39
図版 9 北向遺跡（1）	44
図版10 北向遺跡（2）	45
図版11 北向遺跡（3）	46
図版12 北向遺跡（4）	47
図版13 北向遺跡（5）	48
図版14 北向遺跡（6）	49
図版15 梅野木前 1 遺跡	51
図版16 高瀬山遺跡	53
図版17 西向遺跡（1）	56
図版18 西向遺跡（2）	57
図版19 空沢（高巣）遺跡（1）	60
図版20 空沢（高巣）遺跡（2）	61
図版21 空沢（高巣）遺跡（3）	62
図版22 空沢（高巣）遺跡（4）	63
図版23 地坂台遺跡	65
図版24 鶴の木館跡（1）	68
図版25 鶴の木館跡（2）	69
図版26 百刈田遺跡（1）	74
図版27 百刈田遺跡（2）	75
図版28 西中上遺跡	79
図版29 六角壇遺跡（1）	82
図版30 六角壇遺跡（2）	83
図版31 若宮遺跡（1）	89
図版32 若宮遺跡（2）	90
図版33 若宮遺跡（3）	91
図版34 若宮遺跡（4）	92
図版35 若宮遺跡（5）	93
図版36 台の上遺跡（1）	107
図版37 台の上遺跡（2）	108
図版38 台の上遺跡（3）	109
図版39 台の上遺跡（4）	110
図版40 台の上遺跡（5）	111
図版41 台の上遺跡（6）	112
図版42 台の上遺跡（7）	113
図版43 台の上遺跡（8）	114
図版44 台の上遺跡（9）	115

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成14年度以降に予定されている開発計画に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、今年度までの調査結果に基づき、記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会いの調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

（1）A調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

（2）B調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

（3）C調査（記録保存のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

（4）立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年5～6月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、7月上～中旬に聽き取りを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査に基づく調査も隨時行っている。平成14年度の調査は表-1に示した各遺跡の調査を平成14年4月から平成15年3月まで表-2の工程で行うと共に、事業予定期内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も実施した。

なお、平成14年度に県教育委員会が新たに発見した遺跡（平成14年度登録遺跡）、範囲等を訂正した遺跡、登録を抹消した遺跡は、Ⅲ章のまとめに示した。

表-1 平成14年度分布調査遺跡一覧

No	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分				備考
				A	B	C	立会	
1	県営は場整備事業 県営は場整備事業	桂川左岸地区 桂川左岸地区	小反 上野	○ ○				範囲修正 新規
2	相い手育成高度利用型	天童東部地区	湯尻		○			
3	中山間地域総合整備事業ふじの里東部	ふじの里東部地区	鷺煙B	○				
4	農村自然環境整備事業 農村自然環境整備事業 農村自然環境整備事業	山辺西部地区 山辺西部地区 山辺西部地区	横断的場 蓮台寺 玉虫沼B	○ ○ ○	○			
5	ため池整備事業 ため池整備事業 ため池整備事業	東根市日塔地区 東根市日塔地区 東根市日塔地区	日零B 塔案 女五郎清水	○ ○ ○				
6	畠地総合整備事業	鹿島石持地区	箕輪上屋敷	○			○	
7	広域營農団地農道整備事業 広域營農団地農道整備事業 広域營農団地農道整備事業 広域營農団地農道整備事業 広域營農団地農道整備事業	抱海中央地区南北線 抱海中央地区南北線 抱海中央地区南北線 抱海中央地区東西線	小平2 小平3 小平4 苦ヶ山	○ ○ ○ ○	○ ○ ○			新規 新規 新規 新規
8	農免農道整備事業	佐佐町宮平Ⅱ期	宮山坂F	○	○			
9	都市計画街路事業加茂羽黒橋線 ・最上川ふるさと公園事業	鶴岡市馬場町 寒河江市高瀬山	鶴ヶ岡城 高瀬山		○ ○	○		
	都市計画街路東原村木沢線	山形市香澄町	山形城三の丸			○		
10	一般県道東山七浦線道路改良 臨時道路整備事業一般県道東山七浦線 緊急地方整備事業一般県道大野目内表線 一般県道滋賀夢草車場長谷堂線 一般県道上山七ヶ宿線 道路改築一般国道287号和合バイパス 国道344号特殊改良1種 道路改築国道287号・荒砥丁線 道路改築国道287号長井南バイパス 道路改築国道288号長井南バイパス 道路改築国道287号長井南バイパス 主要地方道川西小国線 主要地方道川西小国線 主要地方道菅野代堅若沢線 主要地方道菅野代堅若沢線	山形市青柳地内 山形市橋山地内 山形市江保地内 山形市松原地内 上山市橋下地内 朝日町和合地内 真室川町秋山地内 白鷗町荒砥地内 長井市歌丸地内 長井市今泉地内 小国町大石沢地内 小国町大石沢地内 温海町戸沢地内 温海町戸沢地内	大明神 北向 梅野木前1 横手区 台之上 大隅 瀧ノ沢山 荒砥城 源徳原館 蛇崩廻路 今泉金山廻路 胡桃平I 胡桃平II 戸沢 赤松	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			範囲修正 新規
11	謹気川消流雪用水導入事業 降矢川謹時河川整備事業 灯台下急傾斜地崩壊対策事業法杵工	尾花沢市尾花沢地内 鶴岡市中山地内 鶴岡市由良地内	赤森山遺跡 西向遺跡 由良館	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○	新規
12	旧県立中央病院解体	山形市桜町	山形城三の丸				○	

No	事業名	事業地区名	道路名	調査区分			備考
				A	B	C	
13	置賜広域水道用水供給事業 新野川第一発電所建設事業	米沢市塩沢地内 長井市野川地内	下 藤 空沢（高麗）	○	○	○	名称変更
14	国 道 13号 尾花沢新庄道路 国 道 13号 主 寮 板 道 路 国 道 13号 赤 湯 バイ パス 国 道 113号 赤 湯 バイ パス 国 道 113号 赤 湯 バイ パス 国 道 113号 赤 湯 バイ パス 横 川 ダ ム 建 設 工 事	尾花沢市萩袋 真室川町及位 金山町中田 金山町中田 金山町中田 南陽市中野目～高槻 南陽市中野目～高槻 南陽市中野目～高槻 南陽市中野目～高槻 小国町叶水	下 川 原 新 及 位 高 堂 館 下 中 田 地 坡 台 鶴 の 木 館 百 刈 田 六 角 壇 西 中 上 小 叶 水	○	○	○	範囲修正 新規 新規 範囲修正 範囲修正 新規 範囲修正 範囲修正 ○
15	東北中央自動車道福島米沢間	米沢市伴山地区	川越石土堆	○			登録抹消

表-2 平成14年度県内遭跡分布・試掘調査工程表

事業名	平 成 14 年												平成15年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
農林・土木事業関係他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
東北中央自動車道 相馬～尾花沢間関係									-						
平成15年度以降の埋蔵文化財包蔵地 に關わる開発事業計画の籍き取り					-										
遺 物 資 料 整 理															
報 告 書 原 稿 作 成															

II 調査の概要

1 遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	散布地	鳴 烟 B	東田川郡藤島町鳴烟西山4-125他	縄文時代 平安時代	台 地 (21~23m)	果樹園 畠地
2	散布地	日 塔 B	東根市大字東根日塔	縄文時代 (後期)	扇状地 (102m)	果樹園
3	散布地	塔 楽	東根市大字東根字塔楽2518他	縄文時代	扇状地 (120m)	果樹園
4	散布地	女 五 郎 清 水	東根市大字東根字女五郎清水9298	縄文時代	扇状地 (130m)	山林地 果樹園
5	城館跡	笠 輸 上 屋 敷	寒河江市笠輸	中 世	山麓 (120m)	果樹園
6	散布地	宮 山 坂 F	鮑海郡遊佐町大字吉出字宮山坂71他	旧石器代	台 地 (83m)	畠地
7	散布地	玉 虫 沼 B	東村山郡山辺町大字根跡	平安時代	山頂 (462m)	山林
8	集落跡	蓮 台 寺	東村山郡山辺町大字大寺字蓮台寺	弥生時代 平安時代	台 地 (133m)	学校敷地

(2) 県土木事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
9	包藏地	大 陽 隅	西村山郡朝日町大字和合字大隅307	旧石器代	段丘 (144m)	宅地 畠地 果樹園
10	城館跡	荒 と 城	西置賜郡白鹿町大字荒紙甲八幡他	中 世	独立丘 (218m)	境宅畠 内地
11	生產跡	今 泉 金 山 窯	長井市今泉字金山	平安時代	山麓 (220m)	山林
12	生產跡	蛇 崩 窯	長井市今泉字蛇崩	平安時代	山麓 (223m)	山林
13	城館跡	源 德 原 韶	長井市河井字若宮前	戦国時代	平地 (209m)	畠地 水田
14	散布地	胡 桃 平 I	西置賜郡小国町大字大石沢字胡桃平	縄文時代	山麓 (230m)	原山 野林
15	散布地	胡 桃 平 II	西置賜郡小国町大字大石沢字馬場	縄文時代	自然堤防 (219m)	畠水 地田
16	散布地	戸 沢	西田川郡温海町大字戸沢字早99他	縄文時代	山麓斜面 (95m)	畠地
17	散布地	赤 松	西田川郡温海町大字戸沢字赤松39他	縄文時代	山麓斜面 (95m)	畠地
18	集落跡	大 明 神	山形市大字青柳字大明神	奈良時代 平安時代	平地 (107m)	水田

遺跡概要	出土遺物	備考
羽黒町役場の北東4.5kmに位置し、丘陵端に立地する。工事は現道内の盛土となることを確認。	なし	No1726
東根市役所の北東約2.5kmに位置し、日塔川の形成した扇状地に立地する。今回の現地確認の踏査では遺物は採取されなかった。	なし	No680
東根市役所の北東約3.3kmに位置する日塔B遺跡の700m上流部に所在する。今回の踏査では遺物は採取されなかった。	なし	No681
東根市役所の北東約3.6kmに位置する塔森遺跡の上流250mに所在する。畑地内に遺物の散布が確認された。	削器	No682
寒河江市役所北西約4kmの山麓に位置する。試掘調査の結果、近年の埋立造成の切妻が大きく、中世の遺構は確認できなかった。	なし	山形県中世城跡調査報告書206~23。平成15年2月試掘調査。
JR羽越本線遊佐駅の北東約3.6kmの台地上に立地する。畑地で細石刃他が採取されたが、試掘坑は擾乱が著しく、遺物は出土しなかった。	細石刃、剥片	No2142 平成14年12月県教委試掘調査実施。
JR左沢線羽前山辺駅の南西約5.6kmにあるため山「玉虫沼」湖畔に立地する。今回の駐車場整備地区の試掘で遺構・遺物は未検出。	なし	No385 平成14年12月県教委試掘調査実施。
JR左沢線羽前山辺駅の北西約1.4km、旧大寺小学校跡地に所在する。工事箇所の多くは学校建設で大きく擾乱されていることが判明した。	須恵器	No347 平成14年12月県教委試掘調査実施。

遺跡概要	出土遺物	備考
朝日町役場の北東約44kmの最上川右岸の段丘に立地する。旧石器出土地の東側の一段低い段丘上の試掘地点では、遺構・遺物は未発見。	なし	No531 平成14年6、7月県教委試掘調査。
フラーー長井線荒砥駅の南東にある丘陵頂部を本丸とする城跡で、今回、依頼のあった地区は城下部分の低地で城外と判断された。	なし	山形県中世城跡調査報告書402-024
JR米坂線今泉駅の北東1kmに位置する。長井市教委の調査で国道バイパスに隣接する地区で窯跡の存在を示す遺物が出土している。	なし	長井市遺跡地図119
JR米坂線今泉駅の北東1.1kmの丘陵斜面に立地する。長井市教育委員会の試掘調査で路線内で窯跡が確認された。	須恵器片	長井市遺跡地図116
JR米坂線今泉駅の北東1.4kmの平地に所在する。土塁と堀が現存するが、国道バイパスは、遺跡に隣接する。	なし	山形県中世城跡調査報告書209-094
叶水小学校の南東約2.7kmの丘陵上に立地する。過去に縄文時代の遺物が採集されているが、現在は荒地となり、散布状況を確認できない。	なし	平成14年度登録。
胡桃平I遺跡の台地下に隣接し、大石沢右岸の自然堤防上に立地する。畑地内に剥片が散布している。	剥片	平成14年度登録。
山戸小学校の南東1.5kmの北に延する舌状の山麓斜面に立地する。遺跡地図記載地の西側丘陵で遺物の散布を確認した。	縄文土器片・石鉋	No1972 遺跡位置要訂正。
山戸小学校の東南東2km、五十川右岸の山麓部に立地する。畑地内に石斧を採取した。	磨製石斧	平成14年度登録。
JR奥羽本線南出羽駅の東約100mに位置する。遺跡の西側の範囲を捉える試掘調査では、遺構遺物とも検出されなかった。	なし	No143 平成14年11月県教委試掘調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
19	散布地	横手区	山形市大字松原字横手	縄文時代 古墳時代 中世	平地 (120m)	工場用地 宅地
20	城館跡	山形城三の丸	山形市香澄町	中・近世	平地 (137m)	道地
21	集落跡	赤森山	尾花沢市大字尾花沢字赤森山	縄文時代	段丘 (112m)	畠地
22	城館跡	由良館	鶴岡市大字由良字道田	中世	独立丘陵 (46m)	畠山地林

(3) 県総務部事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
23	城館跡	山形城三の丸	山形市大手町他	中・近世	平地 (137m)	宅地

(4) 県企業局事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
24	集落跡	下野	米沢市大字桑沢字馬頭堰下 3019他	縄文時代	段丘 (321m)	水宅田地

(5) 国土交通省事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
25	散布地	下川原	尾花沢市大字萩袋字下川原	縄文時代	段丘 (85m)	畠地
26	散布地	新及位	最上郡真室川町大字及位字新及位453他	縄文時代	段丘 (240m)	畠地
27	城館跡	高堂館	最上郡金山町大字中田字高堂山	中世	山麓 (300m)	山林
28	散布地	下中田	最上郡金山町大字中田字下中田	縄文時代	段丘 (165m)	水田
29	包蔵地	小叶水	西置賜郡小国町大字叶水字小叶水	縄文時代	平地 (270m)	水田

(6) 日本道路公団事業関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
30	祭祀跡	川越石壇	米沢市万世町字川越石四、 24307-4	中世	丘陵 (449m)	原野

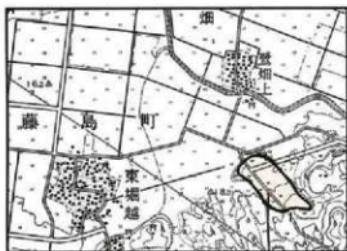
遺跡概要	出土遺物	備考
JR奥羽本線藏王駅の構内および北西側に広がる遺跡であるが、今回県道改良に伴う試掘調査では遺構・遺物とも検出されなかった。	なし	No75 平成14年11月県教委試掘調査。
立会地はJR奥羽本線山形県の北東約300mの位置にあり、以前の工事で中・近世の遺構面は完全に破壊されていることが判明した。	なし	山形県中世城館跡調査報告書201-002。平成14年4月立会調査。
尾花沢市役所の東南東約2kmに位置する。今回の立会調査で140×60cm、深さ63cmの落し穴状遺構と柱穴2基が検出された。	なし	平成12年度登録。
由良小学校の北西部の独立丘陵に立地する。曲輪の西端部の排水路設置部分で、岩盤に掘られた柱穴が確認された。	なし	山形県中世城館跡調査報告書。平成15年1月立会調査。

遺跡概要	出土遺物	備考
立会地は二の丸大手門の南東側にあたる。県立中央病院の建設で建物部分は中・近世の遺構面が完全に破壊されたことが判明した。	なし	山形県中世城館跡調査報告書201-002。平成14年7月立会調査。

遺跡概要	出土遺物	備考
三沢東部小学校の南500mに位置する。今回の導水管工事立会で土坑が4基検出されたが、遺物の出土はなく、時期は特定できない。	なし	米沢市遺跡地図G-165。平成14年5月立会調査。

遺跡概要	出土遺物	備考
尾花沢市役所の北西約2.5kmの丹生川右岸の段丘上に立地する。試掘の結果、現バイパス西側には遺構・遺物の分布がないことが判明した。	なし	平成元年度登録。 平成14年8月試掘調査。要範囲訂正。
JR奥羽本線及位遺跡の南1.5kmに位置する。今回の試掘調査で路線内まで遺跡はのびていないことが判明した。	なし	No998 平成14年12月県教委試掘調査。
金山町役場の北方5.8kmに位置し、高堂山の中腹尾根に曲輪群があり、麓には時期不明の墳墓とみられる集石がある。		山形県中世城館跡調査報告書361-002。
金山町役場の北北西5.2kmに位置する。地元民が耕作中に純文時代の遺物を採集している。	なし	平成14年度登録。
叶水小学校の北東500mに位置する。試掘の結果、土坑とみられる土色変化を確認し、立会調査を実施したが、風倒木痕と判明した。	なし	No1427 平成14年5、6月試掘、立会調査実施。

遺跡概要	出土遺物	備考
JR奥羽本線米沢駅の南東9.6kmに位置する。試掘調査の結果、土壇状の高まりに切盛の痕跡は全くないことが明らかとなった。	なし	米沢市遺跡地図No85登録抹消。



薩摩B遺跡位置図



薩摩B遺跡近景（北東から）



日塔B・塔秦・女五郎清水遺跡位置図



日塔B遺跡近景（南から）



塔秦遺跡近景（南東から）



女五郎清水遺跡近景



女五郎清水遺跡採取遺物



箕輪上屋敷遺跡位置図



箕輪上屋敷遺跡近景



箕輪上屋敷遺跡試掘溝



宮山坂F遺跡位置図



宮山坂F遺跡近景（南西から）



宮山坂F遺跡T P 7 試掘坑土層断面（北から）



宮山坂F遺跡採集遺物



玉虫沼B遺跡位置図



玉虫沼B遺跡調査地近景（南西から）



玉虫沼B遺跡TT1試掘溝全景（南から）



蓮台寺遺跡位置図



蓮台寺遺跡近景（東から）



蓮台寺遺跡TT2試掘溝発掘状況（西から）



蓮台寺遺跡TT2試掘溝土層断面（北から）



蓮台寺遺跡出土遺物



大洞遺跡位置図



大洞遺跡調査地近景（南西から）



大隅遺跡 T T 1 試掘溝全景（北から）



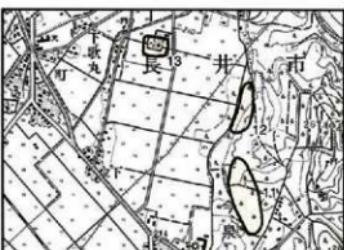
大隅遺跡調査 T T 4 試掘溝全景（西から）



荒砥城跡位置図



荒砥城跡事業区近景（北から）



今泉金山・蛇崩窯跡、源徳原館跡位置図



今泉金山窯跡近景（北から）



蛇崩窯跡近景（北西から）



蛇崩窯跡採取遺物



源徳原跡近景（東から）



胡桃平I・II遺跡位置図



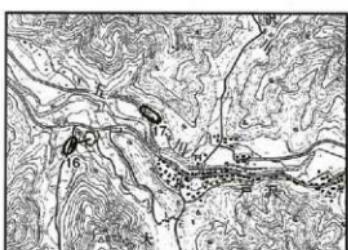
胡桃平I遺跡近景（西から）



胡桃平II遺跡近景（北西から）



胡桃平II遺跡採集遺物



戸沢・赤松遺跡位置図



戸沢遺跡近景（南から）



戸沢遺跡採集遺物



赤松遺跡近景（南東から）



赤松遺跡採取遺物



大明神遺跡位置図



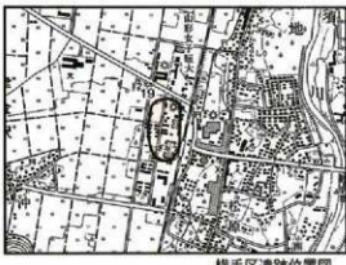
大明神遺跡近景（南東から）



大明神遺跡試掘溝全景（東から）



大明神遺跡試掘溝土層断面（南から）



横手区遺跡位置図



横手区遺跡近景（南東から）



横手区遺跡 T T 3 試掘溝全景（西から）



山形城三の丸跡調査位置図



山形城三の丸跡調査状況（東から）



山形城三の丸跡調査状況 2（北東から）



赤森山遺跡位置図



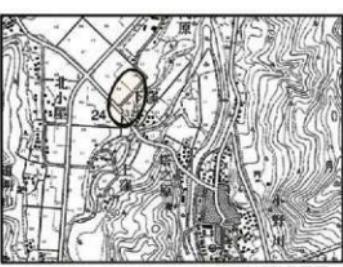
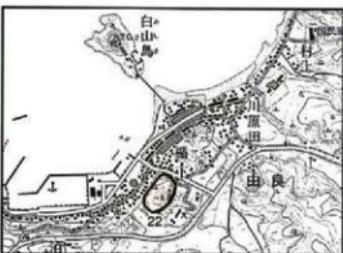
赤森山遺跡近景（南から）



赤森山遺跡落し穴検出状況（北から）



赤森山遺跡落し穴完掘状況（南から）



遺跡地名表 位置図 図版 8 県土木事業・総務部事業・企業局事業関係遺跡



下廻遺跡土坑検出状況（東から）



下川原遺跡位置図



下川原遺跡近景（南西から）



下川原遺跡TT1試掘溝全景（南から）



新及位遺跡位置図



新及位遺跡調査区近景（南から）



新及位遺跡TT1試掘溝全景（南から）



高堂館跡・下中田遺跡位置図



高堂館墓墳群近景（西から）



下中田遺跡近景（北東から）



小叶水遺跡位置図



小叶水遺跡近景（東から）



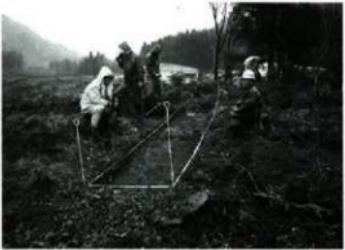
小叶水遺跡調査区全景（南から）



川越石土壌位置図



川越石土壌近景（北西から）



川越石土壌調査状況（東から）

2 試掘調査の概要

(1) 小反遺跡 (遺跡番号1049)

所在地 山形県最上郡鮭川村大字京塚字小反704

調査員 名和達朗

調査期日 現地確認 平成14年10月4日 試掘調査 平成14年10月22・23日

起因事業 県営は場整備事業鮭川左岸地区

遺跡環境 鮭川村立大農小学校北方約700m、主要地方道真室川・鮭川線沿い、最上内川左岸の河岸段丘面に立地する。標高は、69mを測る。地目は、水田である。

試掘区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘坑（約1m²の坪掘り）35ヶ所を設定。

試掘方法 人力で試掘調査を実施。

試掘面積 35m²（対象面積約9,500m²）

検出遺構 TP 15からピット？、TP 16から土壌？・性格不明遺構？、TP 20、21からピット、TP 24、35から性格不明遺構を検出。遺構・遺物確認面は、19~45cm。

出土遺物 TP 2から小ボリ1袋、TP 6から1点、TP 7から3点、TP 28から1点、の純文土器片出土。TP 19から木片1点出土。

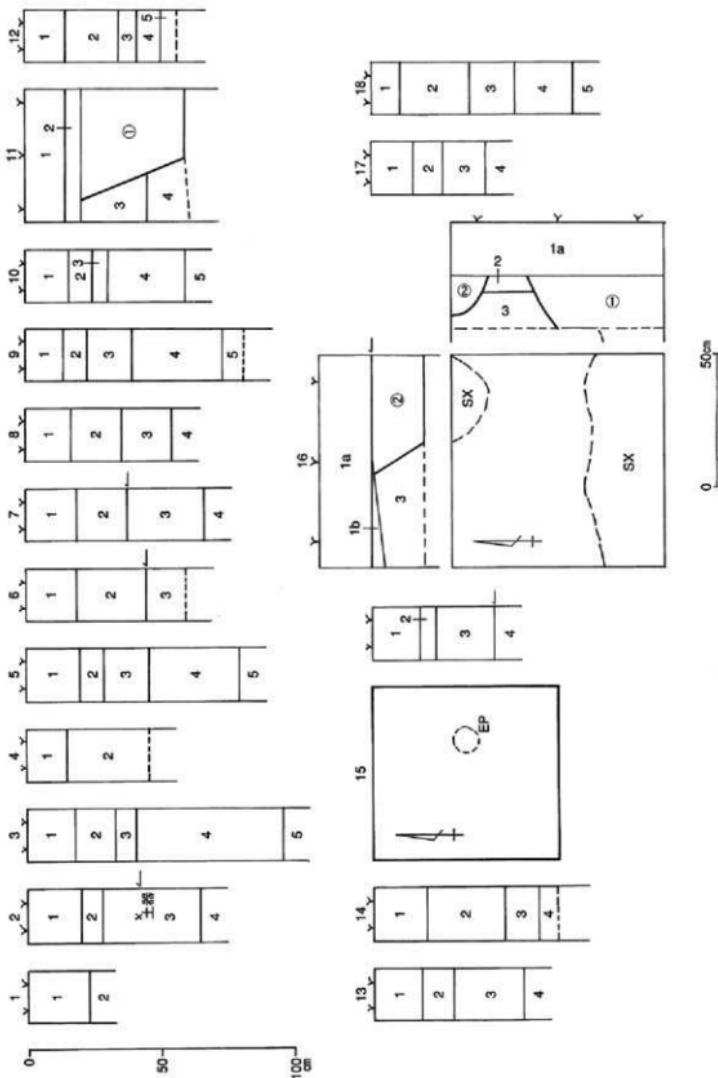
時代 繩文時代（中期末）

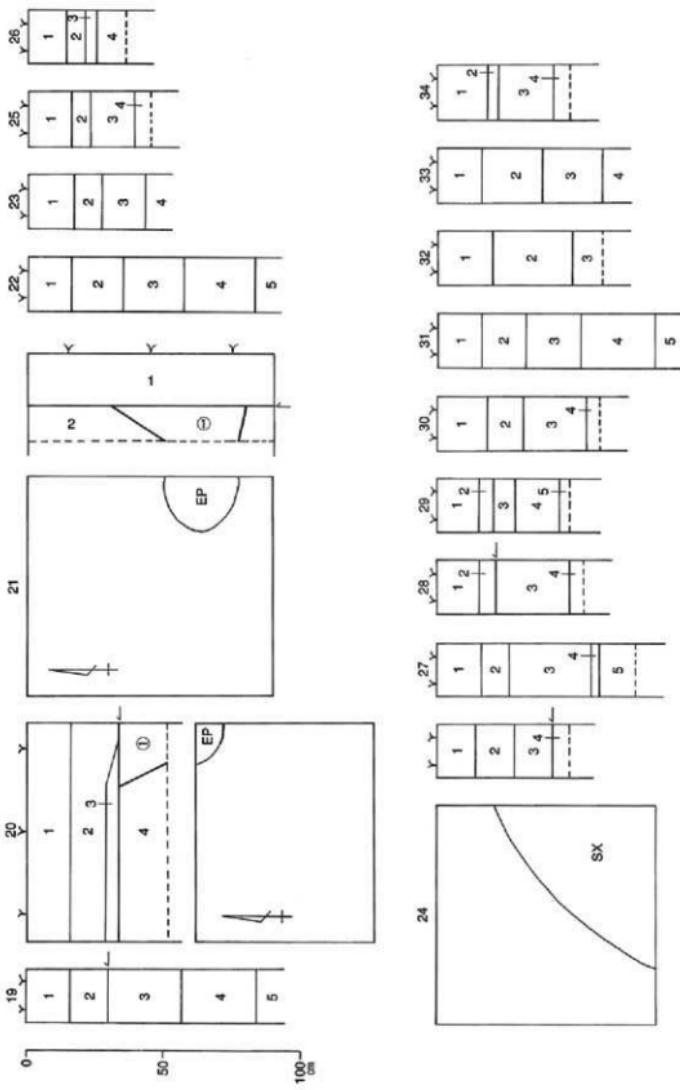
所見 北側の集落寄りに東西100m・南北220mの遺跡範囲が確認された。事業に係る範囲については、記録保存が必要と判断される。



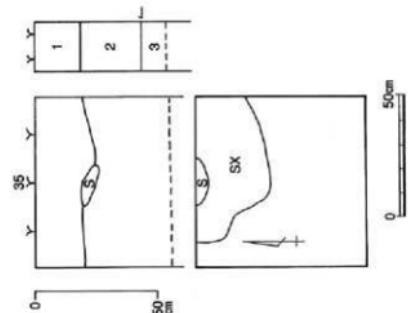
第1図 小反遺跡概要図

第2図 小反応器試験装置平面図、断面図(1)





第3圖 小反邊坡試掘坑平面圖、斷面圖 (2)



小反對土層記

图 4 小丘痕迹试掘坑断面图 (3)



小反遺跡近景（南西から）

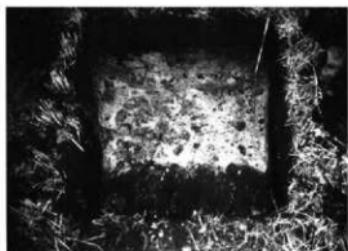


小反遺跡近景（南から）

図版1 小反遺跡（1）



TP 21遺構検出状況・土層断面（西から）



TP 16遺構検出状況（南から）



TP 20遺構検出状況（南から）



TP 2出土土器



TP 28出土土器

図版2 小反遺跡（2）

(2) 上野遺跡 (平成14年度登録)

所 在 地 山形県最上郡鮭川村大字京塚字上野

調 査 員 名和達朗

調 査 期 日 現地確認 平成14年10月4日 試掘調査 平成14年10月24・25日

起 因 事 業 県営は場整備事業鮭川左岸地区

遺 跡 環 境 村立大豊小学校北側約120m、最上内川左岸の河岸段丘上に立地する。標高は、65mを測る。地目は、水田である。金光寺の伝承地。(鮭川村史358~359頁 1966年 鮭川村)

試 掘 区 事業予定地内の遺跡可能性地範囲に試掘坑(約1m²の坪掘り)30ヶ所を設定。

試 掘 方 法 人力で試掘調査を実施。

試 掘 面 積 33m² (対象面積約8,000m²)

検 出 遺 構 T P 1、5から性格不明遺構、TP 2、8、18から溝跡、TP 6からピット、TP 20、21、23、24から土壙、TP 22から土壙・性格不明遺構、TP 25から土壙?・ピット?、TP 28から配石状遺構を検出。遺構・遺物確認面は、17~48cm。

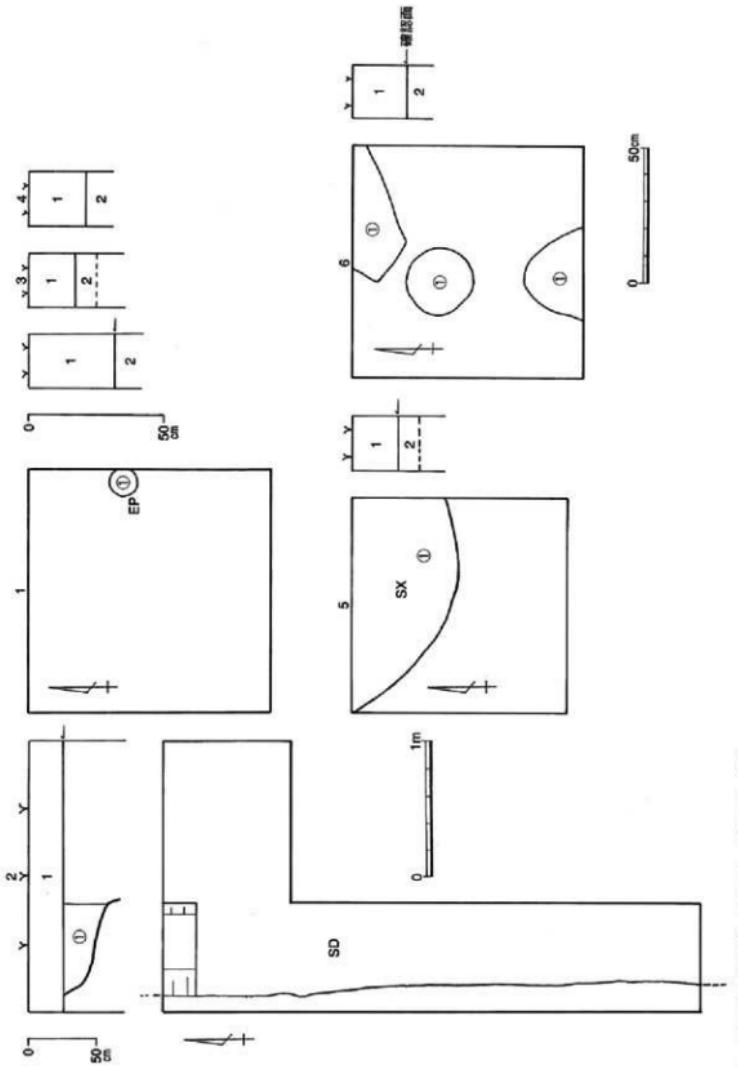
出 土 遺 物 TP 2溝跡覆土から繩文土器片1点、TP 7から須恵器1点、TP 11からフレイク1点、TP 25から磁器1点、TP 28から板状木製品1点出土。

時 代 繩文時代・奈良・平安時代・中世

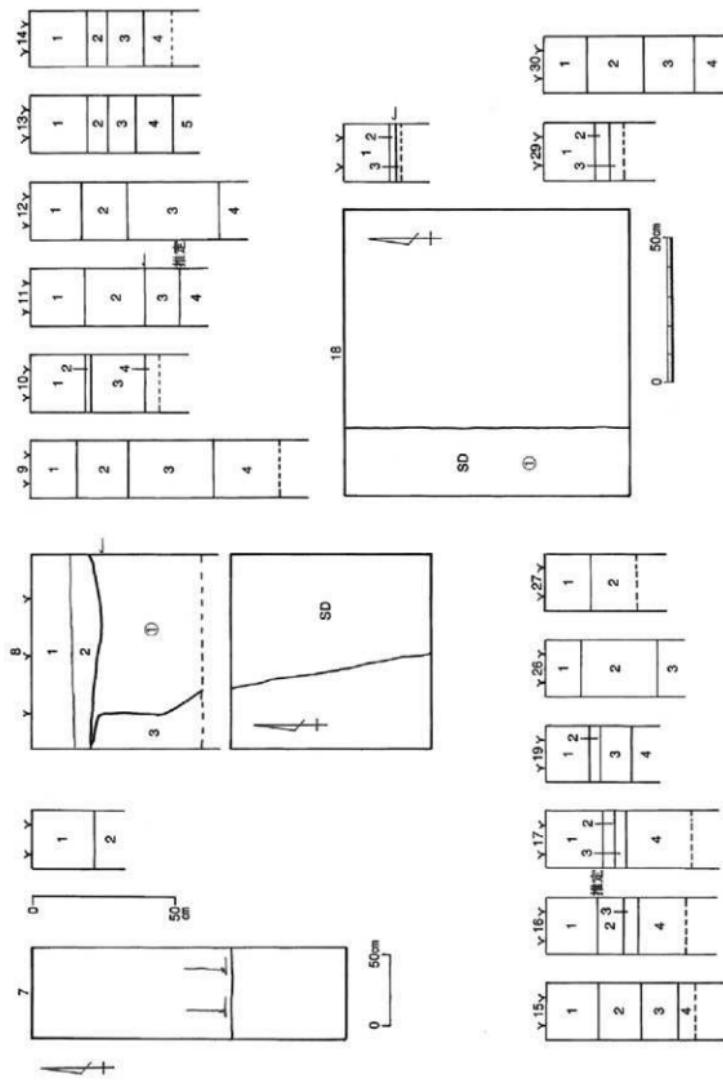
所 見 東西75m・南北80mの遺跡範囲が確認された。事業に係る範囲については、記録保存が必要と判断される。



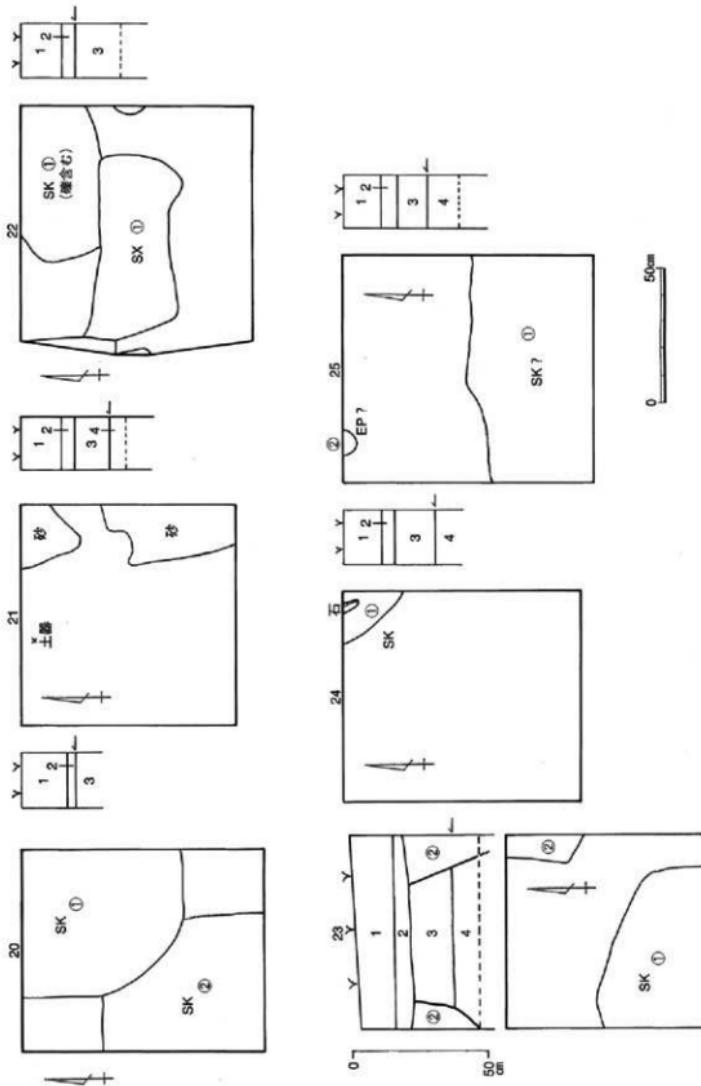
第5図 上野遺跡概要図



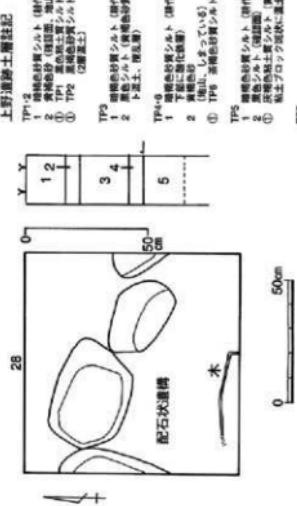
第6図 上野遺跡試掘溝・坑平面・断面図(1)



第7図 上野遺跡試掘溝・坑平面図、断面図



第8図 上野遺跡試掘坑平面図、断面図（3）



王氏遺集卷之三

TP-12	青褐色粉質シルト（耕作土）
	青褐色粉（耕作土、山地）
	TP1 黒色HR ₄ -上質シルト
	TP2 黑褐色粉質シルト (耕作土)

T₁ + 2
T₂

1

4

■品番: 006
■品名: 滤色切替シルト (透け土、
下層に陶質透水層)
■原色: 灰褐色
■用途: (透け土、しきつていぐ)
■TPS: 滤色切替シルト

5
mm

木

配石次邊樹

黒色シルト	暗褐色粘土質シルト(黒泥)
灰褐色シルト質シルト 粘土ブロック状に塊状	黃褐色砂質シルト(灰岩、塊岩)

11

50cm

o

黄褐色沙	暗褐色粘土質シルト (耕作土)
灰褐色粘土質シルト	暗褐色粘土質シルト (肥化土)
	暗褐色粘土質シルト (未化土)
	暗褐色粘土質シルト (耕作土)
	暗褐色粘土質シルト (未化土)

① T1 1 2 3 4

P10	暗褐色粘土質シルト 暗褐色粘土質シルト 暗褐色粘土質シルト (2層混土)	暗褐色粘土質シルト (耕作土)
P11	暗褐色粘土質シルト (耕作土)	

TH
1
2
3
4

P12	暗褐色粘土質シルト （フレイク出土）	暗褐色粘土質シルト （耕作土）
	暗褐色粘土質シルト （耕作土）	暗褐色粘土質シルト （耕作土）
	暗褐色粘土質シルト （耕作土）	暗褐色粘土質シルト （耕作土）

3 4 11 22 33 44

	TP29	TP30	TP31	TP32
TP3	1 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 2 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 3 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 4 脂肪酸鈣土シルト (耕作土) 5 硫酸鈣土シルト (耕作土)	1 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 2 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 3 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 4 脂肪酸鈣土シルト (耕作土) 5 硫酸鈣土シルト (耕作土)	1 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 2 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 3 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 4 脂肪酸鈣土シルト (耕作土) 5 硫酸鈣土シルト (耕作土)	① 油脂酸鈣土シルト (耕作土) ② (アラミド)油酸土シルト ③ (アラミド)油酸土シルト ④ (アラミド)油酸土シルト ⑤ (アラミド)油酸土シルト
TP4	1 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 2 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 3 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 4 脂肪酸鈣土シルト (耕作土) 5 硫酸鈣土シルト (耕作土)	1 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 2 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 3 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 4 脂肪酸鈣土シルト (耕作土) 5 硫酸鈣土シルト (耕作土)	1 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 2 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 3 油脂酸鈣土シルト (耕作土) 4 脂肪酸鈣土シルト (耕作土) 5 硫酸鈣土シルト (耕作土)	① 油脂酸鈣土シルト (耕作土) ② (アラミド)油酸土シルト ③ (アラミド)油酸土シルト ④ (アラミド)油酸土シルト ⑤ (アラミド)油酸土シルト

TP9	1 滅菌室清潔シルト 2 滅菌室清潔シルト 3 滅菌室清潔シルト
TP10	1 滅菌室清潔シルト 2 滅菌室清潔シルト 3 滅菌室清潔シルト
TP11	1 滅菌室清潔シルト 2 滅菌室清潔シルト 3 滅菌室清潔シルト
TP12	1 滅菌室清潔シルト 2 滅菌室清潔シルト 3 滅菌室清潔シルト
TP13	1 滅菌室清潔シルト 2 滅菌室清潔シルト 3 滅菌室清潔シルト 4 滅菌室清潔シルト

TPS	① 滑面接着士シルト ② 滑面接着士シルト ③ 滑面接着士シルト ④ 斜面接着士シルト ⑤ 斜面接着士シルト	TPS-T TPS-2 TPS-3 TPS-4 TPS-5	4 滑面接着士シルト
TPS-T	① 滑面接着士シルト ② 滑面接着士シルト ③ 滑面接着士シルト ④ 斜面接着士シルト ⑤ 斜面接着士シルト	TPS-T TPS-2 TPS-3 TPS-4 TPS-5	5種類
TPS-2	① 滑面接着士シルト ② 滑面接着士シルト ③ 滑面接着士シルト ④ 斜面接着士シルト ⑤ 斜面接着士シルト	TPS-T TPS-2 TPS-3 TPS-4 TPS-5	7種類
TPS-3	① 滑面接着士シルト ② 滑面接着士シルト ③ 滑面接着士シルト ④ 斜面接着士シルト ⑤ 斜面接着士シルト	TPS-T TPS-2 TPS-3 TPS-4 TPS-5	7種類
TPS-4	① 滑面接着士シルト ② 滑面接着士シルト ③ 滑面接着士シルト ④ 斜面接着士シルト ⑤ 斜面接着士シルト	TPS-T TPS-2 TPS-3 TPS-4 TPS-5	7種類
TPS-5	① 滑面接着士シルト ② 滑面接着士シルト ③ 滑面接着士シルト ④ 斜面接着士シルト ⑤ 斜面接着士シルト	TPS-T TPS-2 TPS-3 TPS-4 TPS-5	7種類

4. 地盤改良地シルト	TPH ①	4. 普通色シルト (緑地) TPH ①	4. 普通色シルト (緑地) TPH ①
1. 普通粘土シルト (耕作土)	TPH ②	1. 普通粘土シルト (耕作土)	1. 普通粘土シルト (耕作土)
2. 普通砂質粘土シルト (耕作土)	TPH ③	2. 普通砂質粘土シルト (耕作土)	2. 普通砂質粘土シルト (耕作土)
3. 普通砂質粘土シルト (耕作土)	TPH ④	3. 普通砂質粘土シルト (耕作土)	3. 普通砂質粘土シルト (耕作土)
4. 普通砂質粘土シルト (耕作土)	TPH ⑤	4. 普通砂質粘土シルト (耕作土)	4. 普通砂質粘土シルト (耕作土)

1 暗褐色土+シルト	1 黄褐色細砂+シルト	① 黄褐色細砂+シルト
2 暗褐色粘土+シルト	2 黄褐色粘土+シルト	② 黄褐色粘土+シルト
3 黄褐色土+シルト	3 黄褐色細砂+シルト	TP20
(原生土)	(原生土)	1 黄褐色細砂+シルト
4 灰褐色泥質土+シルト	4 灰褐色泥質土+シルト	2 黄褐色細砂+シルト
(原生土)	(原生土)	3 灰褐色土+シルト
TP20	1 暗褐色粘土+シルト	(原生土)
2 暗褐色粘土+シルト	2 黄褐色粘土+シルト	
(原生土)	(原生土)	

3 高吸水性ポリマー系接着剤
① (樹脂状) ② (糊状)

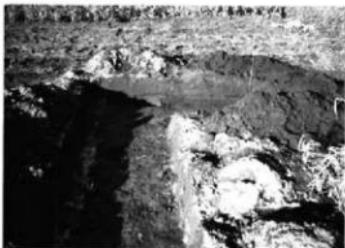
4 高吸水性ポリマー系接着剤
① (糊状) ② (樹脂状)

5 高吸水性ポリマー系接着剤
① (糊状) ② (樹脂状)

TP-2
6 高吸水性ポリマー系接着剤
7 高吸水性ポリマー系接着剤
8 高吸水性ポリマー系接着剤



上野遺跡近景（南から）



T 2 遺構検出状況（南から）



T P 6 遺構検出状況（南から）



T P 1 土層断面（南から）



T P 25 遺構検出状況（南から）

図版 3 上野遺跡

(3) 小平2遺跡 (平成14年度登録)

所 在 地 山形県飽海郡八幡町一条字小平

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 平成14年8月9日

起 因 事 業 広域営農団地農道整備事業飽海中央地区南北線

遺 跡 環 境 八幡町役場の南2.7kmに位置し、標高92mの山間部の平坦地に立地する。地目は杉林で過去に開墾を受けた痕跡が認められる。

試 挖 区 計画路線内に1×1mの試掘溝を20ヶ所設定した。

試 挖 方 法 人力で掘り下げて、出土遺物を取り上げ、地山面で検出された遺構の平面略測図と共に、土層断面図を作成した。

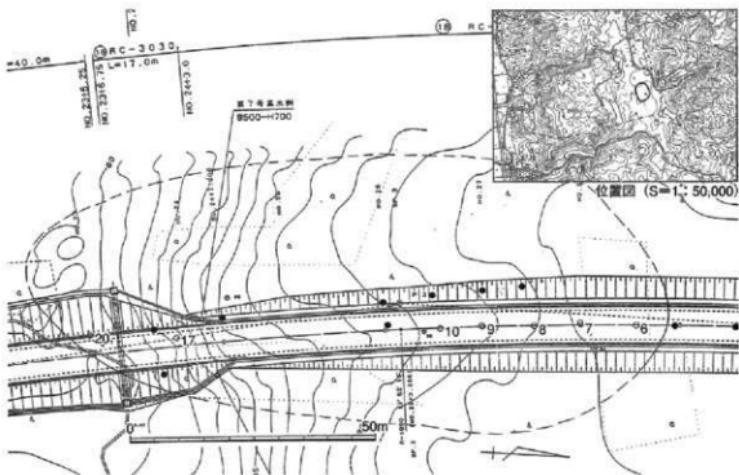
試 挖 面 積 20m²

検 出 遺 構 TP 6で柱穴1基、TP 7で柱穴2基を検出した。

出 土 遺 物 TP 6、7、8、9、10、17、20の各試掘溝から平安時代の須恵器、赤焼土器、土師器片が出土した。

時 代 平安時代

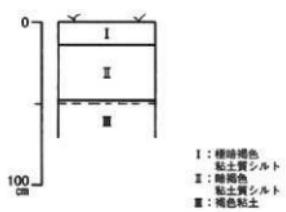
所 見 調査の結果、遺跡の範囲は推定東西50m、南北120m、計画路線内の面積は1,650m²となる。遺物は台地上と斜面下から出土しており、集落というよりは須恵器生産にかかる遺跡とみるべきかも知れない。



第10図 小平2遺跡概要図



小平2遺跡近景（南から）



TP 7 土層柱状図



TP 7 柱穴検出・土層断面（西から）



TP 17 土層断面（北から）



出土遺物

図版4 小平2遺跡

(4) 小平3遺跡（平成14年度登録）

所 在 地 山形県飽海郡八幡町一条字小平

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 平成14年8月10日

起 因 事 業 広域農業団地農道整備事業飽海中央地区南北線

遺 跡 環 境 八幡町役場の南2.9kmに位置し、標高80mの山間部の低地に立地する。小平2遺跡と沢を挟んで隣接する。地目は杉林である。

試 挖 区 計画路線センター近辺に概ね20mおきに1×1mの試掘溝を7ヶ所設定した。

試 挖 方 法 人力で掘り下げて、出土遺物を取り上げ、土層断面図を作成した。

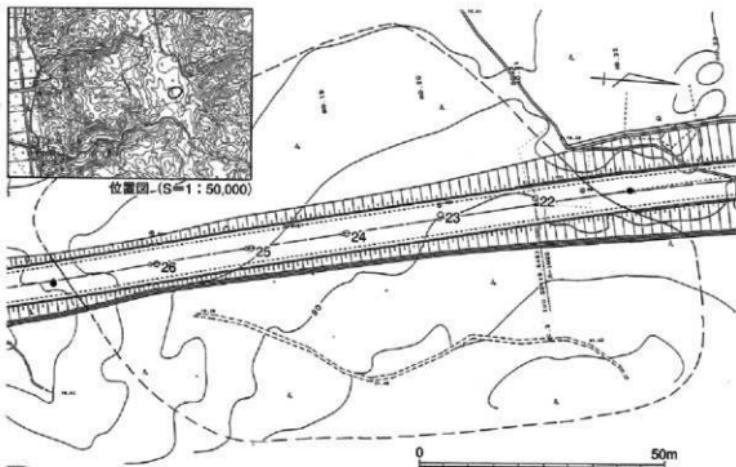
試 挖 面 積 7m²

検 出 遺 構 遺構は検出されなかった。

出 土 遺 物 TP22のII b層から須恵器1点、TP23 II b層からボリ袋1個分の須恵器、赤焼土器、TP24から須恵器10点、赤焼土器6点、TP25から須恵器、赤焼土器14点が、TP26のII b層から赤焼土器2点が出土した。

時 代 平安時代

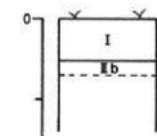
所 見 調査の結果、遺跡の範囲は推定東西80m、南北120m、計画路線内の面積は1,630m²となる。遺物の量は小平2遺跡より多く、台地下の低地に立地していることから、須恵器生産にかかる捨て場に関係する遺跡とみるべきかも知れない。



第11図 小平3遺跡概要図

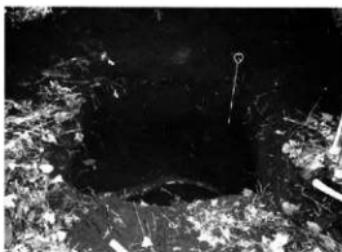


小平3遺跡近景（北から）

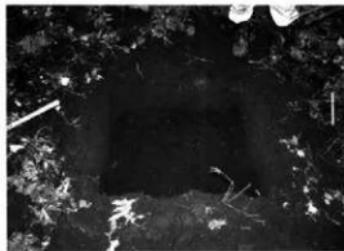


I : 黒褐色シルト
IIb : 黒色埋没リシルト

TP 24土層柱状図



TP 23全景・土層断面（東から）



TP 24全景・土層断面（西から）



出土遺物

図版5 小平3遺跡

(5) 小平4遺跡 (平成14年度登録)

所 在 地 山形県鮎海郡八幡町一条字小平

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 平成14年8月10日

起 因 事 業 広域営農団地農道整備事業鮎海中央地区南北線

遺 跡 環 境 八幡町役場の南3.2km、酒田市との境界付近に位置し、標高72mの山間部の台地に立地する。地目は荒蕪地、杉林である。

試 挖 区 計画路線の台地上のセンター近辺に概ね20mおきに1×1mの試掘溝を4ヶ所設定し、遺物が出土した試掘溝の近接地に2ヶ所を追加した。

試 挖 方 法 人力で掘り下げて、出土遺物を取り上げ、検出された遺構の平面略測図と土層断面図を作成した。

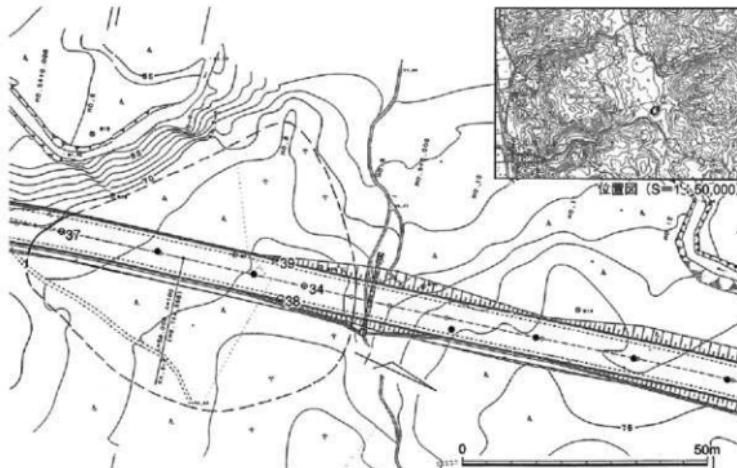
試 挖 面 積 6m²

検 出 遺 構 TP37のⅢ層の下で炭化物を含む黒色疊混じりシルトの覆土をもつ落ち込みが、TP38ではⅢ層上面から掘り込んだ落ち込み1基を検出した。

出 土 遺 物 TP34のⅡ層から縄文土器が4点、TP39のⅡ層から縄文土器2点が出土した。

時 代 縄文時代後期

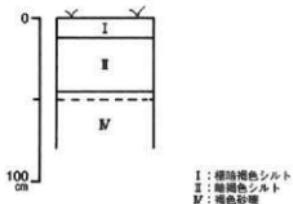
所 見 調査の結果、遺跡の範囲は推定東西60m、南北70mで計画路線内の面積は630m²となることが判明した。遺物の量も少なく、縄文時代の山間部に立地する出作り的なキャンプ地の可能性が高いと考えられる。



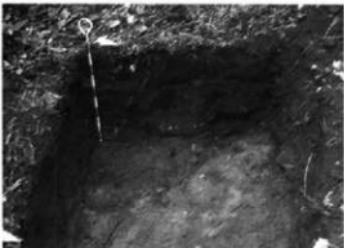
第12図 小平4遺跡概要図



小平 4 遺跡近景（北から）



TP 34 土層断面（西から）



TP 37 検出落ち込み（南から）



出土遺物

図版 6 小平 4 遺跡

(6) 茗ヶ山遺跡 (平成14年度登録)

所 在 地 山形県飽海郡松山町大字茗ヶ沢字茗ヶ山345番地他

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 平成14年10月23~25日

起 因 事 業 広域営農団地農道整備事業飽海中央地区東西線

遺 跡 環 境 松山町役場の北北東約2.6kmに位置し、「眺海の森」に連なる丘陵の北部、標高102mの南向きの緩傾斜地に立地する。麓の水田部とは約80mの比高差を持つ。

試 挖 区 1×1 mの試掘溝を計画路線の概ね10mに1ヶ所の割合で17ヶ所設定した。

試 挖 方 法 人力で掘り下げて、出土遺物を取り上げ、検出された遺構の平面略測図と土層断面図を作成した。

試 挖 面 積 17m^2

検 出 遺 構 TP 2で柱穴を2基、TP 3・4は全面遺構覆土でTP 3ではその下から2基の柱穴を検出し、TP 4では柱穴と土坑とみられる土色変化を確認した。また、TP 7で柱穴1基、TP 11で柱穴2基、TP 12で土坑1基、柱穴1基、TP 15で土坑、TP 16溝状遺構を検出した。

出 土 遺 物 TP 3で縄文土器3点、剥片1点、TP 4で赤焼土器壺が1点、TP 6で赤焼土器1点、剥片2点が出土した。

時 代 縄文時代、平安時代

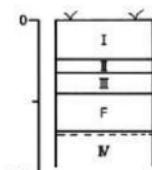
所 見 調査の結果、本遺跡は東西70m、南北50mの範囲を持つ縄文時代及び平安時代の集落跡であることが明らかとなった。山間部の出作り的な性格を持つと考えられる。路線内面積は約1,000m²である。



第13図 茅ヶ山遺跡概要図



若ヶ山遺跡近景（西から）

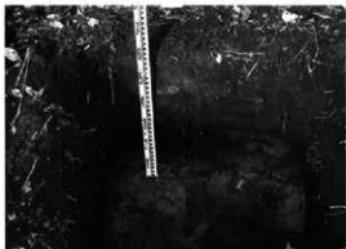


I : 暗褐色粘土質シルト
II : 黒褐色粘土質シルト
III : 暗褐色粘土質シルト
IV : 棕色粘土
V : 暗褐色シルト質粘土

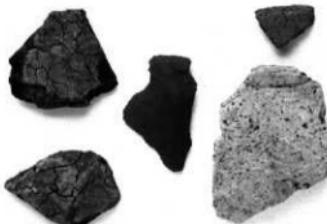
TP 3 土層柱状図



TP 2 検出柱穴・土層断面（東から）



TP 15 土坑検出・土層断面（南から）



出土遺物

図版 7 若ヶ山遺跡

(7) 滝ノ沢山遺跡 (平成14年度登録)

所 在 地 山形県最上郡真室川町大字大沢字滝ノ沢山6016-62番地他

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 平成14年11月11・12日

起 因 事 業 国道344号線特殊改良一種工事

遺 跡 環 境 J R奥羽本線真室川駅の北西1.8km、真室川中学校の南400mの高位段丘上に立地する。標高は134mを測り、地目は雑木林である。

試 挖 区 計画路線内で遺跡が立地すると考えられる平場に1×1mの試掘溝を概ね10mに1ヶ所の割合で設定した。試掘溝の数は22ヶ所である。

試 挖 方 法 力で掘り下げて、出土遺物を取り上げ、検出された遺構の平面略測図と土層断面図を作成した。

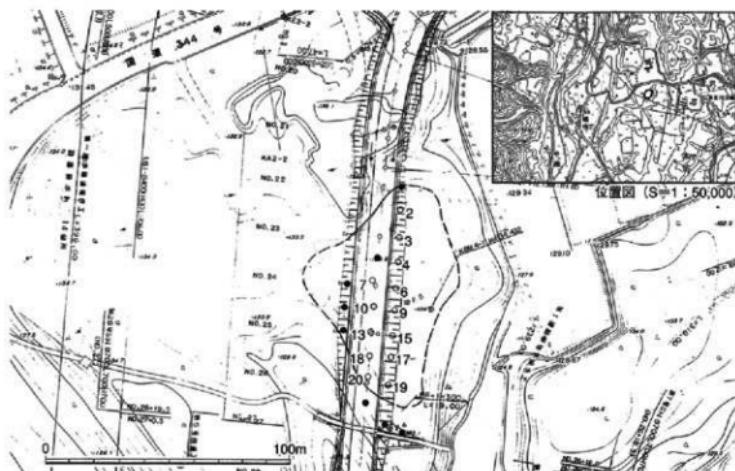
試 挖 面 積 22m²

検 出 遺 構 T P 2 で柱穴1基、T P 3 で柱穴2基、T P 4 で土坑1基、T P 6、7 で柱穴が各2基、T P 9 で柱穴1基、T P 10 で土坑1基、T P 13、14 で柱穴が各1基、T P 15 で柱穴4基、T P 18 で柱穴2基が検出された。

出 土 遺 物 T P 3 で縄文土器片13点と刺片1点、T P 15 で縄文土器片5点、T P 17 で縄文土器片1点、T P 13 で磨石1点が出土した。

時 代 縄文時代（後期）

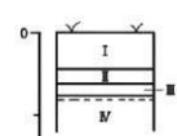
所 見 試掘の結果、本遺跡は東西65m、南北90mほどの広がりを持つと推定され、路線内面積は1,500m²となる。トレンチ調査等さらに詳細に内容を把握する必要がある。



第14図 滝ノ沢山遺跡概要図

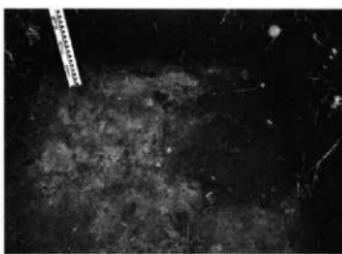


滝ノ沢山遺跡近景（南から）



TP 3 土層柱状図

I : 黒褐色シルト
II : 黒色粘土質シルト
III : 緑褐色シルト質粘土
IV : 黄褐色粘土



TP 3 检出遺構（西から）



TP 6 土層断面（東から）



出土遺物

図版 8 滝ノ沢山遺跡

(8) 北向遺跡（平成13年度登録）

所在 地 山形県山形市大字楯山字北向他

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成14年11月7・8日

起因事業 臨時道路整備事業 一般県道東山七浦線

遺跡環境 JR仙山線楯山駅の西方200m、山形市立楯山小学校の敷地を含む一帯に位置し、高瀬川左岸の自然堤防上に立地する。標高は125mを測り、地目は畠地、果樹園、学校敷地となっている。

試掘区 計画路線のセンターに沿って、概ね20mおきに試掘溝を設定した。

試掘方法 パックホーを使用して掘り下げ、出土遺物を取り上げながら、人力で面整理を行い、検出した造構の平面略測図を作成すると共に、10mおきに土層断面図を作成した。

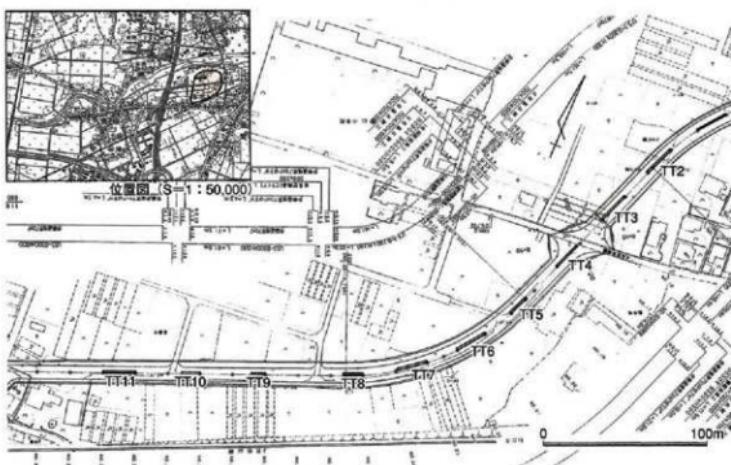
試掘面積 246m²

検出遺構 TT3～6までは堅穴住居跡や土坑などが密集して分布しており、TT2とTT7～11では土坑や落ち込み、溝跡などが検出された。

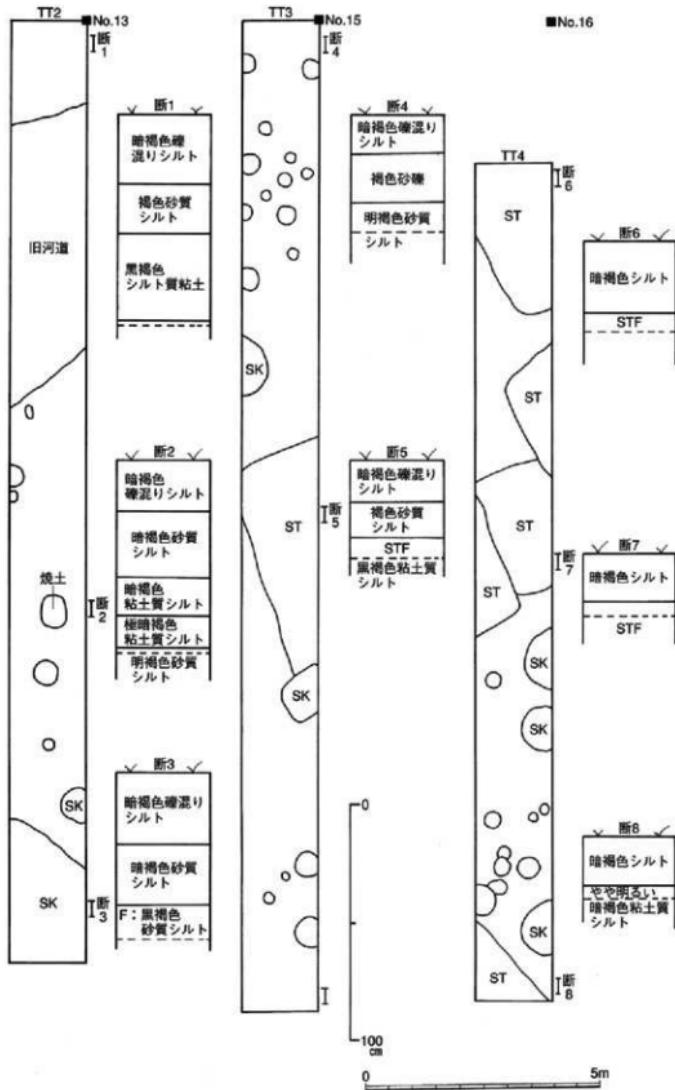
出土遺物 TT10を除く各トレンチで平安時代の土師器や須恵器、赤焼土器の破片が多数出土した。特にTT3、6、7、8、11では30点以上の出土があった。

時代 平安時代

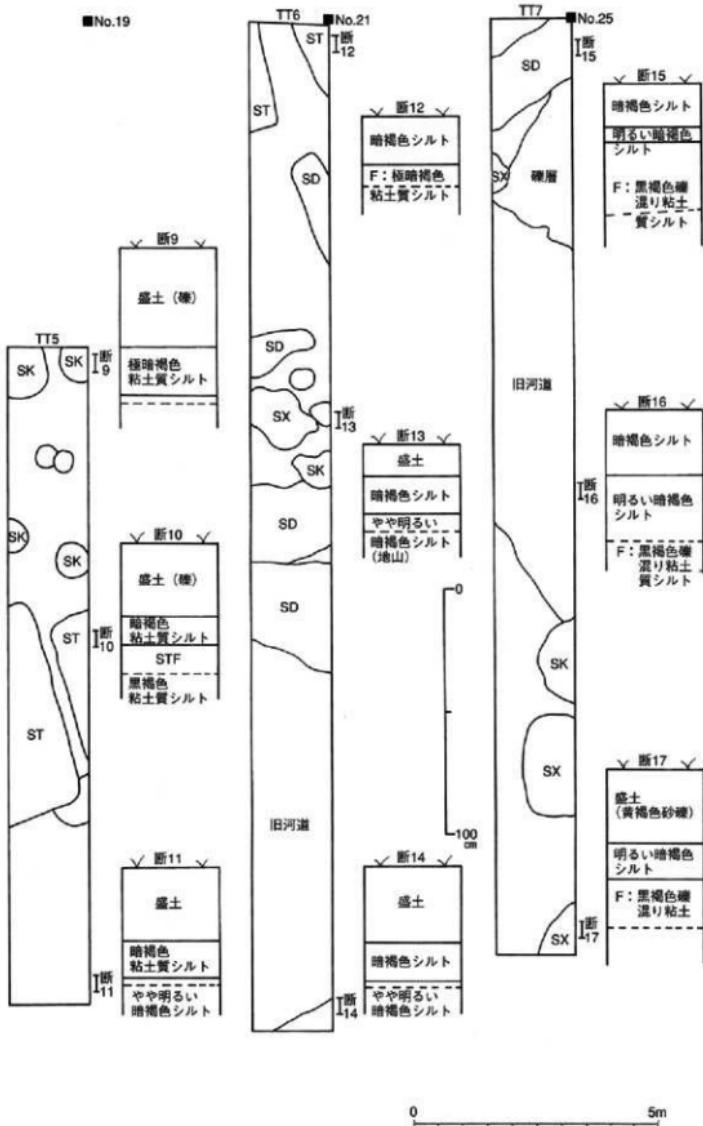
所見 試掘の結果、遺跡の範囲は東西500m、南北280mほどに広がることが明らかとなった。この中でもTT2～6までの範囲の造構の分布密度は極めて高いことが窺えた。



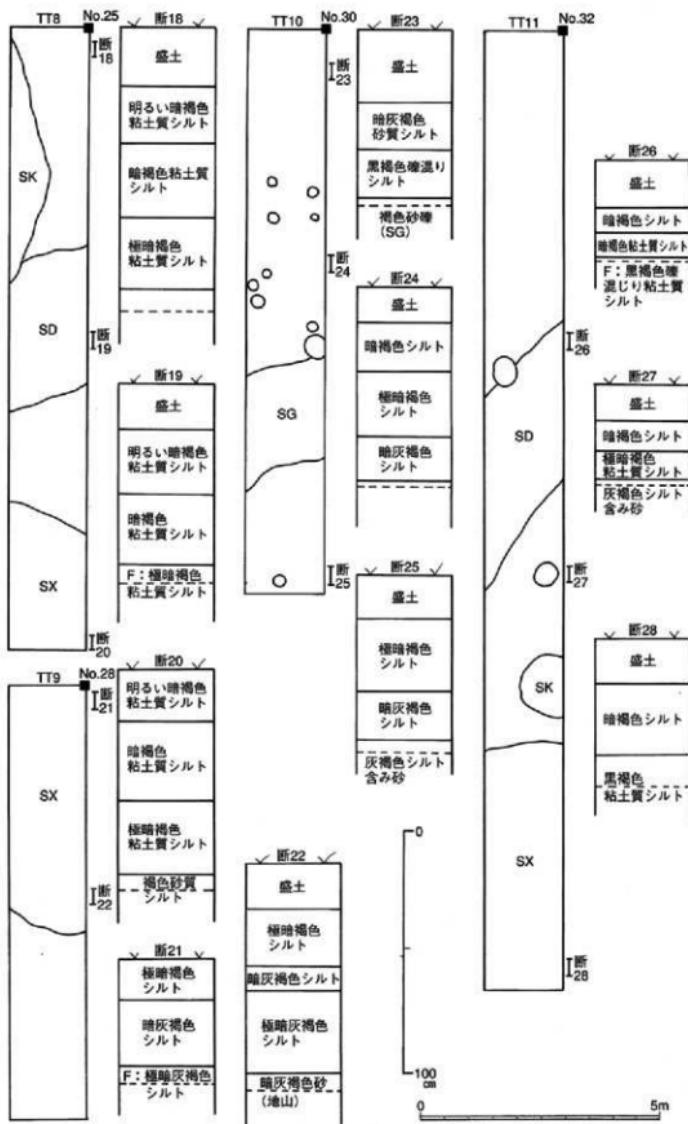
第15図 北向遺跡概要図



第16図 北向遺跡試掘溝平面図、断面図（1）



第17図 北向遺跡試掘溝平面図、断面図（2）



第18図 北向遺跡試掘溝平面図、断面図（3）



北向遺跡近景（北東から）



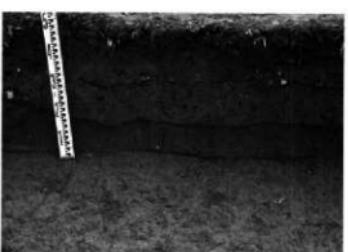
TT 2 全景（南から）



TT 3 全景（南から）



TT 3 整穴検出状況（南東から）



TT 3 土層断面（西から）

図版9 北向遺跡（1）



TT 4 全景 (南西から)



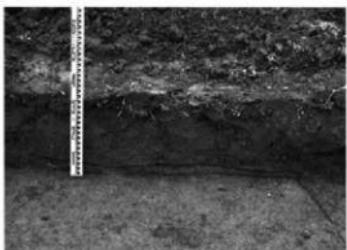
TT 4 北端部豊穴検出状況 (南から)



TT 4 南端部豊穴他検出状況 (南から)



TT 4 7~13m地点豊穴群検出状況 (南から)



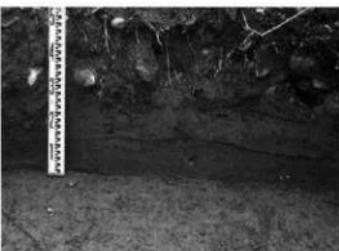
TT 4 土層断面 (西から)



TT 5 遺構検出状況 (南から)



TT 5 12~17m豊穴他検出状況 (南から)



TT 5 土層断面 (西から)

図版10 北向遺跡 (2)



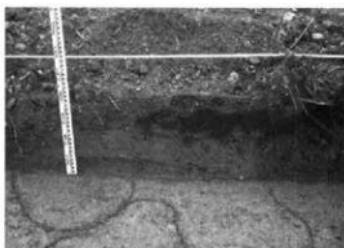
TT 6 全景 (北東から)



TT 6 南半部遺構検出状況 (北から)



TT 6 北端部遺構検出状況 (北東から)



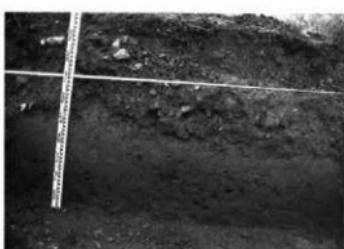
TT 6 土層断面 (西から)



TT 7 全景 (東から)



TT 7 全景 (西から)



TT 7 中央部土層断面 (北から)



TT 8 全景 (西から)

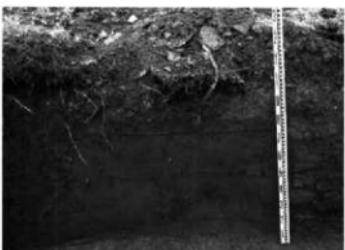
図版11 北向遺跡 (3)



TT 8 東部遺構検出状況（東から）



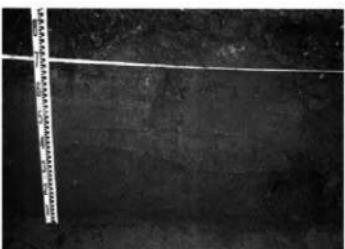
TT 8 5~8 m 遺構検出状況（東から）



TT 8 中央部土層断面（北から）



TT 9 全景（西から）



TT 9 中央部土層断面（北から）



TT 10 全景（西から）



TT 10柱穴群検出状況（南西から）



TT 10柱穴他検出状況（北西から）

図版12 北向遺跡（4）



TT10中央部土層断面（北から）



TT11 全景（東から）



TT11中央部遺構検出状況（西から）



TT11 中央部土層断面（北から）



TT2出土土器



TT3出土土器（1）



TT3出土土器（2）



TT4出土土器

図版13 北向遺跡（5）



TT 5 出土土器



TT 6 出土土器 (1)



TT 6 出土土器 (2)



TT 7 出土土器



TT 8 出土土器



TT 9 出土土器



TT 11 出土土器 (1)



TT 12 出土土器 (2)

図版14 北向遺跡 (6)

(9) 梅野木前1遺跡 (平成3年度登録)

所 在 地 山形県山形市大字江俣字梅野木前

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 平成14年4月24日

起因事業 緊急地方整備事業 一般県道大野目内表線

遺跡環境 JR奥羽本線北山形駅の北西約2.5kmに位置し、馬見ヶ崎扇状地の扇端部に立地する。標高104mを測り地目は畠地と水田である。本遺跡の東300mには国指定史跡の鶴遺跡がある。

試掘区 水田部では計画路線のセンターに沿って2本、畠地部ではセンターに直交する1本の試掘溝を設定した。

試掘方法 重機で表土を除去し、さらに徐々に掘り下げて出土遺物を取り上げ、地山面で造構検出の面整理を行い、検出遺構の平面略測図と土層断面図を作成した。

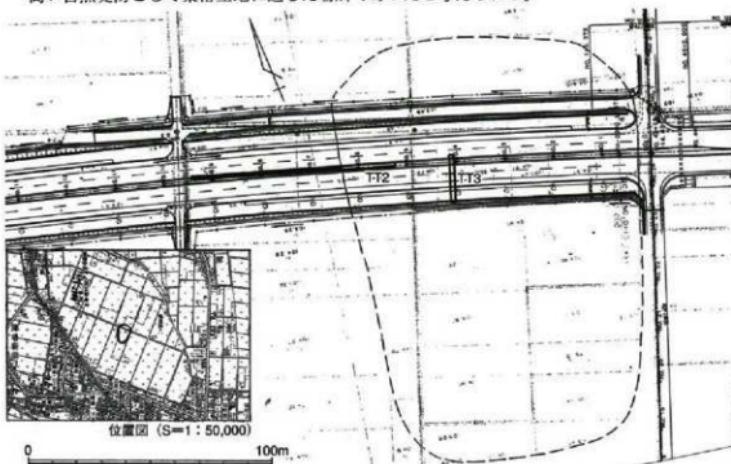
試掘面積 158m²

検出遺構 TT1では造構が検出されず、TT2では東端部で柱穴を検出した。両トレンチとも湿地性堆積物となる。TT3では砂の地山で竪穴住居跡状の落ち込み3基と土坑1基を検出した。

出土遺物 TT1のⅢ層で赤焼土器が出土し、TT3では須恵器や赤焼土器など多数の土器片が出土した。

時 代 平安時代

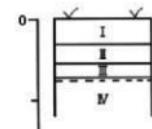
所 見 遺跡の範囲は現在畠地として残る東西幅125m程であり、ここは周りより一段高い自然堤防として集落立地に適した場所であったと考えられる。



第19図 梅野木前1遺跡概要図



梅野木前1遺跡近景（西から）

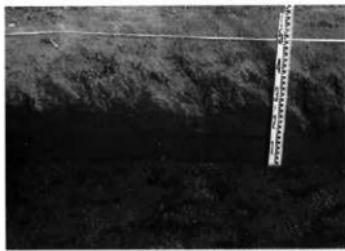


I : 暗褐色シルト
II : 暗灰褐色砂質シルト
III : 暗灰褐色砂質シルト
IV : 黄褐色細砂

TT 3 中央部土層柱状図



TT 3 遺構検出状況（南東から）



TT 3 中央部土層断面（西から）



出土遺物

図版15 梅野木前1遺跡

(10) 高瀬山遺跡（平成3年度登録）

所 在 地 山形県寒河江市高瀬山乙

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 平成14年4月22・23日

起 因 事 業 最上川ふるさと公園事業駐車場建設

遺 跡 環 境 J R左沢線寒河江駅の南方約1.3kmに位置し、独立丘の高瀬山の西に広がる段丘上に立地している。東北横断自動車道やハイウェイオアシスパークの整備で広大な面積の発掘調査が行われ、旧石器時代から中世までの多数の遺構と遺物が検出されている。

試 掘 区 駐車場の予定地に1×2mから1×1mの大きさの試掘坑を19ヶ所設定した。

試 掘 方 法 手掘りで出土した遺物を取り上げながら掘り下げ、地山面の精査で検出した遺構の平面略測図を作成し、あわせて土層断面図も作成した。

試 掘 面 積 23m²

検 出 遺 構 T P 3、5、16で縄文時代の竪穴住居跡、TP 8で奈良・平安時代の竪穴住居跡を検出し、TP 6で土坑を検出した。

出 土 遺 物 TP 9、10、18を除く各試掘坑で縄文土器片、石匙、石範、剥片、土師器、須恵器が2~76点出土した。

時 代 縄文時代後期、奈良・平安時代

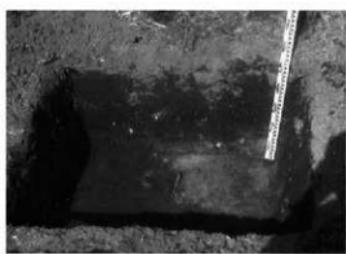
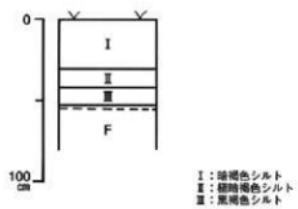
所 見 調査の結果、駐車場予定地はすべて埋蔵文化財包蔵地であり、果樹の根が地山面まで達していることが明らかとなった。このため、駐車場の建設にあたっては抜根をしないで盛り土することが、発掘調査を回避する条件となる。



第20図 高瀬山遺跡概要図



調査地近景（北西から）



図版16 高瀬山遺跡

(11) 西向遺跡（平成14年度登録）

所在 地 山形県鶴岡市大字中山字西向

調査員 名和達朗

調査期日 現地確認 平成14年5月30日 試掘調査 平成14年6月3日

起因事業 一般県道三瀬水沢線道路改良工事及び降矢川臨時河川整備事業

遺跡環境 中山地区集落西方約500m、山間を西流する三瀬川左岸沿いを北側に張り出す河岸段丘上に立地する。右岸部は東西方向に県道が通る。南側は、約100mで丘陵山麓につづく。標高は65mを測る。地目は畑地、山林である。

試掘区 事業予定地内の遺跡可能性地範囲にトレント5ヶ所を設定。

試掘方法 重機+人力で試掘調査を実施。

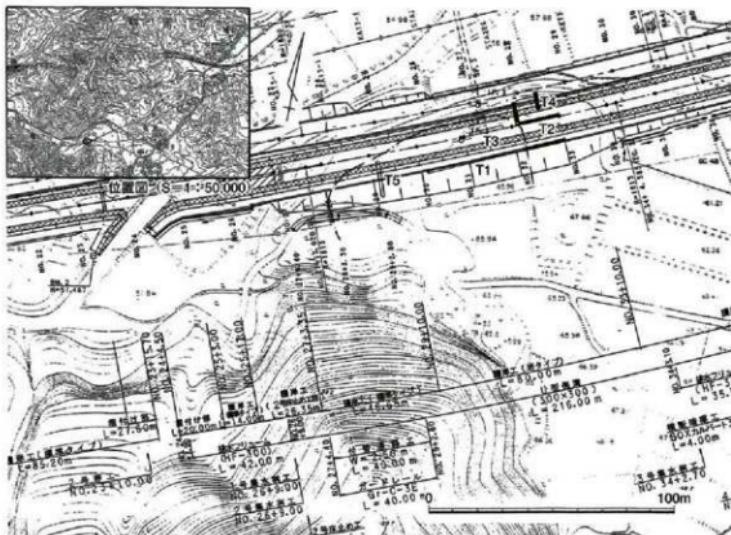
試掘面積 120m² (対象面積約2,000m²)

検出遺構 T1から住居跡・土壙、T2から風倒木遺構、T5から住居跡を検出。遺構・遺物確認面は、15~71cm。

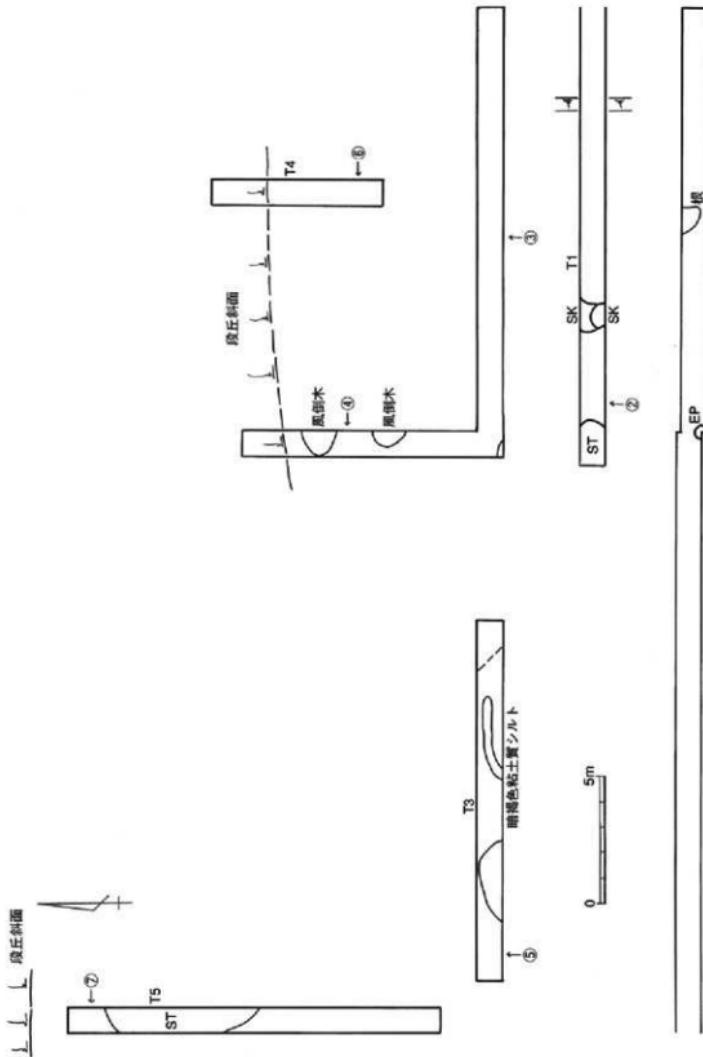
出土遺物 T3西側から遺物包含層を確認。縄文土器3袋。

時代 縄文時代中期（大木8a式併行）

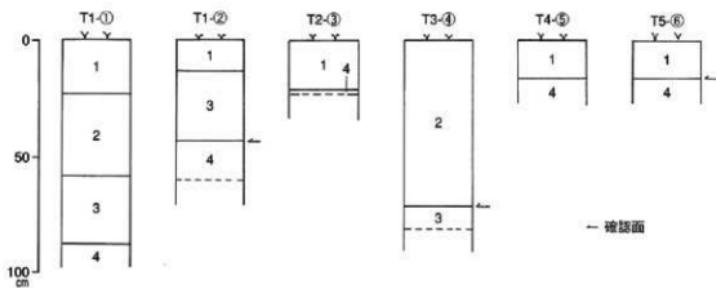
所見 段丘面の中央東側から西側に縄文時代の遺構・遺物の分布が認められ、東西85m・南北100mの遺跡範囲が確認された。事業に係る範囲については、記録保存が必要と判断される。



第21図 西向遺跡概要図



第22図 西向造跡試掘溝平面図



西向遺跡土層註記

- 1 暗褐色シルト
- 2 黄褐色粘土質シルト
(焼泥土、二次堆積)
- 3 暗褐色シルト
(やや黄い色調)
- 4 黄褐色粘土質シルト
(焼泥面、地山)

第23図 西向遺跡試掘溝断面図



遺跡近景（東から）

図版17 西向遺跡（1）



遺跡近景（東から）



T 1 調査状況（東から）



T 1 調査状況（西から）



T 3 調査状況（西から）



T 1 出土縄文土器

図版18 西向遺跡（2）

(12) 空沢(高瀬) 遺跡(昭和60年度登録)

所在 地 山形県長井市寺泉字空沢西、入野川向

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成14年9月26・27日

起因事業 新野川発電所建設工事

遺跡環境 長井市役所の西南西約6.8km、渓谷となって山間部を流れる置賜野川が平野部に入る位置にあり、標高268m、270mの二段の段丘面上に立地する。

試掘区 低位段丘、中位段丘、高位段丘に幅1.4mの試掘溝を6本設定した。

試掘方法 バックホーを使って徐々に掘り下げながら出土遺物を探取し、人力で地山面を削って遺構の有無を確認し、検出した遺構と土層断面の略測図を作成した。

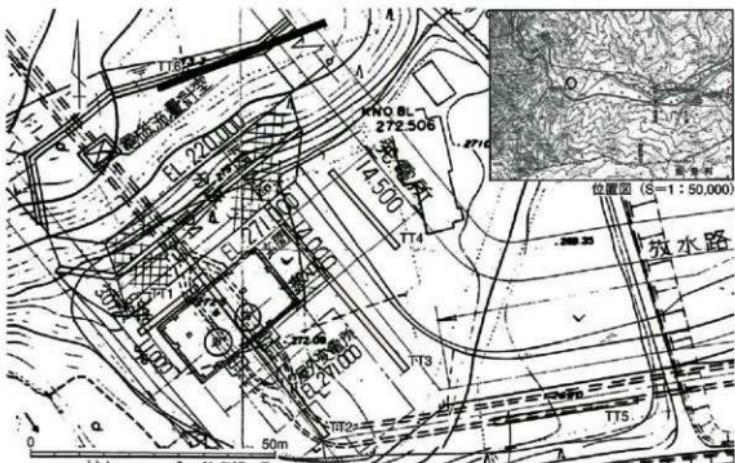
試掘面積 280m²

検出遺構 高位段丘に設定したTT6では遺構・遺物とも検出されなかった。中位段丘のTT1、2、3、4では土坑や落ち込み竪穴住居跡の可能性のある大きな落ち込みなどが検出された。低位段丘に設定したTT5では土坑や落ち込み、竪穴住居(?)が検出された。

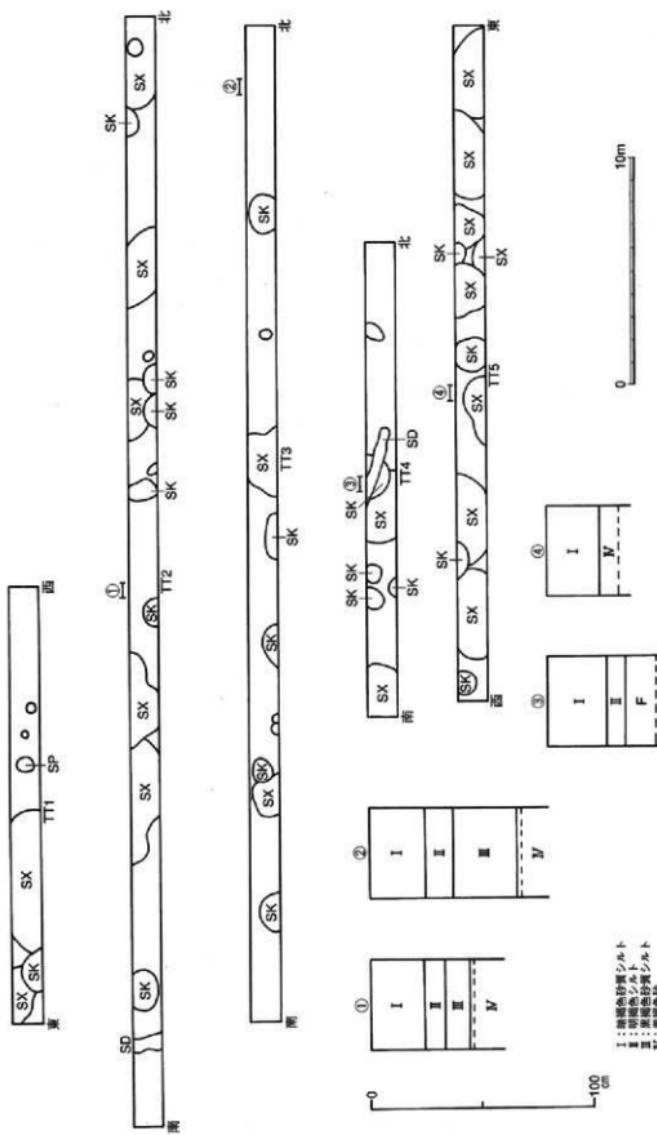
出土遺物 中位段丘上の各試掘溝では縄文時代早期、前期、中期、晩期の土器や石器が、低位段丘上からは縄文時代中期後半から末葉の土器が出土した。

時代 縄文時代早期～晩期

所見 発電所建設予定地の低位・中位段丘面上で縄文時代早期～晩期の遺構と遺物が検出された。事業の実施にあたって埋蔵文化財の保存協議が必要となる。



第24図 空沢(高瀬) 遺跡概要図



第25図 空沢(高野) 道路拡幅溝平面図、断面図



空沢（高裁）遺跡遠景（北西から）



中位段丘近景（東から）



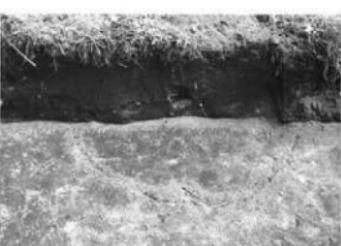
TT1全景（西から）



TT1遺構検出状況（南東から）



TT2全景（南から）



TT2北から23m地点の土坑（西から）



TT2北から43m地点の土坑（北北西から）

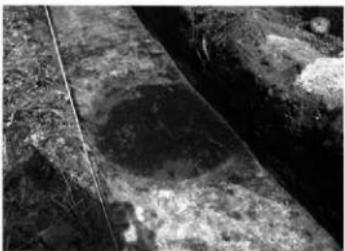


TT2北から25m地点土層断面（西から）

図版19 空沢（高裁）遺跡（1）



TT 3全景 (北から)



TT 3北から8m地点の土坑 (南西から)



TT 3北から20m地点の土坑 (南西から)



TT 3北から6m地点の土層断面 (西から)



TT 4全景 (北から)



TT 4北から4m地点土坑 (南東から)



TT 4北から12m地点土坑 (南東から)



TT 4北から15m地点土坑 (南東から)

図版20 空沢（高鐵）遺跡（2）



低位段丘近景（東から）



TT 5 全景（東から）



TT 5 全景（西中位段丘から）



TT 5 西端部検出状況（南西から）



TT 5 西から 8 m の遺構検出状況（南西から）



TT 5 東端部遺構検出状況（南西から）



TT 6 全景（東から）



TT 6 全景（西から）

図版21 空沢（高齢）遺跡（3）



T T 2 早期縄文土器（表）



T T 2 早期縄文土器（裏）



T T 1 早期縄文土器（表）



T T 1 早期縄文土器（裏）



前期縄文土器



後期縄文土器



晚期縄文土器



刮器

図版22 空沢（高麗）遺跡（4）

(13) 地坂台遺跡 (平成14年度登録)

所 在 地 最上郡金山町大字中田字地坂台78-4

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 平成14年12月25・26日

起 因 事 業 国道13号主寝坂道路建設工事

遺 踪 環 境 金山町役場の北方5.6kmに位置し、外沢川右岸の小段丘上に立地する。標高は196mを測る。

試 挖 区 計画路線内に幅1mの試掘溝を5本設定した。

試 挖 方 法 ミニバックホーを使って徐々に掘り下げ、人力で地山面を削って遺構の有無を確認し、検出した遺構と土層断面の略測図を作成し、出土した遺物を取り上げた。

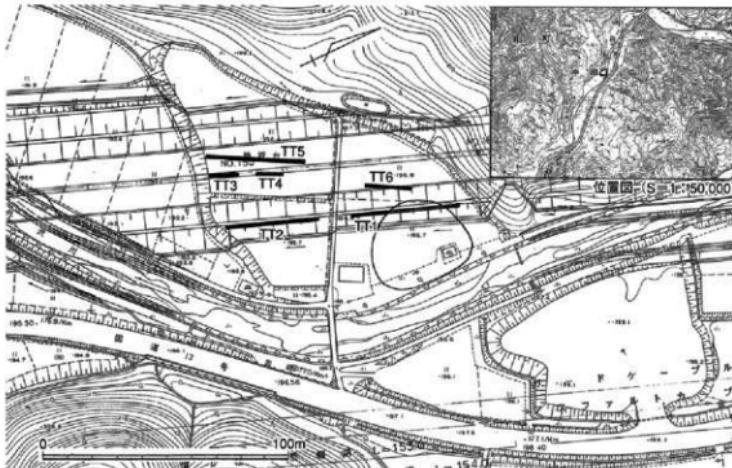
試 挖 面 積 123m²

検 出 遺 構 TT1で柱穴9基と土坑1基を検出した。

出 土 遺 物 TT1から縄文土器片と剥片が出土した。

時 代 縄文時代

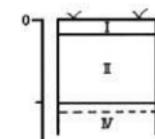
所 見 本遺跡は縄文時代の小規模なキャンプ地と考えられる。また、過去のほ場整備事業で大きく破壊を受けており、良好に残存する部分は少ないと判断されるが、工事に際しては、埋蔵文化財の保存協議が必要となる。



第26図 地坂台遺跡概要図



地盤台遺跡近景（南西から）



I : 地表褐色シルト質粘土
（耕作土）
II : 塗褐色礫混じり粘土
III : 塗褐色砂質シルト

TT 1 土層柱状図



TT 1 全景（北から）



TT 1 ピット検出状況（東から）



TT 1 出土遺物

図版23 地盤台遺跡

(14) 鶴の木館跡 (山形県中世城館跡遺跡調査報告書遺跡番号213-033)

所 在 地 山形県南陽市大字鍋田字鶴之木

調 査 員 名和達朗

調 査 期 日 現地確認 平成14年8月20日 試掘調査 平成14年9月3日

起 因 事 業 一般国道113号赤湯バイパス改築事業

遺 跡 環 境 市街地南側約1.5km、東西に位置する組柳地区と中ノ目地区間の平地に立地する。標高は、213mを測る。地目は、畠地・宅地である。

試 掘 区 事業予定地内の市道西側区域にトレンチ3ヶ所を設定。

試 掘 方 法 重機+人力で試掘調査を実施。

試 掘 面 積 26.6m² (対象面積約4,200m²)

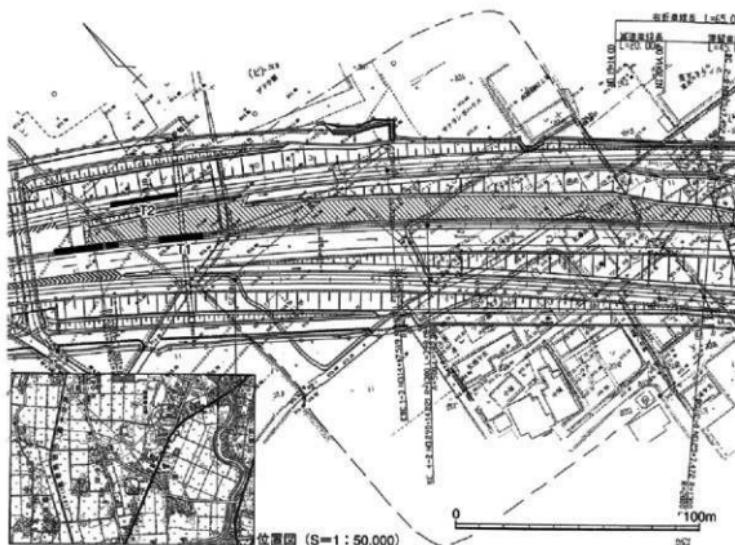
検 出 遺 構 青灰色・暗青灰色・黒褐色粘土層、泥炭層がみとめられ、遺跡を想定できる遺構は未検出である。T3から溝跡(時期不明)を検出できたが、上層からの掘り込みで、新しい可能性が考えられる。

出 土 遺 物 未検出。

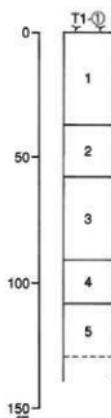
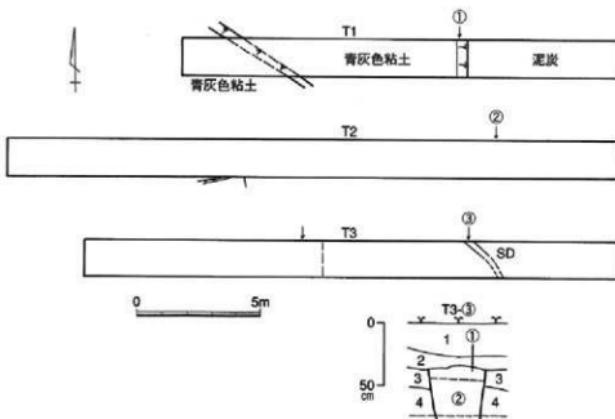
時 代 不明。

所 見 市道西側区域については、遺跡と認識できる遺構・遺物は確認できなかった。

城跡に関係する地上遺構は検出できないが、山形県中世城館跡遺跡調査報告書によれば、今回の調査区域東側の畠地一帯が、推定東西170m・南北180mの遺跡範囲と考えられる。



第27図 鶴の木館跡概要図



鶴の木館跡土層註記

T1-(1)

- 1 青褐色粘土質シルト
- 2 灰褐色粘土質シルト（粘土質多い）
- 3 灰褐色粘土
- 4 黑褐色泥炭質シルト
- 5 青灰褐色粘土

T2-(2)

- 1 青褐色粘土質シルト
- 2 灰褐色粘土質シルト（粘土質多い）
- 3 灰褐色粘土（上部約10cm暗灰褐色）
- 4 黑褐色泥炭質シルト（小石混土）
- 5 青灰褐色粘土

T3-(3)

- 1 茶褐色粘土質シルト（水田耕作土）
- 2 暗茶褐色粘土質シルト
- 3 灰褐色粘土
- 4 青灰褐色粘土（泥炭混土）
- ① 3・4層混土
- ② 暗青灰褐色粘土

T3-(4)

- 1 茶褐色粘土質シルト（水田耕作土）
- 2 暗茶褐色粘土（上部約15cm暗青灰褐色）
- 3 青灰褐色粘土（砂混土）
- 4 青灰褐色粘土
- 5 黑褐色粘土

第28図 鶴の木館跡試掘溝平面図、断面図



鶴の木館跡近景（西から）

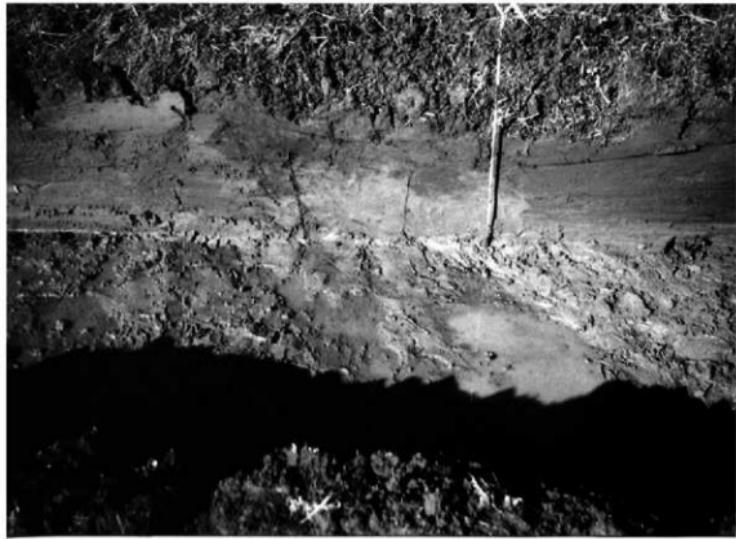


T1 調査状況（東から）

図版24 鶴の木館跡（1）



T 2 調査状況（東から）



T 3 S 1 土層断面（南から）

図版25 鶴の木館跡（2）

(15) 百刈田遺跡 (平成14年度登録)

所在地 山形県南陽市大字鳥貫字百刈田

調査員 名和達朗

調査期日 現地確認 平成14年9月9日 試掘調査 平成14年9月17日、26・27日

起因事業 一般国道113号赤湯バイパス改築事業

遺跡環境 市街地南側約500m、東西に位置するJR奥羽本線と市立沖郷小学校間の沖積地に立地する。標高は、217mを測る。地目は、水田である。

試掘区 事業予定地内の遺跡可能性地範囲にトレンドチ11ヶ所を設定。

試掘方法 重機+人力で試掘調査を実施。

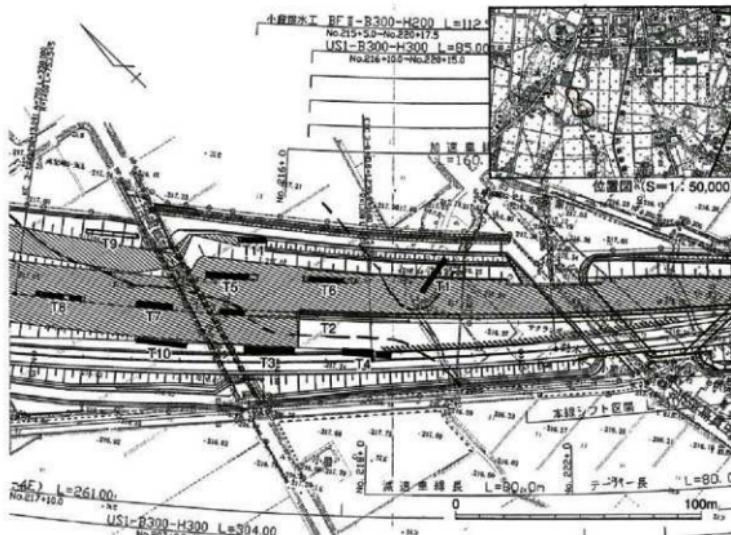
試掘面積 400m² (対象面積約10,800m²)

検出遺構 T6から土壙、T8、9から溝跡を検出。遺構・遺物確認面は、17~68cm。

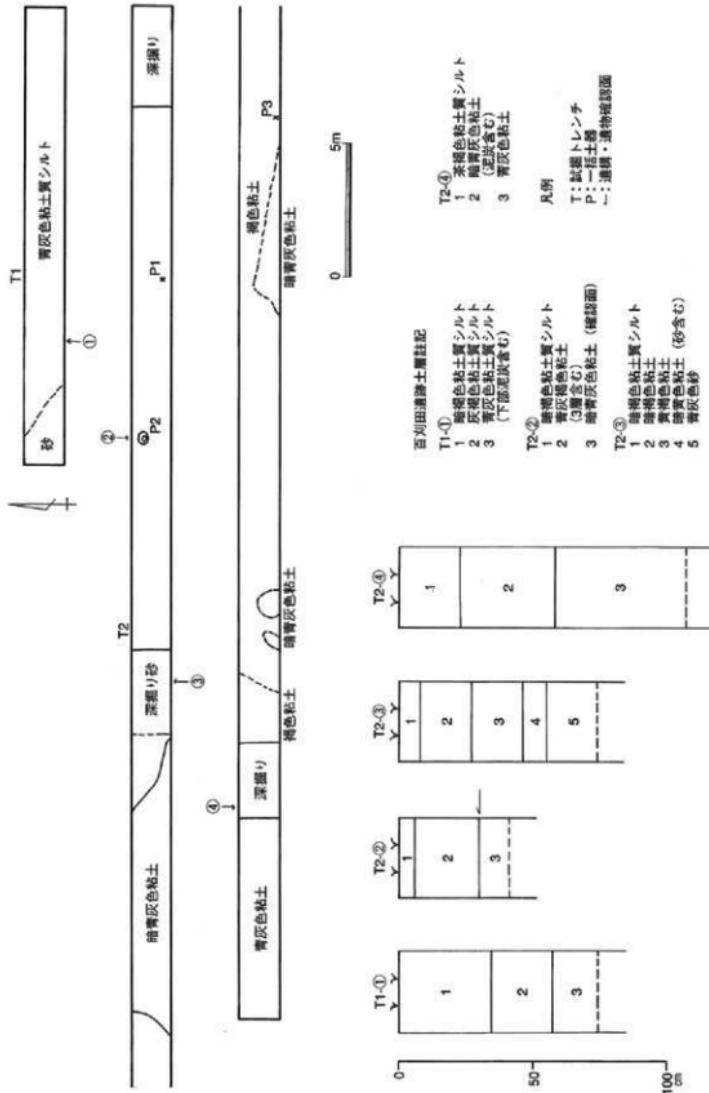
出土遺物 2から一括縄文土器・土師器、T3から土師器・須恵器、T4から土師器、T5から土器(集中出土)・四石、T6から土器、T7から土器、T11から土器出土。

時代 縄文時代・奈良・平安時代

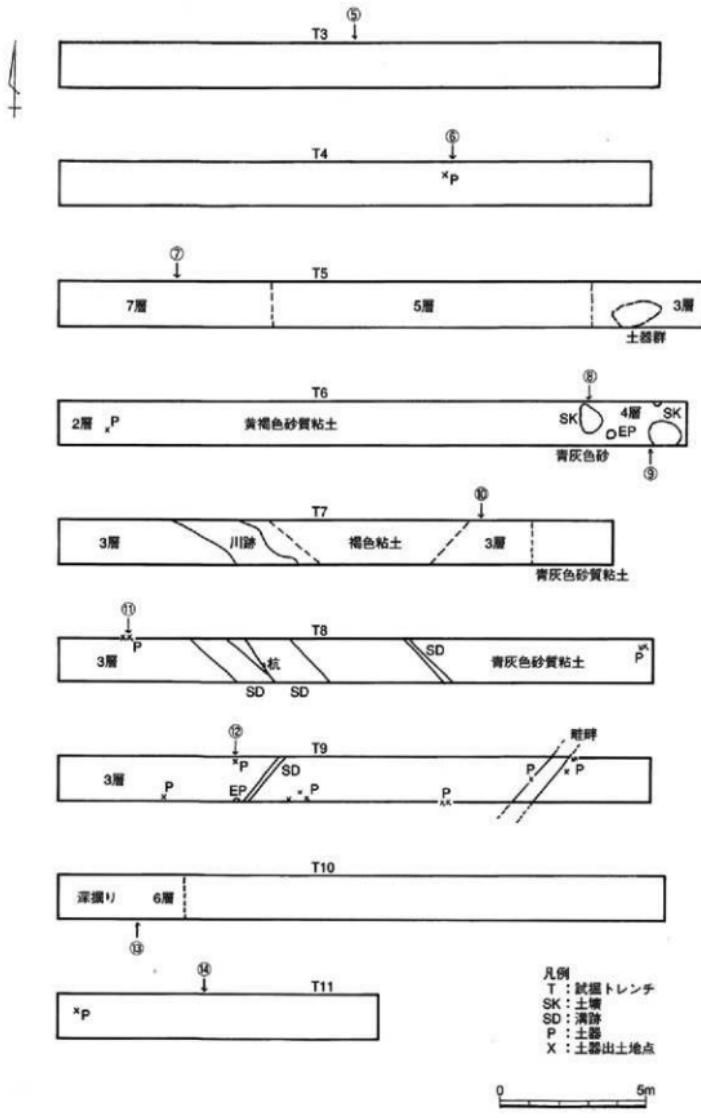
所見 試掘区の北側から南東方向に推定東西250m・南北250mの遺跡範囲が考えられる。事業に係る範囲については、記録保存が必要と判断される。なお、試掘結果の状況は、遺跡範囲がT2東側の区域に広がることが考えられる。その一帯は、今回未調査区域であることから遺跡可能性地と想定する。



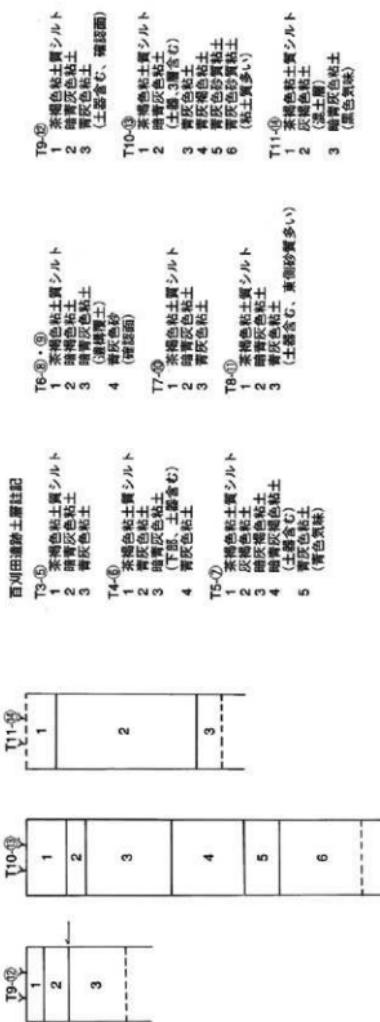
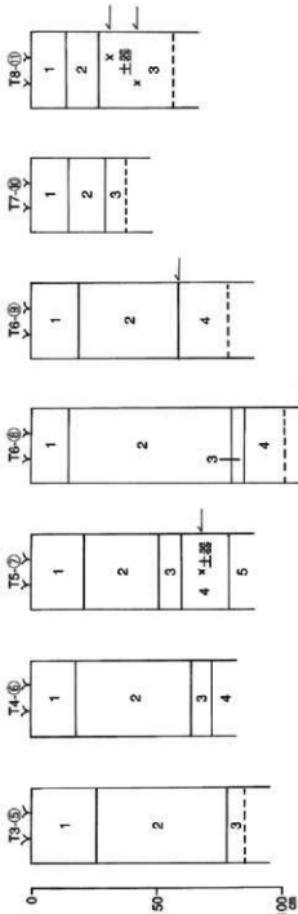
第29図 百刈田遺跡概要図



第30図 百刈田遺跡試掘溝平面図(1)、断面図(1)



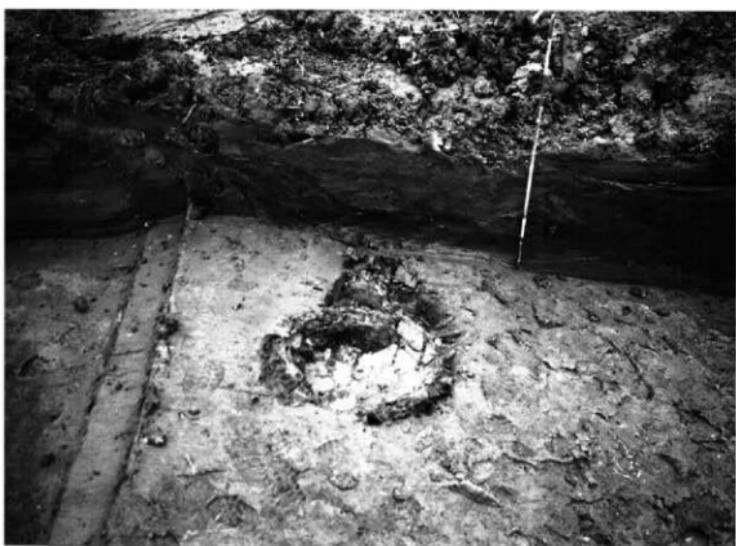
第31図 百刈田遺跡試掘溝平面図（2）



第32図 百刈田運路試掘断面図（2）



百刈田遺跡近景（西から）



T 2 ②土層断面、P 2 遺物出土状況（南から）

図版26 百刈田遺跡（1）



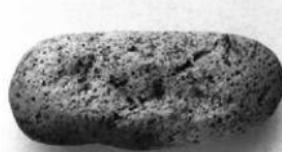
T 9 土層断面（南から）



出土縄文土器（1）



出土縄文土器（2）



出土石器



出土土師器

図版27 百刈田遺跡（2）

(16) 西中上遺跡（平成14年度登録）

所在 地 山形県南陽市大字高梨字西中上

調査 員 名和達朗

調査 期 日 現地確認 平成14年9月9日、10月3日

試掘調査 平成14年12月11～13日

起因 事業 一般国道113号赤湯バイパス改築事業

遺跡 環境 市街地南西側約500m、市立沖郷小学校沿い県道北側の自然堤防に立地する。

標高は、218.5mを測る。地目は、畠地である。

試掘 区 事業予定地内の遺跡範囲にトレンチ12ヶ所を設定。

試掘 方 法 重機+人力で試掘調査を実施。

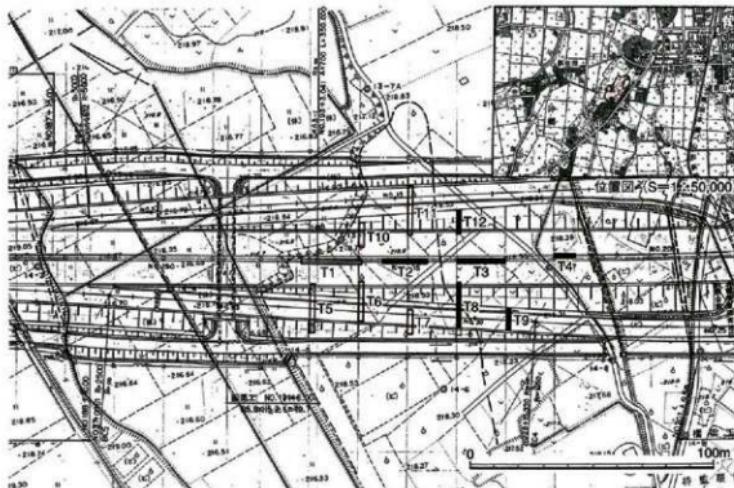
試掘 面 積 288.45m² (対象面積約9,000m²)

検出 遺構 T1 性格不明遺構・ピット、T5から住居跡・溝跡・土壌、T6から土壌・溝跡・ピット、T7から住居跡・溝跡・性格不明遺構、T8から溝跡？、T10から土壌・ピット、T11から土壌・溝跡を検出。遺構・遺物確認面は、27～52cm。

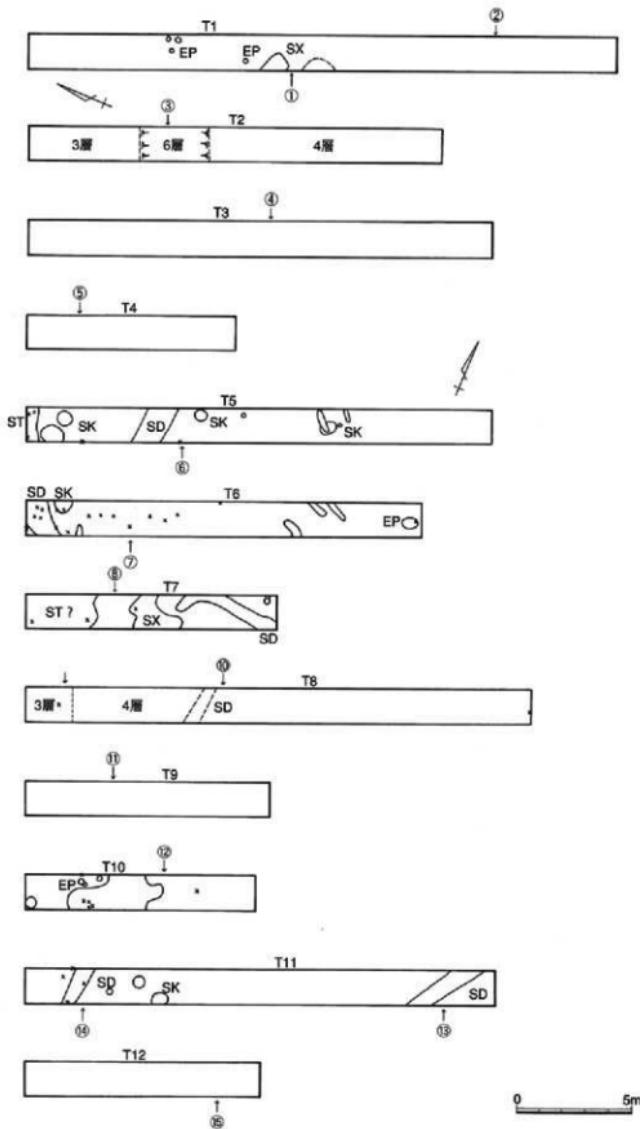
出土 遺物 T1・7・8・10・11から土師器、T5・6から土師器・須恵器出土。

時 代 奈良・平安時代

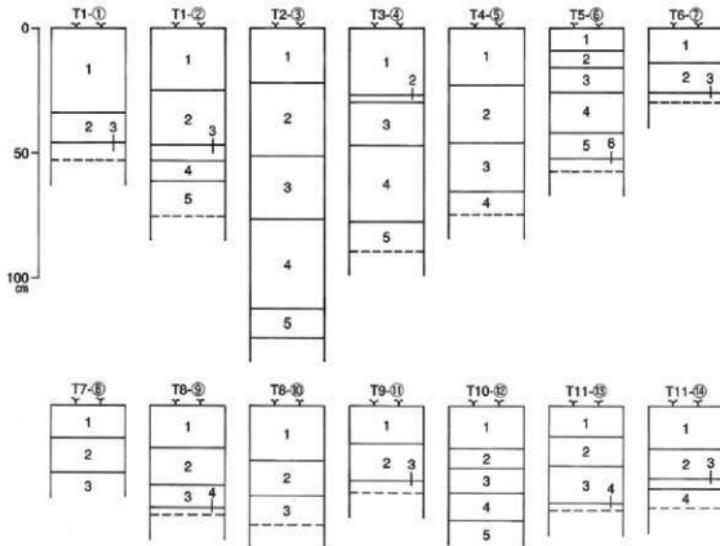
所 見 試掘区の西側に推定東西200m・南北320mの遺跡範囲が考えられる。事業に係る範囲については、記録保存が必要と判断される。



第33図 西中上遺跡概要図



第34図 西中上遺跡試掘溝平面図



西中上邊跡土層記記

T1-①
1 暗褐色粘土質シルト
2 暗色砂質シルト
3 黒褐色粘土質シルト

T1-②
1 暗褐色粘土質シルト
2 暗色砂質シルト
3 黑褐色粘土質シルト
4 灰褐色粘土質シルト
5 灰黑褐色粘土質シルト

T2-③
1 暗褐色シルト
2 茶褐色シルト〔砂混土〕
3 暗灰褐色粘土質シルト
4 黄褐色粘土質シルト
(酸化鉄混土)
5 青灰色粘土質シルト
(酸化鉄混土)
6 黄褐色粘土質シルト

T3-④
1 暗褐色シルト
2 黑褐色シルト
(地状にほぐれる)
3 茶褐色粘土質シルト
4 灰灰褐色粘土質シルト
5 青褐色粘土質シルト

T4-⑤
1 暗褐色シルト
2 茶褐色シルト
3 灰灰褐色粘土質シルト
4 青褐色粘土質シルト

T5-⑥
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 暗褐色シルト
3 暗褐色シルト
(黒い色調、土器含む)
4 細粒褐色粘土質シルト
(炭化物含む)
5 暗褐色粘土質シルト
(土器含む)
6 灰褐色粘土質シルト
(確認面)

T6-⑦
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 暗灰褐色砂質シルト
(確認面)

T7-⑧
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 暗褐色シルト
3 暗灰褐色砂質シルト
(確認面、粗砂混土)

T8-⑨
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 暗褐色シルト
3 暗褐色シルト
(黒い色調)
4 灰灰褐色粘土質シルト
(地山)

T8-⑩
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 灰灰褐色砂質シルト
3 灰褐色粘土質シルト

T9-⑪
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 暗褐色粘土質シルト
3 黄褐色粘土質シルト

T10-⑫
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 灰褐色粘土質シルト
3 暗褐色粘土質シルト
(土器含む)
4 暗灰褐色砂質シルト
5 暗褐色シルト
(確認面、地山)

T11-⑬
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 暗褐色シルト
3 灰褐色粘土質シルト
(やや黒い色調)
4 暗灰褐色粘土質シルト
(確認面)

T11-⑭
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 暗褐色シルト
3 灰褐色粘土質シルト
(やや黒い色調)
4 暗灰褐色粘土質シルト
(確認面、やや黒い色調)

T12-⑮
1 暗褐色シルト〔耕作土〕
2 暗褐色粘土質シルト
3 灰褐色粘土質シルト
(4層混土)
4 暗灰色粘土質シルト

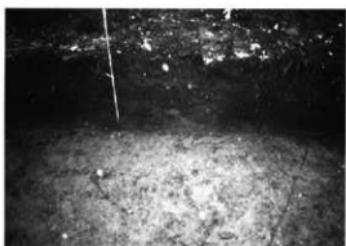
第35図 西中上邊跡試掘溝断面図



西中上遺跡近景（北から）



T 5 遺構検出状況（西から）



T 5 S 6 土層断面（北から）



出土須恵器壺



出土須恵器甌

(17) 六角壇遺跡 (平成4年度登録)

所在 地 山形県南陽市大字萩生田

調査員 名和達朗

調査期日 現地確認 平成14年10月3日 試掘調査 平成14年12月10・11日

起因事業 一般国道113号赤湯バイパス改築事業

遺跡環境 市立沖郷中学校西方約350m、市道萩生田間根線沿いの自然堤防に立地する。標高は、219mを測る。地目は、水田・畑地である。東側水田は、旧河道と考えられ、比高差は約2mである。

試掘区 事業予定地内の遺跡範囲にトレンチ7ヶ所を設定。

試掘方法 重機+人力で試掘調査を実施。

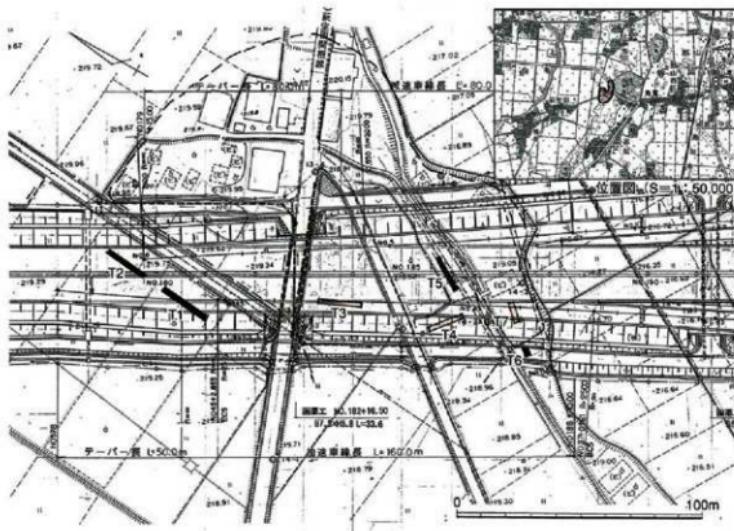
試掘面積 150.15m² (対象面積約11,700m²)

検出遺構 T2溝跡(新しい可能性)、T3から川跡、T4から川跡・性格不明遺構、T5から風倒木遺構、T7から溝跡・土塙を検出。遺構・遺物確認面は、21~50cm。

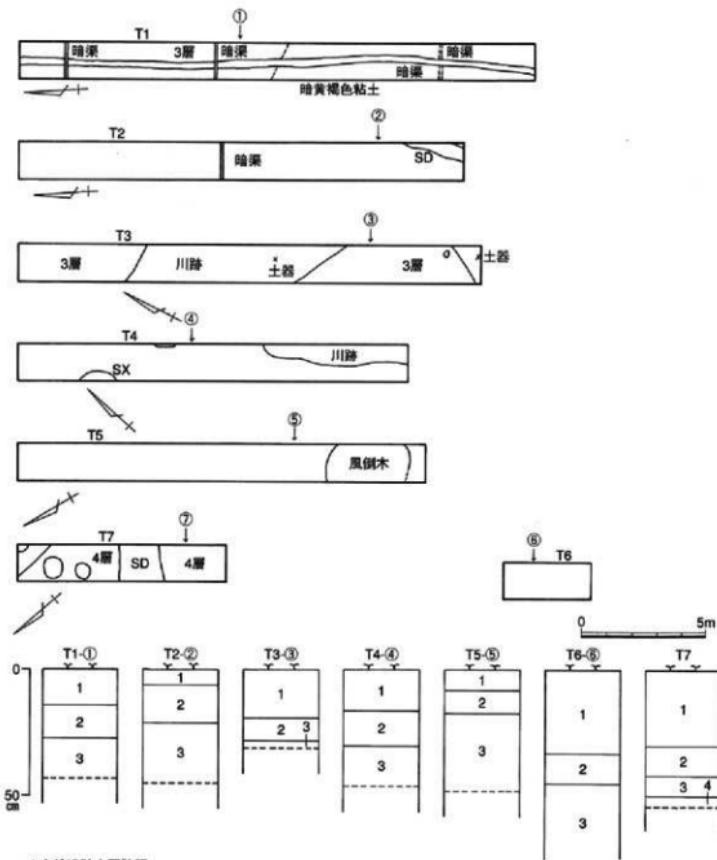
出土遺物 T3から土師器・須恵器出土

時代 奈良・平安時代

所見 市道の南北側に推定東西100m・南北210mの遺跡範囲が考えられる。事業に係る範囲については、記録保存が必要と判断される。なお、市道北側及びT5東西区域は、試掘未調査であり、微高地形を参考に遺跡範囲を推定した。



第36図 六角壇遺跡概要図



六角塙遺跡土層註記

T1-①
1 暗褐色粘土質シルト
2 暗褐色粘土質シルト
(黒褐色粘土質シルト粒混土)
3 褐色粘土

T2-②
1 暗褐色粘土質シルト
2 暗黃灰色粘土質シルト
3 褐色シルト(地山)

T2-SD
F1 暗褐色シルト
(地山粒混土)

T3-③
1 暗褐色粘土質シルト
2 暗灰褐色粘土質シルト
3 褐色粘土
(地山、確認面、しまっている)

T4-④
1 暗褐色粘土質シルト
2 暗褐色粘土質シルト(粘土質強い)
3 褐色粘土質シルト(地山)

T5-⑤
1 暗褐色粘土質シルト
2 暗褐色粘土質シルト(地山混土)
3 褐色粘土質シルト

T6-⑥
1 暗褐色粘土質シルト
2 暗茶褐色粘土質シルト
3 灰褐色砂質シルト

T7-⑦
1 暗褐色シルト
2 黒褐色粘土質シルト
3 暗黃褐色粘土質シルト
4 褐色粘土質シルト
(地山、確認面)

第37図 六角塙遺跡試掘溝平面図、断面図



六角壇遺跡近景（南東から）



T 3 調査状況（南から）

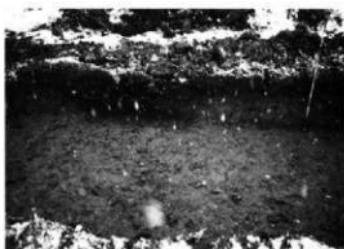
図版29 六角壇遺跡（1）



T 3 造構・遺物出土状況（北から）



T 4 調査状況（南東から）



T 4 土層断面（西から）



T 7 造構検出状況（西から）



出土須恵器片

図版30 六角墻遺跡（2）

3 記録保存調査の概要

(1) 若宮遺跡 (平成13年度登録)

所 在 地 山形県山形市灰塚字若宮

調 査 員 長橋 至

調 査 期 日 平成13年7月18日～7月25日

起 因 事 業 須川下流部河川改修

遺 跡 環 境 須川と白川の合流点北側、須川右岸の河川敷に立地する。標高は約93mを測る。対岸に川前2遺跡、達磨寺遺跡など、古墳時代から平安時代の集落が所在している。

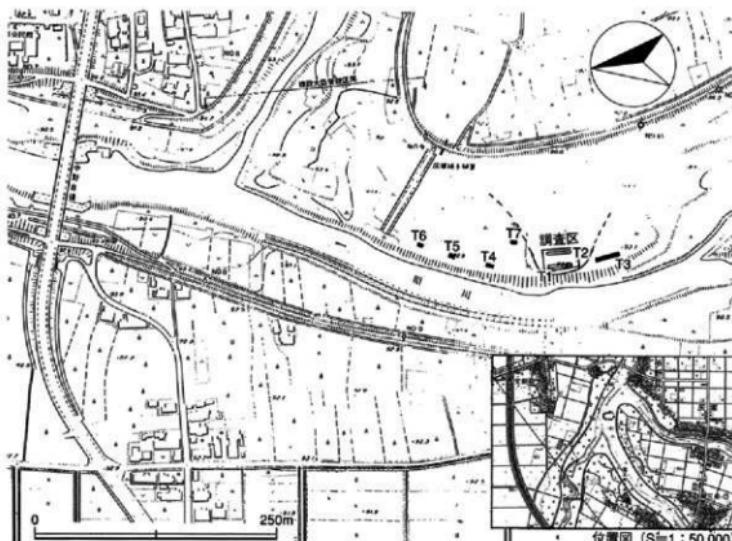
調 査 区 平成13年6月に実施した試掘調査の結果、事業対象地区内で遺構が確認された部分を遺跡範囲とし、事業による土取り対象部分を調査区として設定した。

調査方法事業者の協力により、重機で表土を除去後、人力で面整理、検出された遺構の掘下げ、記録保存を行った。

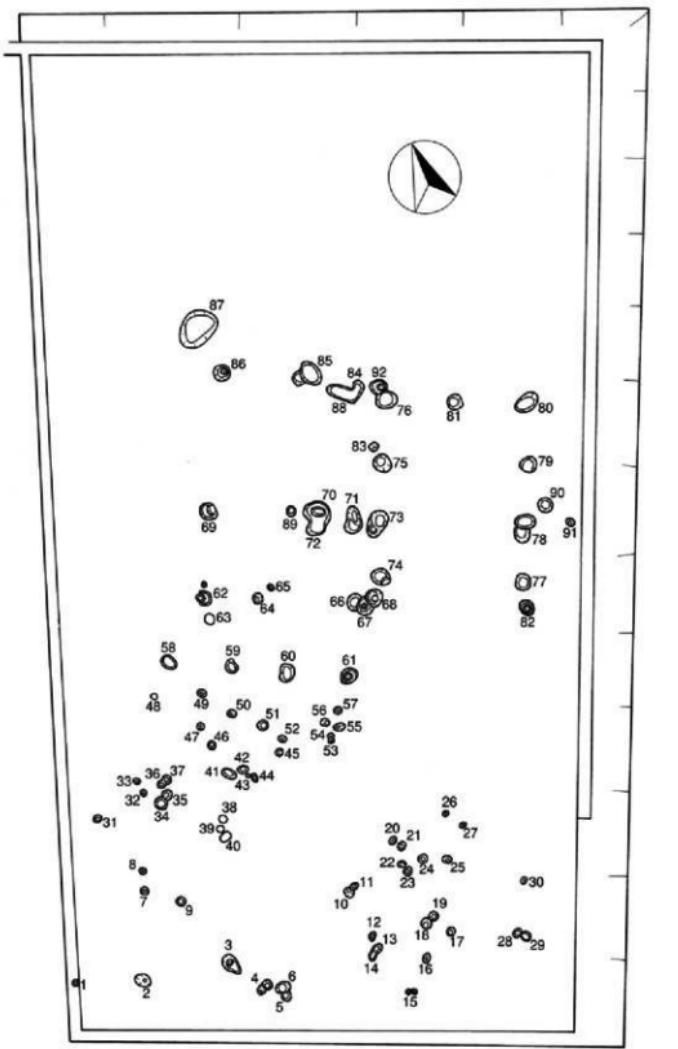
調 査 面 積 トレンチによる試掘調査160m² 記録保存620m²

調査の概要

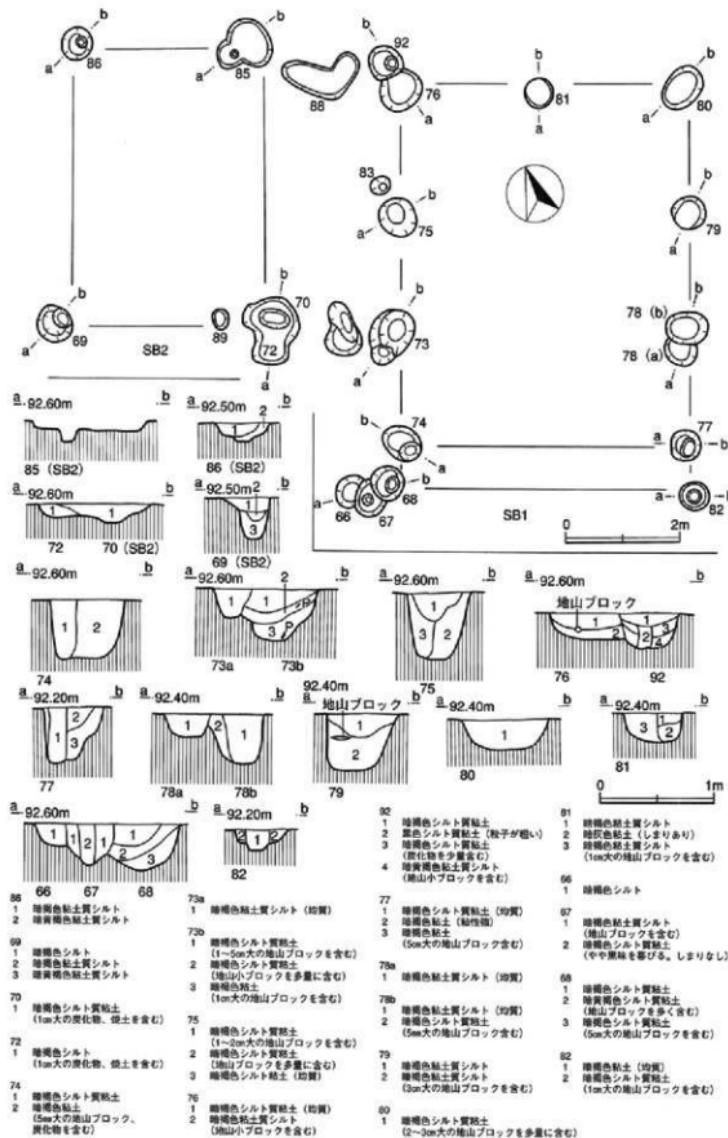
調査区の範囲が自然堤防上の微高地となる。北側のT4～T7では地山面までは200cmの堆積土、南側では調査区内で地山面まで100cmの堆積土が見られる。調査区中央西壁の層位は、1層（グランド盛土整地層30cm）2層（暗褐色砂質シルト20cm）以下黄褐色シルト層となり遺構検出面となる。遺物包含層は調査区内では未検出である。



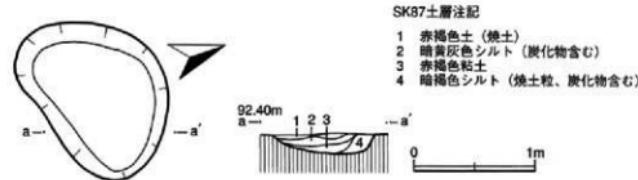
第38図 若宮遺跡概要図



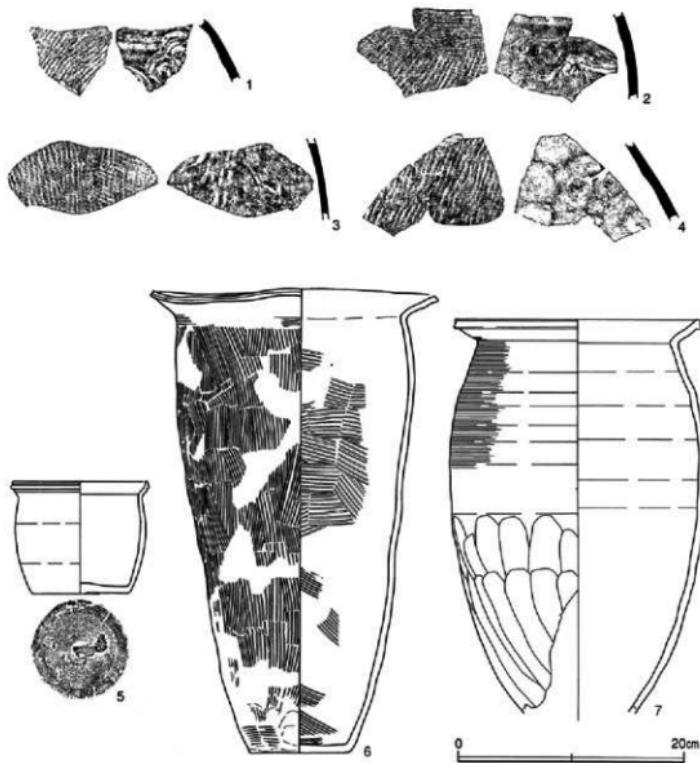
第39図 若宮造跡構配図



第40図 若宮遺跡 S B 1、2、3遺構平面図、土層断面図



第41図 若宮遺跡SK87平面図、土層断面図



第42図 若宮遺跡出土土器実測図

検出された遺構

柱穴は92検出された。掘立柱建物跡2棟、掘立柱列1以外の構成は不明である。

S B 1 掘立柱建物跡

身舎の桁行3間、梁行2間（南側梁行で中央の柱穴未検出）、南側が片廂となる。柱間距離は200～220cmを測る。掘りかたは円形または梢円形を呈し、径60～100cm、深さは40～50cm、柱痕跡はE B74、77、82で観察された。柱穴からの出土遺物はない。桁行きの主軸方向はN-18°-Eとなる（N：磁北）。

S B 2 掘立柱建物跡

梁行1間、桁行1間、梁行は300cm、桁行は480cmを測る。掘り方は浅く明瞭な柱痕跡は認められない。主軸方向はN-18°-Eで、S B 1とセットになる建物跡と想定される。

その他、E B58、59、60、61は柱間200cmで一列となり、方向はS B 1・2主軸方向と直交し、これらに付属する施設の可能性も考えられる。調査区南側の小柱穴群の建物構成は不明である。

S K87土坑

不整梢円形を呈する浅い土坑である。長径140cm、短径110cm、検出面からの深さは15～20cmを測る。検出段階から遺物が出土し、炭化物、焼土が観察された。

出土した遺物

調査区から整理箱で3箱程度出土した。まとまりのあるS K87出土土器を示す。

須恵器壺体部片2、3は同一個体か。外面は平行叩キ目+横方向のカキ目、内面は青海波のアテ痕、1は叩キ目のみでカキ目は観察されない。4は外面平行叩キ目+横方向のカキ目、内面は青海波ではなく、円形のアテ痕。

土師器で図示したものは3個体である。5は小形の壺（鉢形壺）で、ロクロ成形、底部へラ切、口縁部に細い陵が廻る。口縁部径11.5cm、器高9.7cm。6は非ロクロの長胴壺で、口縁部が外に開く。外面は縱方向の刷毛目調整、底部付近で若干のケズリが見られる。内面は横方向の刷毛目調整である。胴部上半に若干の張りが見られる。口縁部径25cm、器高40.4cm。7はロクロ使用の長胴の壺で、体部下半に縱方向のケズリが見られる。胴部中央からやや上半に膨らみを持つ。口縁部径21cm、器高は現存高で34cm。これら3個体はS K87出土の一括資料となる。

ロクロ使用の長胴壺は初現的な器形、要素を有する。非ロクロの長胴壺との併存例は8世紀後半で認められる。また、小形の壺との併存もまた多くの例がある。S K87の年代は8世紀後半と考えられる。

今回検出されたS K87に隣接する掘立柱建物跡は、柱穴からは遺物の出土はなかったが、8世紀後半の所産として大過ないものと考えられる。

調査区は限定されたが、柱穴の規模、竪穴住居が未検出である点、立地が河川際である点、さらに年代的には須川の対岸に所在する川前2と共通する部分もある点などから、舟運にかかる性格を有する遺跡の可能性が考えられる。



調査風景（東から）



調査区南壁東側土層断面（北から）



調査区プラン検出状況（北東から）



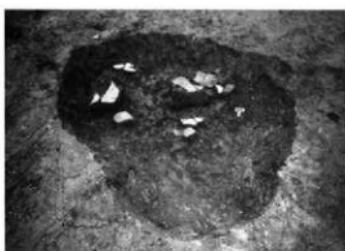
調査区南側完掘状況（東から）



完掘状況全景（東から）



S K 87土層断面（西から）



S K 87遺物出土状況（西から）

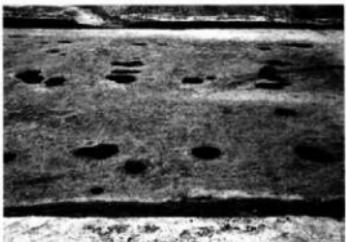


S K 87完掘状況（西から）

図版31 若宮遺跡（1）



SB 1 据立柱建物跡完掘状況（北東から）



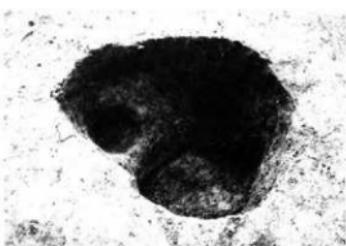
SB 1 据立柱建物跡完掘状況（東から）



SB 1 E B66～68土層断面（南から）



SB 1 E B66～68完掘状況（南から）



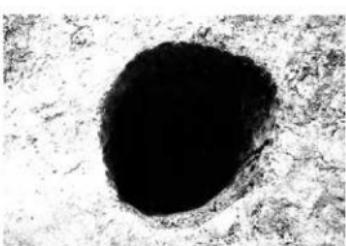
SB 1 E B73完掘状況（南東から）



SB 1 E B73土層断面（南東から）

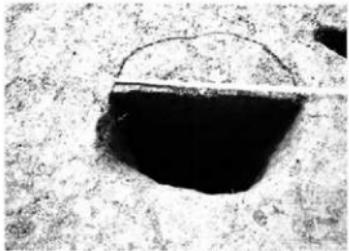


SB 1 E B74土層断面（南東から）



SB 1 E B74完掘状況（南東から）

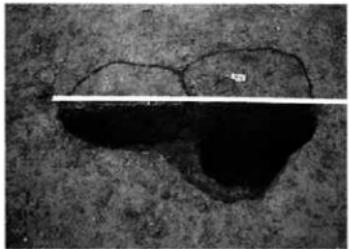
図版32 若宮遺跡（2）



SB1 EB75土層断面（東から）



SB1 EB76、92土層断面（南東から）



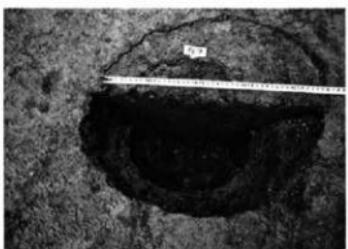
SB1 EB78土層断面（東から）



SB1 EB79土層断面（東から）



SB1 EB81土層断面（東から）



SB1 EB82土層断面（東から）



SB2 EB70、72土層断面（東から）



SB2 EB70、72完掘状況（東から）

図版33 若宮遺跡（3）



S B 2 E B86土層断面（南から）



S B 3 挖立柱列完掘状況（東から）



E B 58土層断面（東から）



E B 59土層断面（東から）



E B 60土層断面（東から）



E B 60完掘状況（東から）

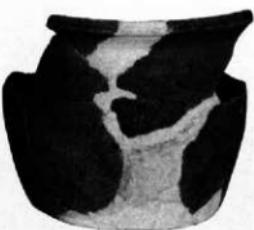


E B 61土層断面（東から）



E B 71土層断面（東から）

図版34 若宮遺跡（4）



図版35 若宮遺跡（5）

(2) 台の上遺跡 (遺跡番号215)

所在 地 山形県上山市大字下字平林

調査員 佐藤正俊

調査期日 調査打合: 平成14年5月14日

発掘調査: 平成14年5月21日～6月25日 (21日間)

起因事業 主要地方道上山七ヶ宿線道路改良事業

調査面積 1,840m² 平成13年度試掘調査の結果、東西に延びる側道取付部分が緊急発掘

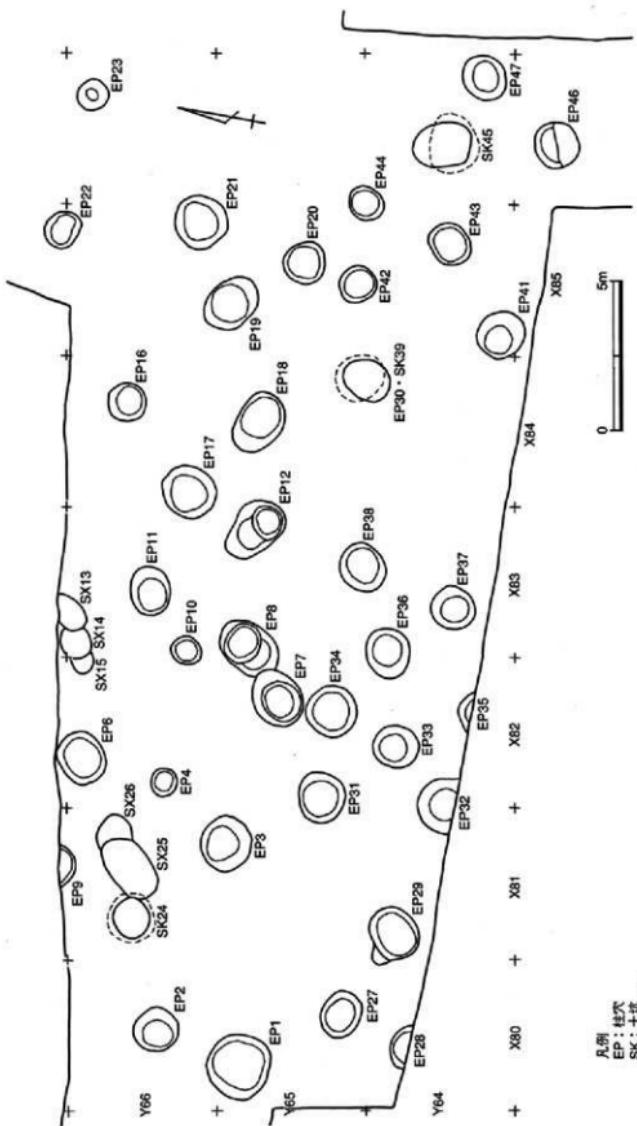
調査の対象地区

遺跡環境 (第43図 図版36)

遺跡は上山市街地から南東約8km、片倉山が上山盆地に突き出した舌状の丘陵に位置し、北に須川、東には金山川が合流する地点である。遺跡の範囲は約150m四方で、標高283m前後を測る。地目は、水田・畑地・果樹地となっており、昭和40年代半ばに土地改良事業によって階段状の地形に改変されている。調査区は南東端、この地区では最も高い位置に在る。遺跡の西北側には、戦国期の15世紀中頃から16世紀まで築城された楯下城跡と一部重複している。往時は伊達氏と最上氏の拮抗する関係にあったが、後に最上氏の勢力下に入った。



第43図 台の上遺跡概要図



第44図 台の上滑跡と機配置図

調査概要 (第43・44図)

発掘調査は、現農道があるため2回に分けて行うことにして、前半が5月21日から6月4日、後半を6月12日から6月25日に調査を実地した。試掘調査の結果、大半が土地改良事業によって遺物抱含層が削平されているため、前後半とも重機械での15~25cmの厚さで表土を剥ぎ取り、人力で面整理・遺構確認作業、精査検出、各記録作業など一連の工程を実施した。調査区E P35~18~21にかけての東側は地山層が大部分削平されている。北東及び南東端も同様に遺物や遺構も確認されない。またX軸79以西は、地形が階段状に開削されているため遺物や遺構が検出されなかった。

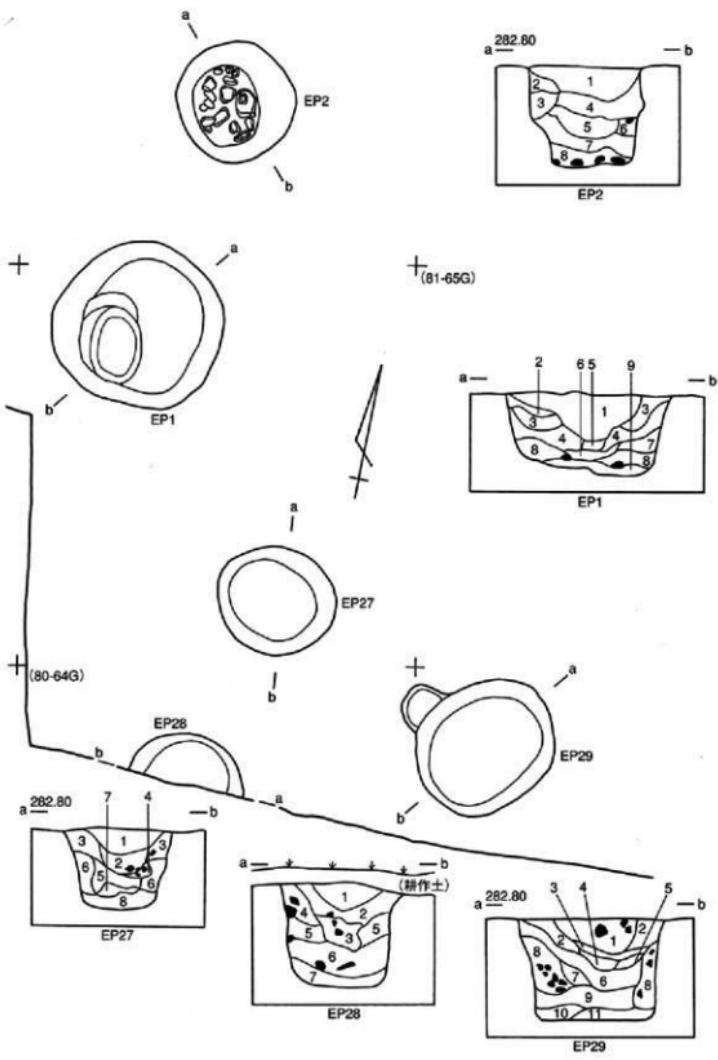
(1) 検出遺構 (第44~49図 図版37~42)

検出された遺構は、掘方を持つなど深度が深い大型柱穴35、深度の浅い小型柱穴4、土杭(袋状)3、不明遺構(落ち込み)5の47基で、調査区の中央寄りから東側端にかけて集中しているが、限定された調査区のため柱穴の配列や建物跡の構成が明らかになっていない。なお、小型柱穴の詳細な事項については、紙面の都合上割愛することにして観察表を参考にされたい。

深度の深い大型柱穴は、柱穴の掘方や覆土層の堆積状態などの状況から大きく5分類される。いずれもが黄褐色地山層から砂礫層を掘込み疊層の上面まで達して、大きさが直径104~209cm・深さ75~166cmではほぼ垂直に掘込んでいる。

掘方を持つ柱穴は、E P 1・7・16・17・18・30・32・34・36・37・41・42・43・44・46で、調査区全体に散在しているが特に東側に多く集中している。中には柱を抜取っているE P 1・16・17などがみられる。

- 第45図・E P1: 1暗褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3黒褐色・褐色粘土ブロック 4褐色・黒褐色粘土ブロック 5同色粘質微砂
6同色粘質微砂 7黒褐色粘土 8黄褐色粘質微砂 9褐色粘質微砂
- E P2: 1暗褐色粘質微砂 2黒褐色粘土 3褐色粘土 4褐色粘土ブロック 5暗褐色粘質微砂 6褐色粘土 7褐色粘質微砂
8暗褐色粘質微砂
- E P27: 1褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3黒褐色・褐色粘土ブロック 4褐色・黒褐色粘土ブロック 5褐色粘質微砂
6褐色粘土 7褐色粘質微砂
- E P28: 1褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3褐色粘質微砂 4褐色粘質微砂 5暗褐色粘土 6黄褐色粘質微砂 7褐色粘質微砂
- E P29: 1褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3黒褐色粘土 4褐色粘質微砂 5褐色粘土 6褐色粘質微砂 7褐色粘質微砂
8褐色粘土 9褐色粘質微砂 10褐色粘土 11褐色粘土
第46図・E P6: 1暗褐色粘質微砂 2黒褐色粘土 3褐色粘質微砂 4褐色粘質微砂 5暗褐色粘質微砂 6褐色粘質微砂 7褐色粘質微砂
8褐色粘土
- E P7: 8: 1褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3褐色・褐色粘土ブロック 4褐色粘質微砂 5褐色粘質微砂 6褐色粘質微砂
7褐色粘質微砂 8 黑褐色粘質微砂 9 黑褐色粘質微砂 10褐色粘質微砂 11褐色粘質微砂
12褐色粘土(1~5:E P7 6~12:E P8)
- E P9: 1褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3褐色粘質微砂 4褐色粘質微砂 5褐色粘質微砂 6褐色粘質微砂
- E P11: 1褐色粘質微砂 2黒褐色粘質微砂 3褐色粘質微砂 4褐色粘土ブロック 5褐色粘質微砂 6褐色粘質微砂
- S K24: 1褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3褐色粘質微砂 4褐色粘土 5褐色粘土ブロック 5褐色粘質微砂 6褐色粘質微砂
7褐色粘土ブロック
- E P34: 1褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3褐色粘質微砂 4褐色粘質微砂 5褐色粘土ブロック 5褐色地山ブロック
6褐色粘土ブロック 7褐色粘質微砂 8褐色粘質微砂 9褐色粘土ブロック 10褐色地山粘土
第47図・E P12: 1褐色粘土ブロック 2黒褐色粘質微砂 3黒褐色粘質微砂 4褐色粘土地山ブロック 5黒褐色粘質微砂 6褐色粘土
7褐色粘土
- E P16: 1褐色粘土ブロック 2褐色粘土ブロック 3褐色粘土ブロック 4褐色粘土ブロック 5褐色地山ブロック
6褐色粘土
- E P17: 1褐色粘質微砂 2褐色粘質微砂 3褐色粘土ブロック 4褐色粘質微砂 5褐色粘土ブロック 6褐色粘質微砂
7褐色粘質微砂
- E P18: 1褐色粘質微砂 2黒褐色粘質微砂 3黒褐色粘土ブロック 4褐色粘質微砂 5褐色粘土ブロック 6褐色粘質微砂
7黒褐色粘質微砂
- E P19: 1褐色粘質微砂 2褐色粘土ブロック 3褐色地山ブロック 4褐色粘土ブロック 5褐色粘土ブロック 6褐色地山ブロック
7褐色粘質微砂
- E P20: 1褐色粘質微砂 2褐色地山ブロック 3黒褐色粘質微砂 4褐色粘土ブロック 5褐色粘土ブロック 6褐色地山
- E P21: 1褐色粘土ブロック 2褐色粘質微砂 3黒褐色粘質微砂 4褐色粘土
7褐色粘質微砂



凡例 水系レベル標記以外はBM : 283.0m
●: 墓

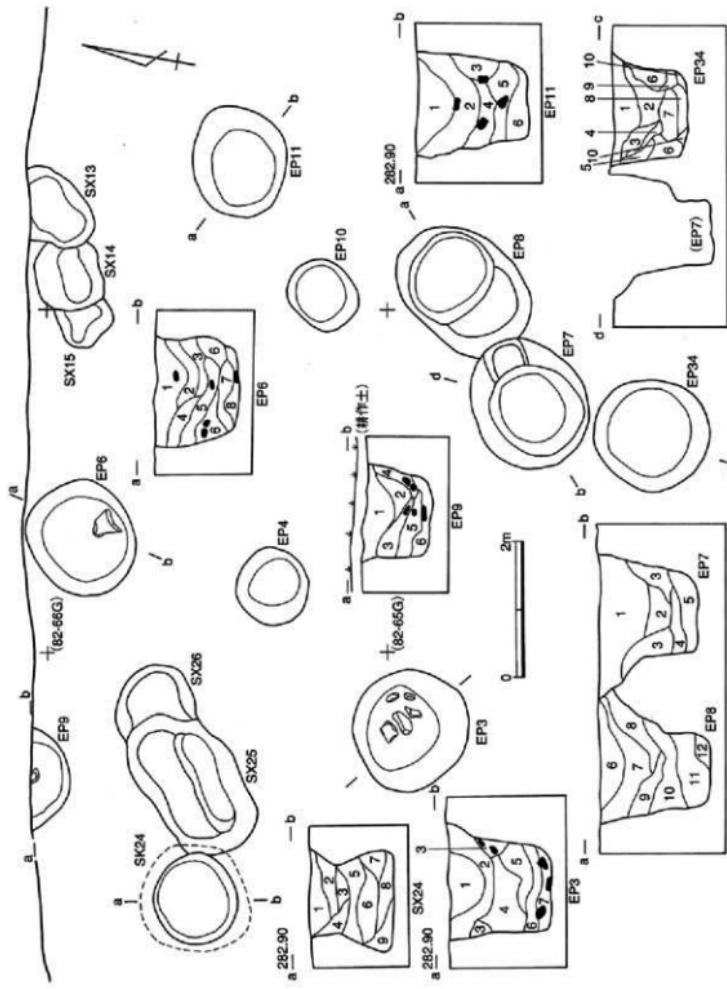
0 2m

第45図 台の上遺跡検出遺構平面図、断面図（1） E P 1、2、27~29

表-3 台の上遺跡検出柱穴・土坑一覧

No.	遺構名	位置	平面形	長径×短径・深度	掘込	出土遺物	備考
1	E P 1	80-65・66	不整円形	209×205・95 163×148	(振り方)	5類4・石錐1	柱の抜き取りあり
2	E P 2	80-66	不整円形	138×142・124 104×98	直立		底面に織を敷き詰める
3	E P 3	81-65・66	不整円形	176×165・153 104×100	直立	6a類3・剥片1	底面に織を敷き詰める
4	E P 4	82-66	円形	109×107・38	傾斜		
5	E P 6	82-66・67	不整方形	167×151・128 115×112	直立	3類1 (土製円盤) 中期土器片1・磨石1	底面に人頭大の織あり
6	E P 7	82-65	楕円形	198×169・145 103×94	(振り方)	1b類2・剥片1	柱の抜き取りあり
7	E P 8	82-83-65	不整方形	203×158・162 115×89	直立	4類1	E P 7と重複。E P 8旧
8	E P 9	81-65・67	(椭円形)	(145)・112 (111)	直立	剥片5	
9	E P 10	82-83-66	方形	107×92・41	傾斜	剥片1	
10	E P 11	83-66	楕円形	170×132・106 111×95	直立		
11	E P 12	83-65	不整方形	212×158・128	(振り方)	剥片2	
12	E P 16	84-66	円形	130×129・89 93×86	振り方	7類1	
13	E P 17	83-84-66	不整方形	181×165・120 123×119	振り方		柱の抜き取りあり
14	E P 18	84-65	椭丸形	209×149・141 143×117	振り方	6a類1	
15	E P 19	85-65・66	楕円形	202×158・117 130×125	(振り方)	中期土器片3	柱の抜き取りあり。底面に扁平な川原石あり。
16	E P 20	85-65	不整円形	137×132・79 107×102	直立		
17	E P 21	85-86-66	不整円形	178×165・112 135×112	直立	2類1・中期土器片1	
18	E P 22	85-65-67	楕円形	125×114・34	傾斜		
19	E P 23	86-66	円形	104×97・76	直立	剥片1	
20	S K24	81-66	円形	122×126・128 86×160	袋状	中期土器片1	
21	E P 27	80-65	楕円形	151×137・96 110×90	直立	剥片2	
22	E P 28	80-64	(円形)	148・131	直立	四石1	
23	E P 29	81-64	楕円形	183×157・133 149×111	直立		
24	E P 30	84-64-65	(円形)	107・107 48	(振り方)		土層断面観察で検出
25	E P 31	81-82-65	円形	154×148・139 113×109	直立	1a類1, 1b類2, 1c類8、3類1、5類1、石錐1	
26	E P 32	81-82-64	(円形)	181・152 107	振り方		底面に人頭大織を有す
27	E P 33	82-64	円形	148×146・124 99×92	直立	中期土器片1	
28	E P 34	82-65	円形	172×164・111 127×122	振り方	7類1	
29	E P 35	82-64	(椭円形)	(142)・84 (103)	直立		
30	E P 36	82-83-64	不整円形	162×159・77 108×106	振り方	前期土器片1	底面に扁平な川原石を有す
31	E P 37	83-64	円形	145×141・100 93×87	振り方		
32	E P 38	83-64-65	楕円形	164×148・103 124×138	直立	剥片1	
33	S K39	84-64-65	楕円形	165×134・97 120×150	袋状	6a類8、6b類14、7類21、石錐片1	
34	E P 41	85-63-64	楕円形	161×143・94 97×88	振り方		
35	E P 42	85-64-65	円形	124×129・102 98×90	振り方	中期土器片3	
36	E P 43	85-64	不整円形	141×125・72 111×101	振り方	剥片1	
37	E P 44	85-86-64	不整円形	121×111・75 111×101	(振り方)	磨石片1	
38	S K45	86-64	不整方形	192×141・189 201×158	袋状	6b類18、7類9、石錐片1	
39	E P 46	86-63	(円形)	152×(146)・78 (121)	直立	剥片2	柱を抜き取り埋め戻す
40	E P 47	86-64	不整円形	151×142・91 101×89	振り方		

※範囲：上段－上場、下段－下場 單位－cm S X13からは4類土器3点出土



第46図 台の上港跡検出遺構平面図、断面図(2) EP3、4、6~11、34、SK24

柱が抜取られている柱穴がE P 1・6・7・16・17・19・34・46、上層の覆土が黄褐色地山粘土・暗褐色粘土ブロックや小砾を大量に混じり上層のみを埋め戻している。E P 46は柱を抜取ってから全体を埋め戻している。E P 6・19は掘方がみられず、柱を抜取ってから時間が経過してから埋めたものと考えられる。調査区の中央部のE P 7~19付近に多く位置している。

覆土上層の中央に砾や褐色粘土が充満し堅く築き固められた柱穴が、E P 12・21・31・35・38で、中層から下層にかけては自然堆積である。恐らく住居跡の床面を構成していたものとみられる。調査区中央のE P 36周辺に偏在している。

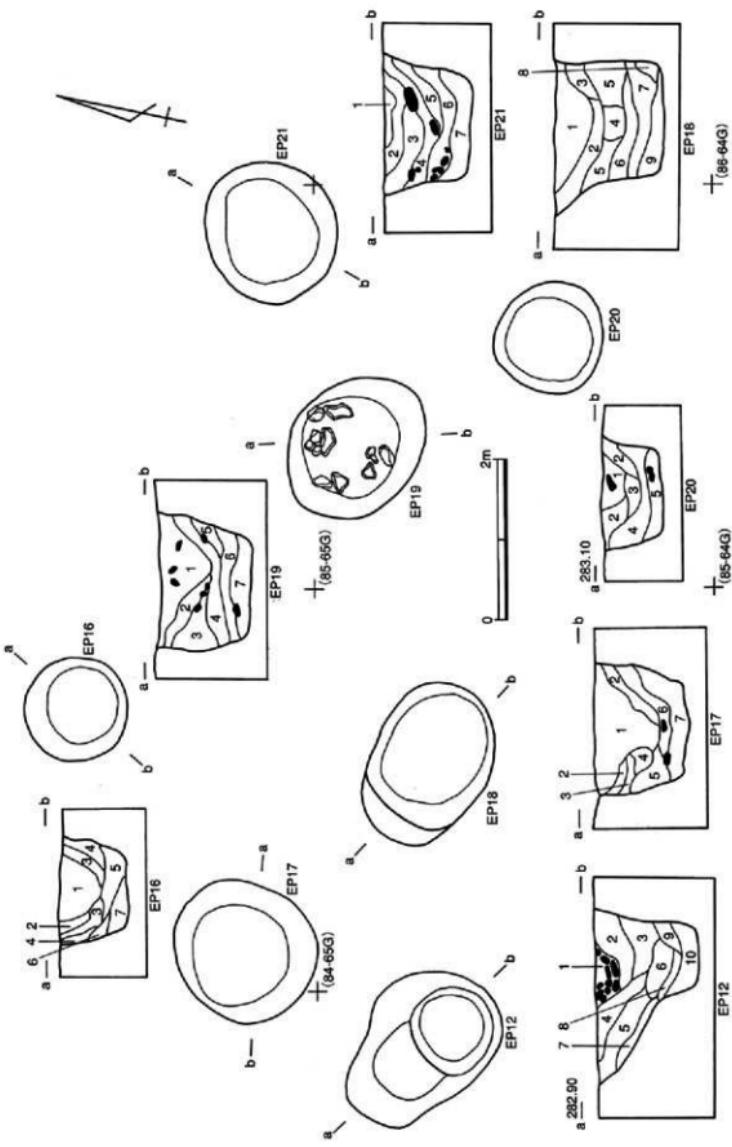
柱穴の底面に砾や河原石を敷いているものがE P 2・3・6・19・32・36・37で、人頭大の砾を敷いているのがE P 6・32、E P 19・36には扁平な河原石、小砾を敷いているE P 2・3・37で、調査区の西側から中央にかけて在る。その他の自然堆積の柱穴であるが調査区の全体に散在している。

柱穴の配列や建物跡の構成が明らかになっていないが、中には唯一可能性のある長方形柱穴列が調査区の中央部に位置している。長軸方向がほぼ南北に傾き、東辺がE P 17・12・38・37、西辺がE P 11・8・34・33で、大きさが東辺長軸9.78m・西辺長軸9.56mあり、柱と柱の間隔が3.5m~4.9mである。

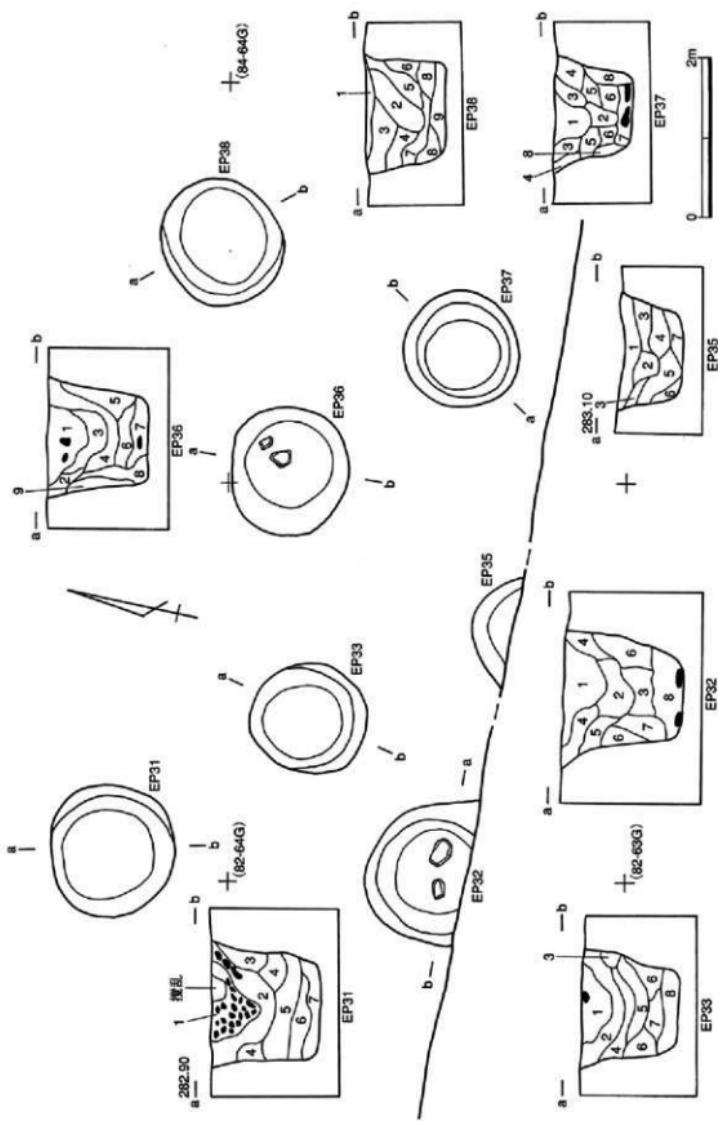
この方形柱穴列について、新潟県の五丁歩遺跡を参考にしてみると、本遺跡の場合は全体に地山区が削平され床面や炉跡が検出されていないが、方形・長方形あるいは一部亀甲状になる等の大型の堅穴住居跡や掘立柱建物跡の可能性もある。

S K 24・39は規模や形状が類似し、平面形が円・橢円形を呈し直径122~165cm・深さ1m前後。S K 45は不整形で深さ189cmとともに深く中段がオーバーハングしている。

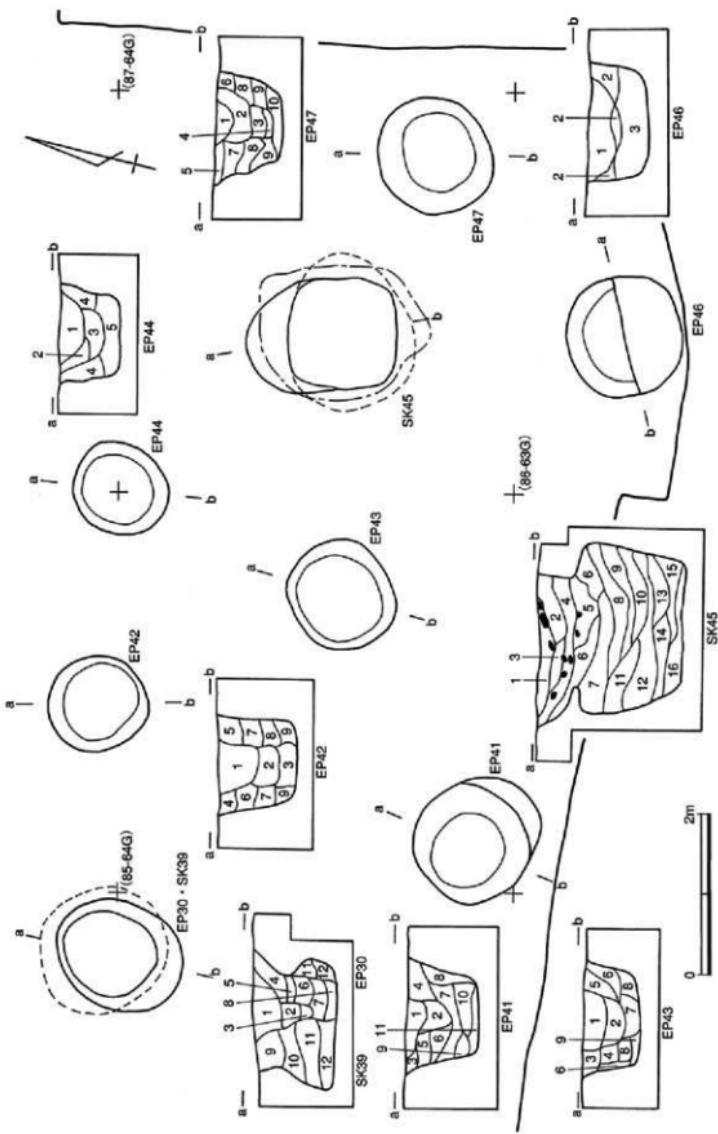
- 第48区 E P31: 1暗褐色粘土ブロック 2黒褐色粘質微砂 3黒褐色粘質砂 4黄褐色粘土 5暗褐色粘質微砂
7褐色粘質微砂
- E P32: 1褐色粘質砂 2暗褐色粘質微砂 3褐色・黒褐色粘土ブロック 4暗褐色粘土ブロック 5黄褐色地山ブロック
6褐色・黄褐色粘土ブロック 7暗褐色粘質砂
- E P33: 1褐色・暗褐色粘土ブロック 2褐色粘質砂 3黄褐色粘土ブロック 4褐色粘質砂 5黑褐色粘質砂
6褐色粘土ブロック 7暗褐色粘質砂 8黒褐色粘質砂
- E P35: 1褐色・黄褐色粘土ブロック 2褐色粘土ブロック 3褐色粘土ブロック 4褐色地山ブロック 5黒褐色粘質微砂
7褐色・黄褐色粘砂
- E P36: 1褐色粘質砂 2褐色・暗褐色粘土ブロック 3褐色粘質砂 4褐色粘質砂 5黄褐色粘土ブロック
6褐色・暗褐色粘土ブロック 7褐色粘質砂
- E P37: 1褐色粘質砂 2褐色粘質砂 3褐色粘土ブロック 4褐色・暗褐色粘土ブロック 9黄褐色粘土ブロック
6褐色粘土ブロック 7褐色粘質砂 8褐色粘土ブロック
- E P38: 1褐色粘土ブロック 2褐色粘質砂 3褐色粘土ブロック 4褐色粘質砂 5黒褐色粘質砂
6黄褐色粘土ブロック 7褐色粘質砂 8褐色粘土ブロック 9褐色粘质粗砂
- 第49区 E P30: 1褐色粘土ブロック 2褐色粘質砂 3褐色粘土ブロック 4褐色粘土ブロック 5黒褐色粘質砂
6褐色粘土ブロック 7褐色粘質砂 8褐色粘质粗砂 9褐色粘质粗砂 10黄褐色粘质粗砂 11褐色粘质粗砂
12褐色粘土微砂 (1~8: E P30 9~12: S K38)
- E P41: 1褐色粘土微砂 2褐色粘质粗砂 3褐色粘土ブロック 4褐色地山ブロック 5褐色・黄褐色粘土ブロック
6黄褐色地山ブロック 7褐色粘质粗砂 8褐色粘土ブロック 9褐色地山ブロック 10黄褐色粘质砂 11褐色粘质砂
12褐色粘土ブロック 5褐色粘土ブロック 6褐色地山ブロック
- E P42: 1褐色粘土微砂 2褐色粘质粗砂 3褐色粘土ブロック 4褐色粘土ブロック 5褐色粘土ブロック
7褐色粘土ブロック 8褐色粘质粗砂 9褐色粘土ブロック 10褐色粘土ブロック 11褐色粘土ブロック 12褐色地山ブロック
- E P43: 1褐色粘土微砂 3褐色粘质粗砂 3褐色・暗褐色粘土ブロック 4褐色・暗褐色粘土ブロック 5褐色粘土ブロック
6黄褐色地山ブロック 7黒褐色粘质砂 8褐色・暗褐色粘土ブロック 9褐色粘土ブロック
- E P44: 1褐色粘土微砂 2褐色粘质粗砂 3褐色粘质砂 4褐色粘质砂 5褐色粘质砂
5 K45: 1褐色粘土微砂 2褐色粘质粗砂 3褐色粘质砂 4褐色粘质砂 5褐色粘质砂 6褐色粘质砂
7褐色粘土微砂 8褐色粘质砂 9褐色粘质砂 10褐色粘质砂 11褐色地山ブロック 12褐色粘质砂
13褐色粘质砂 14褐色粘质砂 15褐色粘质砂 15褐色粘质砂 16褐色粘质砂
- E P46: 1黄褐色地山ブロック尾 2褐色粘土ブロック 3褐色粘土ブロック 4褐色粘土ブロック 5褐色粘土ブロック
- E P47: 1褐色粘质砂 2褐色粘质砂 3褐色粘质砂 4褐色粘质砂 5褐色粘土ブロック 6褐色粘土ブロック
7褐色地山ブロック 8褐色・黄褐色粘土ブロック 9褐色粘土ブロック 10褐色粘质砂



第47図 台の上道路検出構造平面図、断面図(3) E P12、16~19



第48図 合の上遺跡出土遺構平面図、断面図(4) EP31~33、35~38

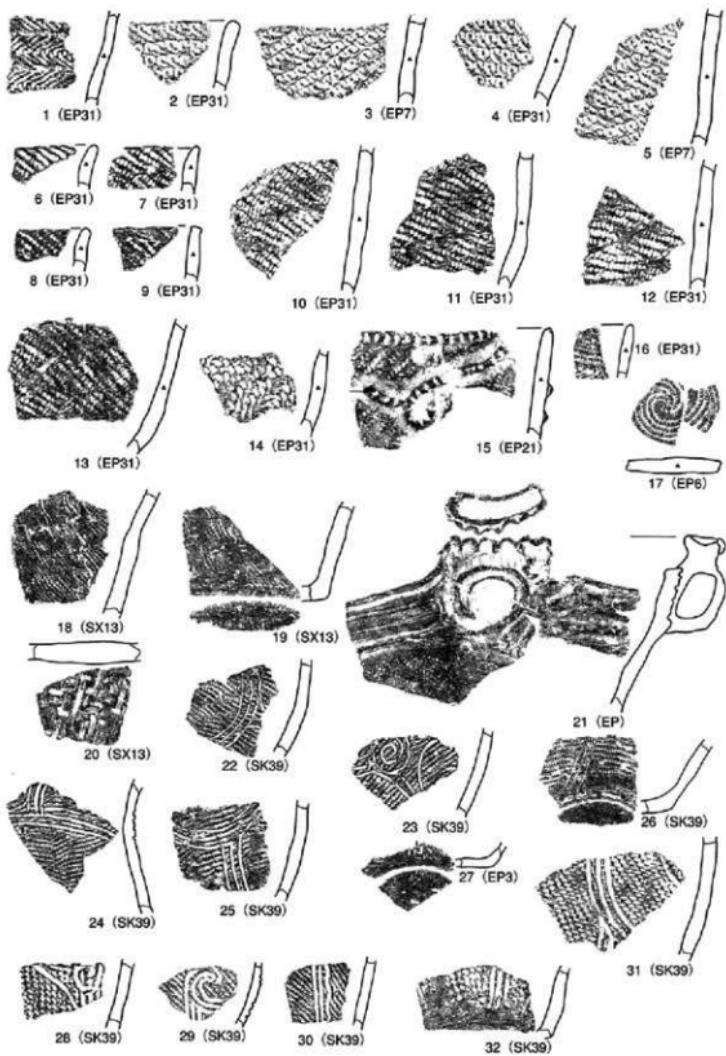


第49図 台の上遺跡検出遺構平面図、断面図(5) EP30, 41~46, 47・SK39, 45

(2) 出土遺物 (第50・51図 図版43・42)

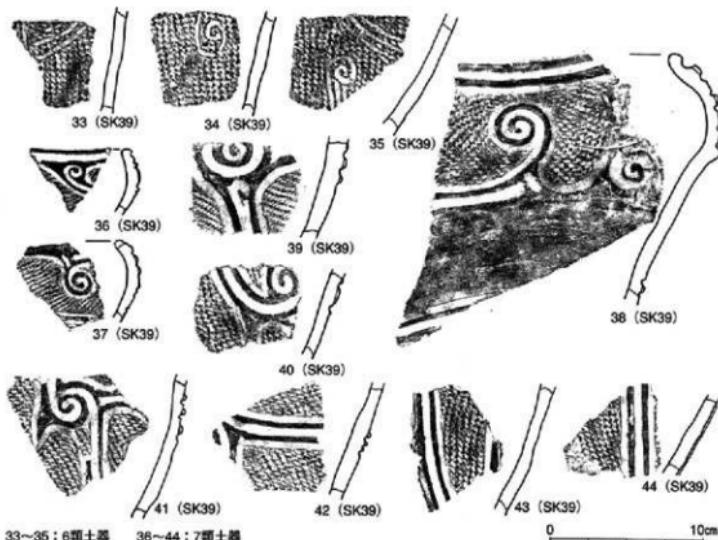
遺物はいずれも柱穴・土坑から出土し、土器は縄文時代前期と大半が中期で、石器は石鎌・石錐・凹石・石棒片などで中期に属している。土器の分類は、施文された文様の別によって行った。

- ・ 1類土器 (1~14) 地文を羽状縄文・閉端環付縄・斜行縄文の3種に分けられる。
 - 1 a類 (1) 羽状縄文の結束部を狭小な幅で施文 (結束部強調施文)、布目式に似た手法がとられ、O段多条の縄文である。
 - 1 b類 (2~5・14) 閉端環付縄を數十条にわたって重疊施文。2は口縁部が肥厚し無織維。環付縄を3~5条重層に施して山形文あるいは菱形文等の主文様を構成する (3・5)、重複して施文する (14) もある。2・4・14はO段多条の縄文である。
 - 1 c類 (6~13) 斜行縄文を施す一群である。6~9は口縁部が外反し口唇直下に幅の狭い縄文を施す。10~12は輪積痕を残すように押捺。13の胎土は褐色で砂粒を多く混入し (15) の胎土に近似する。いずれもRLの縄文を施す。
- ・ 2類土器 (15) 口唇部及び頸部に溝上の太い粘土紐を貼り付け、上端を竹管で刻目を施す。RL縄文を地文としている。
- ・ 3類土器 (16・17) 結節沈線で渦巻文等を描出、信州系の施文法の影響を受けている。17は底部を利用した円盤状土製品である。
- ・ 4類土器 (18~20) 細かい縄文を施す。18は底辺部で重複する継縫の結節縄文 (Z状) を縦位に施すLR縄文である。19はやや上底で、20は網代痕である。
- ・ 5類土器 (21) 口縁部に橋状把手を有し、上端に細かい波状の粘土紐を貼り付ける。口縁部に細い沈線で区画文を描出、頸部に地文を縄文とする。
- ・ 6類土器 (22~35) 沈線の施文原体によって2種に区分される。
 - 6 a類 (22~27) 細い沈線で主文様を渦巻文や懸垂文となる。器形は胴が膨らむキャリバー形土器で小形深鉢が多い。24は頭部付近、22・23・25は胴中半、26・27は底辺を丁寧に研磨調整を加え、27は上底となる。
 - 6 b類 (28~35) 主文様が6 a類と同様な構成で施文原体を太目の沈線で施す。胴中半が膨らむ (29・30) ものと直立する (33~35) ものがある。30はLP縄文で、28・31~35が複節の撚糸文が施文される。
- ・ 7類土器 (36~44) 薩摩線の測縄を竹管原体の背で調整し主文様が渦巻文などで構成する。38は口縁部が緩やかな波状を示し複節のRLR縄文を地文とし、文様描出後にLRL複節の縄文を充填している。頭部が良く研磨調整された無文帶で、2条の沈線で体部と区画する。36・37は口縁部、39~42は渦巻文を主とする胴部、43・44は(41)にみられるように縫の横円文が垂下する。36・37・39はLRの縄文、41はLRLの複節縄文で、40・43・44では撚糸文をそれぞれ施している。



1~14: 1類土器 15: 2類土器 16~17: 3類土器
18~20: 4類土器 21: 5類土器 22~32: 6類土器 ▲: 植物繊維を混入

第50図 台の上遺跡出土土器拓影図（1） 1~6類土器



33~35 : 6類土器 36~44 : 7類土器

第51図 台の上遺跡出土土器拓影図 (2) 6、7類土器

まとめ

発掘調査の結果、限られた範囲の調査にもかかわらず掘り方を持つ等の大型柱穴群に関しての貴重な資料が得られた。柱穴群や土坑は出土した土器から判断して縄文時代中期中葉（大木8b式期）に属する。柱穴群は、中には長軸がほぼ南北に約10mの長さで掘り方を持つ方形柱穴列もあるが、全体に地山層が削られ床面や炉跡が確認されてないが、長方形の大形堅穴住居跡などの柱穴を構成する可能性があることを指摘しておく。

最近は日本海側の新潟県を中心に、城之腰遺跡・五丁歩遺跡・清水上遺跡・和泉A遺跡等、中期前葉から中葉の掘立柱建物跡が伴う環状集落の類例が増え、堅穴住居跡・土坑・広場・遺物廃棄場所などの関連から集落の構成が明らかになりつつある。

出土した土器の縄年的な位置付けは前期と中期に分けられる。前期の1a・b類は、布目式の手法である結束部強調施文や閉端環付縄を重層する山形・菱形の文様が描出される。宮城県三神峯遺跡第Ⅲ層、福島県宮田貝塚Ⅲ群土器に類似し上川名式の新しい段階に位置づけられ、県内では米沢市松原遺跡、一ノ坂遺跡からも出土している。1c類は福島県獅子内遺跡の114住居跡に近似し大木2b式に、2類は大木5b式、3類は大木6式にそれぞれ比定される。中期の4類は大木7a式、5類が8a式、6・7類では宮城県小梁川遺跡等の大木8b式の2～3段階に位置付けられよう。



遺跡遠景（北から・西には旧羽州街道の下宿を、後方は南蔵王連邦を望む）



調査区近景（南東から）



調査区近景（北西から）



遺構検出状況（南から）



遺構検出状況（東から）

図版36 台の上遺跡（1）



EP 1 (南西から)



EP 1 土層断面 (西から)



EP 2 (北から)



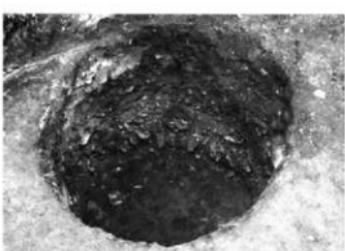
EP 2 土層断面 (南から)



EP 3 (西から)



EP 3 土層断面 (南から)

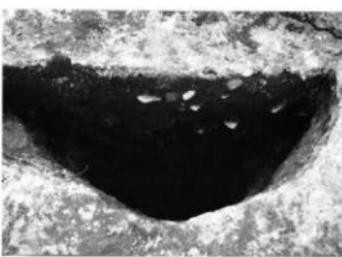


EP 6 (南から)



EP 9 土層断面 (西から)

図版37 台の上遺跡 (2)



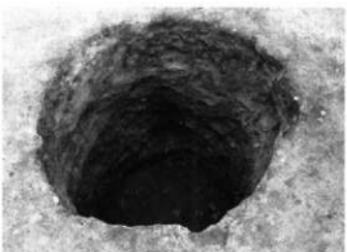
E P 7 土層断面（西から）



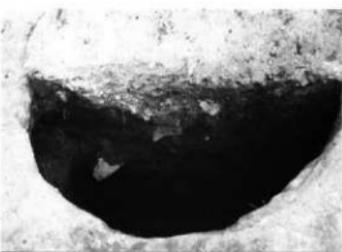
E P 7、8、34（南から）



E P 34 土層断面（南西から）



E P 11（西から）



E P 11 土層断面（南西から）

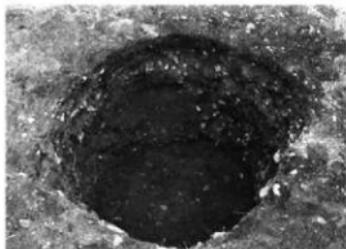


E P 12（西から）



E P 12 土層断面（南から）

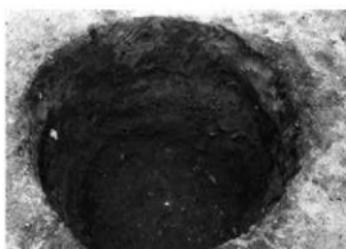
図版38 台の上遺跡（3）



E P 16 (北東から)



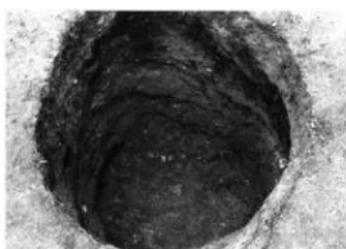
E P 16 土層断面 (西から)



E P 17 (北から)



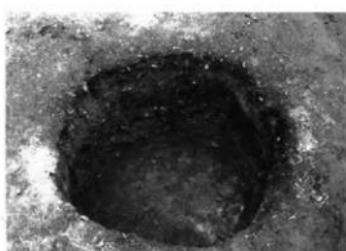
E P 17 土層断面 (北から)



E P 18 (南西から)



E P 19 (北東から)

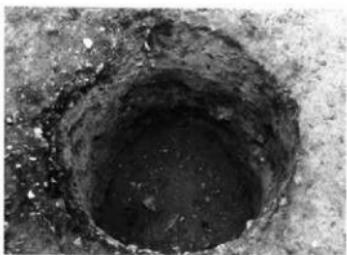


E P 20 (西から)

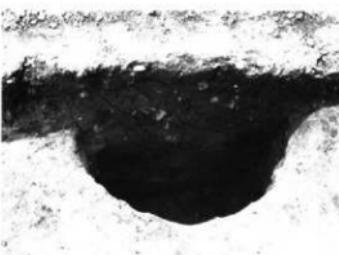


E P 21 (北から)

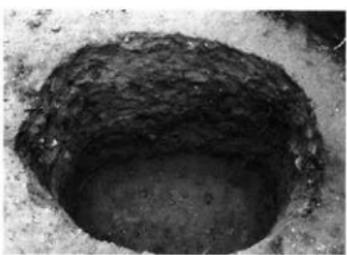
図版39 台の上遺跡 (4)



E P 27 (南から)



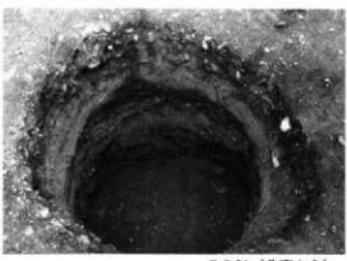
E P 28 土層断面 (北から)



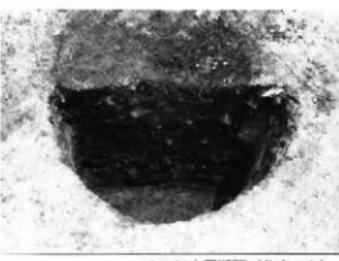
E P 29 (南西から)



E P 29 土層断面 (南西から)



E P 31 (北東から)



E P 31 土層断面 (北東から)



E P 32 土層断面 (北から)

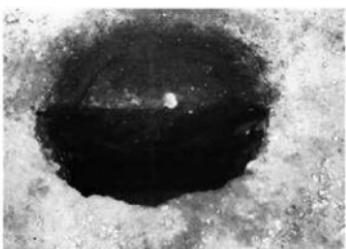


E P 35 土層断面 (北から)

図版40 台の上遺跡 (5)



E P 33 (北東から)



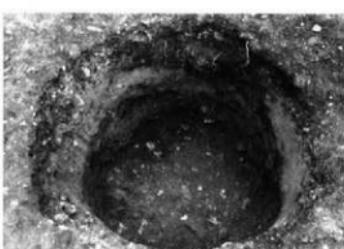
E P 33土層断面 (南西から)



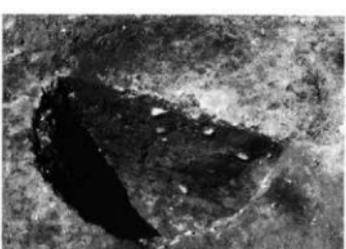
E P 36 (南から)



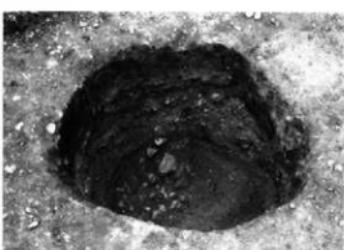
E P 36土層断面 (西から)



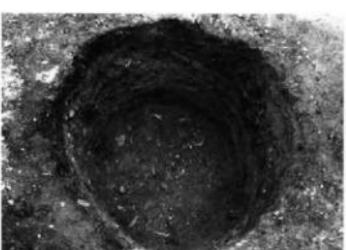
E P 38 (南から)



E P 38土層断面 (南から)



E P 37 (北から)

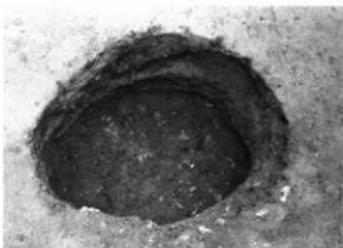


E P 41 (北東から)

図版41 台の上遺跡 (6)



E P 42 (南西から)



E P 43 (北東から)



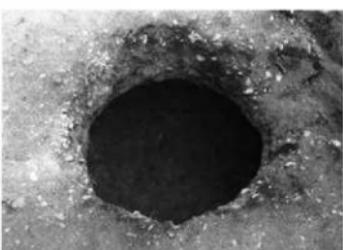
E P 44 (北から)



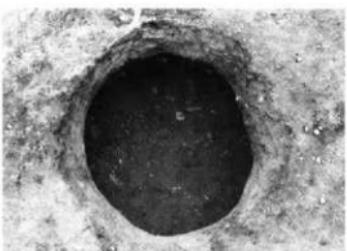
E P 46土層断面 (北から)



E P 47 (北から)



S K 24 (南から)

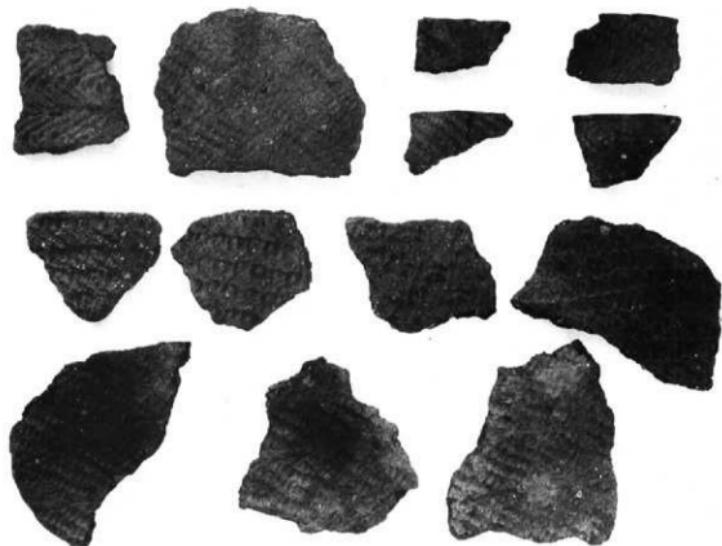


S K 39 (南から)

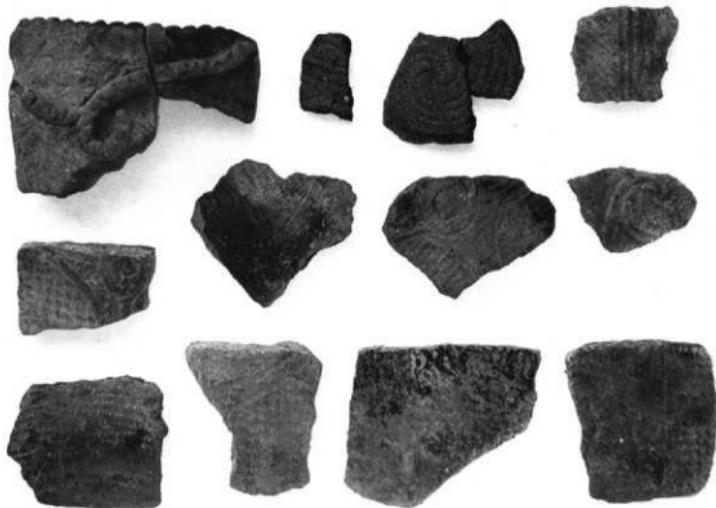


S K 45 (東から)

図版42 台の上遺跡 (7)



出土土器（1類）



出土土器（2・3・5類）

図版43 台の上遺跡（8）



出土土器（6類）



出土土器（4・6類）

図版44 台の上遺跡（9）

III まとめ

1 調査遺跡について

平成14年度の調査遺跡数は51ヶ所である。この他、平成13年度までに抽出していたものを含め12ヶ所の遺跡可能性地の試掘調査も実施したが、これらは埋蔵文化財包蔵地とはならなかった。

2 新規登録遺跡および記載事項変更遺跡、登録抹消遺跡

県教委で平成14年度に発見し登録した遺跡は13ヶ所である。また、国等の機関や市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出で平成12年度の情報システム整備以降に登録した新発見遺跡は15ヶ所である。また、調査によって記載事項の変更が必要となった遺跡は8ヶ所で、登録を抹消した遺跡は1ヶ所である。これらは以下のようにまとめられる。

(1) 県教育委員会が発見し登録した遺跡

(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時代)
1 上野遺跡	最上郡鮭川村大字京塚字上野	集落跡	绳文時代
2 小平2遺跡	飽海郡八幡町一条字小平	集落跡	平安時代
3 小平3遺跡	飽海郡八幡町一条字小平	集落跡	平安時代
4 小平4遺跡	飽海郡八幡町一条字小平	集落跡	绳文時代
5 茗ヶ山遺跡	飽海郡松山町大字茗ヶ沢字茗ヶ山	集落跡	绳文・平安時代
6 滝ノ沢山遺跡	最上郡真室川町大字大沢字滝ノ沢山	集落跡	绳文時代
7 胡桃平I遺跡	西置賜郡小国町大字大石沢字胡桃平	散布地	绳文時代
8 胡桃平II遺跡	西置賜郡小国町大字大石沢字胡桃平	散布地	绳文時代
9 赤松遺跡	西田川郡温海町大字戸沢字赤松	散布地	绳文時代
10 西向遺跡	鶴岡市大字中山字西向	集落跡	绳文時代
11 下中田遺跡	最上郡金山町大字中田字下中田	散布地	绳文時代
12 地坂台遺跡	最上郡金山町大字中田字地坂台	集落跡	绳文時代
13 百刈田遺跡	南陽市鳥貫字百刈田	集落跡	绳文・古墳 奈良・平安時代

(2) 国等の機関、市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出で登録した遺跡

平成12年度

(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時代)
14 金井上遺跡	東置賜郡高畠町大字下和田2357-1他	包蔵地	绳文 奈良・平安時代
15 中屋敷遺跡	南陽市若狭郷屋字中屋敷495-7他	散布地	奈良・平安時代

(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時代)
16 堀端遺跡	長井市中道一丁目地内	集落跡	奈良・平安時代
17 狐塚遺跡	東置賜郡高畠町大字根岸字狐塚244他	包蔵地	古墳
			奈良・平安時代
18 亀岡町裏遺跡	東置賜郡高畠町	包蔵地	奈良・平安時代
平成13年度			
(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時代)
19 堀切遺跡	長井市館町南3949-1他	集落跡	奈良・平安時代
20 上谷柏遺跡	山形市大字谷柏元谷柏字石田	集落跡	平安時代
21 泉森窯跡	酒田市大字生石字泉森	生産跡	平安時代
22 板ノ下遺跡	酒田市大字生石字板ノ下	集落跡	平安時代
23 橋越式遺跡	東置賜郡高畠町大字福沢字橋越式696	包蔵地	绳文時代
24 福沢式遺跡	東置賜郡高畠町大字福沢字福沢式587	包蔵地	绳文時代
平成14年度			
(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時代)
25 七曲遺跡	東村山郡山辺町大字根際字七曲538-2	集落跡	古墳時代
26 松程新田遺跡	西村山郡朝日町大字松程1337	散布地	绳文時代
27 八丁平遺跡	山形市大字閑沢字桂沢	散布地	绳文時代
28 南志田遺跡	山形市大字漆山字南志田、大段	集落跡	平安時代

(3) 範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡

(遺跡名)	(変更内容)	(変更を必要とする文献名)
29 小反遺跡	範囲の修正	平成15年3月『分布調査報告書(29)』
30 大隅遺跡	範囲の修正	平成15年3月『分布調査報告書(29)』
31 戸沢遺跡	位置の訂正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』
32 下川原遺跡	範囲の修正	平成8年3月『分布調査報告書(23)』
33 西中上遺跡	範囲の修正	平成9年3月『分布調査報告書(24)』
34 六角壇遺跡	範囲の修正	平成7年3月『分布調査報告書(22)』
35 上野遺跡	範囲の修正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』 (山形市委からの通知)
36 高巣遺跡	名称の訂正	空沢遺跡(訂正後) 平成元年3月『分布調査報告書(16)』
37 川越石土壙	登録の抹消	平成12年3月『分布調査報告書(26)』



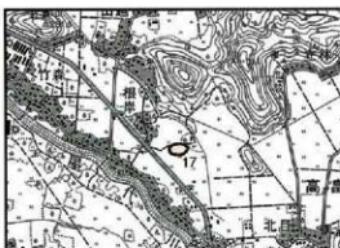
金井上遺跡



中屋敷遺跡



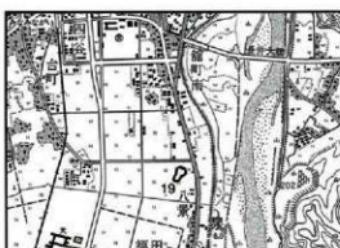
鶴舞遺跡



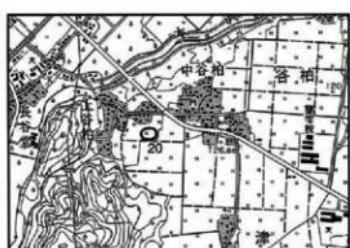
狹寺遺跡



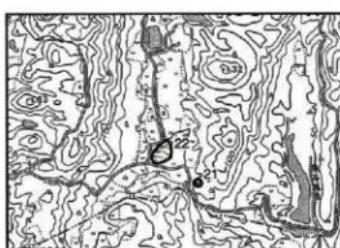
亀岡町裏遺跡



堀切遺跡

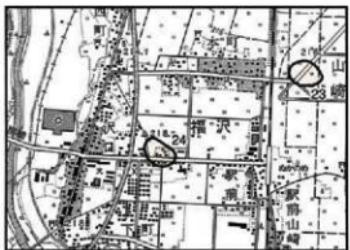


上谷柏遺跡

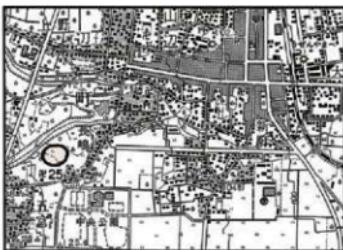


泉森窯跡、坂ノ下遺跡

第52図 新規登録遺跡位置図（1）



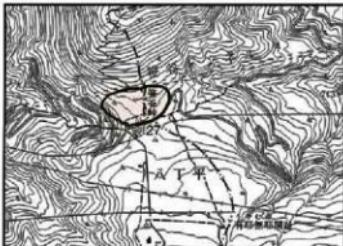
桶越式遺跡、桜沢式遺跡



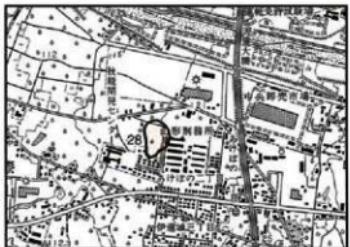
七曲遺跡



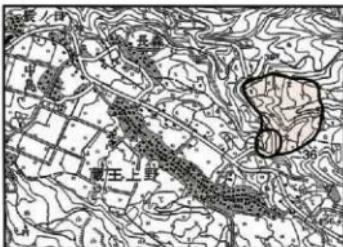
松程新田遺跡



八丁平遺跡



南志田遺跡



上野遺跡

表一四 掘載遺跡位置図使用図幅一覧（2万5千分の1）

No	遺跡名	図幅名	No	遺跡名	図幅名
1	鶯畠B	羽黒山	34	小平3	羽後觀音寺
2	日塔B	楯岡	35	小平4	羽後觀音寺
3	塔塚	楯岡	36	茗ヶ山	余目
4	女五郎清水	楯岡	37	流ノ沢山	大沢
5	箕輪上屋敷	寒河江	38	北向	山形北部
6	宮山坂F	吹浦	39	梅野木前1	山形北部
7	玉虫沼B	宮宿	40	高瀬山	寒河江
8	蓮台寺	山形北部	41	西向	三瀬
9	大隅	宮宿	42	高藏	羽前上郷
10	荒砥城	荒砥	43	坂台	及位
11	今泉金山窯	羽前小松	44	鶴ノ木館	赤湯
12	蛇崩窯	羽前小松	45	百刈田	赤湯
13	源徳原館	羽前小松	46	六角壇	赤湯
14	胡桃平I	叶水	47	西中上	赤湯
15	胡桃平II	叶水	48	若宮	山形北部
16	戸沢	山五十川	49	台の上	上山
17	赤松	山五十川	50	金井上	糠野目
18	大明神	山形北部	51	中屋敷	赤湯
19	横手区	山形南部	52	堀端	長井
20	山形城三の丸	山形南部	53	狐塚	赤湯
21	赤森山	尾花沢	54	亀岡町裏	糠野目
22	由良館	三瀬	55	堀切	長井
23	山形城三の丸	山形南部	56	上谷柏	山形南部
24	下窪	米沢	57	泉森窯	余目
25	下河原	尾花沢	58	坂ノ下	余目
26	新及位	及位	59	樋越式	糠野目
27	高堂館	及位	60	福沢式	糠野目
28	下中田	及位	61	七曲	山形北部
29	下叶水	叶水	62	松程新田	太郎、宮宿
30	川越石土壇	米沢東部	63	八丁平	笠谷峰
31	小反	羽根沢温泉	64	南志田	山形北部
32	上野	羽根沢温泉	65	上野	山形南部
33	小平2	羽後觀音寺			

報告書抄録

書名	分布調査報告書(30)							
副書名								
卷次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第204集							
編著者名	渋谷孝雄 名和達朗 佐藤正俊 長橋至							
編集機関	山形県教育委員会							
所在地	990-8570 山形県山形市松波二丁目8番1号 TEL 023-630-2878							
発行年月日	西暦 2004年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
若宮	山形県山形市 大字灰塚 字若宮	06201	平成13年度登録	38度19分45秒	140度11分02秒	20010718~20010725	780	須川下流部河川改修
台の上	山形県上山市 大字植下 字平林	06207	215	38度05分30秒	140度27分00秒	20020521~20020625	1,840	主要地方道上山七ヶ宿線道路改良
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
若宮	集落跡	奈良時代	掘立柱建物跡2 掘立柱列1 土坑1	土師器壺3 須恵器壺破片		8世紀後半の掘立柱建物からなる集落で堅穴を欠く。須川の川縁に立地することから舟運に関わる遺跡の可能性が高い。		
台の上	集落跡	縄文時代	大形柱穴35基 小形柱穴4基 袋状土坑3	縄文土器 (上川名式、大木2b式、大木5b式、大木6式、大木7a式、大木8a式、大木8b式) 石鎌、石錐、凹石		遺跡は過去の耕地整理で大きく削平を受けている。炉跡や床面も失われているが、大形柱穴群は大形堅穴住居を構成するものと考えられる。		

山形県埋蔵文化財調査報告書第204集
分 布 調 査 報 告 書 (30)

平成 14 年度以降農林土木事業他関係遺跡
國 土 交 通 省 事 業 関 係 遺 跡
東 北 中 央 自 動 車 道 関 係 遺 跡

平成 16 年 3 月 25 日 印 刷

平成 16 年 3 月 31 日 発 行

発 行 山形県教育委員会

印 刷 山形印刷株式会社
